

台東区みどりの実態調査 報告書

2019年（平成31年）3月

台東区

目 次

第 1 章	調査の概要	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査対象区域	1
1.3	調査項目及び手順	3
1.3.1	調査項目	3
1.3.2	調査のながれ	3
1.3.3	調査内容	4
第 2 章	台東区の緑を取り巻く環境	9
2.1	自然的条件	9
2.1.1	位置	9
2.1.2	面積	9
2.1.3	地形	10
2.1.4	地質	10
2.2	社会的条件	11
2.2.1	人口及び人口密度	11
2.2.2	事業所数	13
2.2.3	地域特性	15
第 3 章	緑被地の抽出	17
3.1	基本的な考え方	17
3.2	調査項目	17
3.3	NDVI による抽出方法	18
3.4	目視判読の方法	18
第 4 章	緑被率調査	25
4.1	調査方法	25
4.2	調査結果	25
4.2.1	緑被の現況	25
4.2.2	ゾーン別の緑被状況（緑被率・みどり率）	29
4.2.3	土地利用区分別の緑被状況	42
4.2.4	用途地域別の緑被状況	44
4.2.5	公共性が高い施設の緑被状況	45
4.2.6	緑被状況の推移	45
第 5 章	樹林調査	47

5.1	調査方法	47
5.2	調査結果	47
5.2.1	樹林の規模と分布状況	47
5.2.2	樹林の土地利用	50
5.2.3	ゾーン別の樹林状況	51
5.2.4	樹林の現地調査	53
第6章	屋上緑化調査	55
6.1	調査方法	55
6.2	調査結果	55
6.2.1	屋上緑化の現況	55
6.2.2	ゾーン別の屋上緑化状況	58
第7章	公遊園等調査	59
7.1	調査方法	59
7.2	調査結果	59
7.2.1	公遊園等の現況	59
7.2.2	ゾーン別の公遊園等の状況	63
第8章	樹木（大径木）調査	65
8.1	調査方法	65
8.1.1	調査対象	65
8.1.2	調査のながれ	65
8.1.3	調査項目	66
8.2	調査結果	66
8.2.1	樹木（大径木）の現況	66
8.2.2	ゾーン別の樹木数	69
8.2.3	土地利用区分別の樹木数	70
8.2.4	用途地域別の樹木数	72
8.2.5	施設別の樹木数	73
8.2.6	樹木（大径木）数の推移	74
8.2.7	民有地の樹木（大径木）数の推移	77
第9章	保護樹木・保護樹林調査	79
9.1	調査方法	79
9.1.1	調査対象	79
9.1.2	調査のながれ	79
9.1.3	調査項目	79
9.2	調査結果	80
9.2.1	保護樹木等の現況	80

9.2.2	ゾーン別の保護樹木数・保護樹林箇所数	88
9.2.3	健康度の状況	90
9.2.4	保護樹木数の推移	92
第10章	壁面緑化調査	93
10.1	調査方法	93
10.1.1	調査対象	93
10.1.2	調査のながれ	93
10.1.3	調査項目	94
10.2	調査結果	94
10.2.1	壁面緑化の現況	94
10.2.2	ゾーン別の壁面緑化の状況	100
10.2.3	壁面緑化の推移	102
第11章	生垣等調査	103
11.1	調査方法	103
11.1.1	調査対象	103
11.1.2	調査のながれ	103
11.1.3	調査項目	104
11.2	調査結果	104
11.2.1	生垣等の現況	104
11.2.2	ゾーン別の生垣等の状況	110
11.2.3	生垣の推移	112
第12章	街路樹等調査	113
12.1	調査方法	113
12.2	調査結果	113
12.2.1	道路の緑被率	113
12.2.2	街路樹	114
12.2.3	歩道植樹帯の状況	118
12.2.4	ポケットパークの状況	119
第13章	緑視率調査	121
13.1	調査方法	121
13.2	調査結果	123
13.2.1	各地点の緑視率	123
13.2.2	各地域の緑視率	124

各種分布図

第1章 調査の概要

1.1 調査の目的

みどりは、地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和、自然環境の保全、良好な都市景観の形成など、様々な役割を果たしている。本調査は、みどりの現況・推移等を把握し、今後の緑化施策の基礎資料とするため、みどりの実態調査を実施したものである。

1.2 調査対象区域

調査対象区域は台東区全域（10.08 km² ※）である。調査結果をとりまとめる基本単位として、表 1.1 及び図 1.1 に示す 19 箇所のゾーンを設定した。

表 1.1 調査結果をとりまとめる基本単位（ゾーンと町丁目の対応）

ゾーン番号	ゾーン名	該当する町丁名
1	浅草橋	浅草橋1～5、柳橋1～2、蔵前1
2	台東	台東1～4
3	蔵前	蔵前2～4、三筋1～2、鳥越1～2、小島1～2
4	寿	寿1～4、元浅草1～4、駒形1～2
5	西浅草	西浅草1～3、松が谷1～4
6	浅草南	浅草1～2、雷門1～2、花川戸1～2
7	浅草北	浅草3～6
8	今戸	今戸1～2、浅草7、東浅草1
9	清川	清川1～2、日本堤1～2、橋場1～2、東浅草2
10	千束	千束3～4、三ノ輪1～2、竜泉3
11	竜泉	竜泉1～2、千束1～2、入谷1～2
12	根岸	根岸1～5、下谷2～3
13	谷中東	谷中7、上野桜木1～2
14	谷中西	谷中1～6、池之端3～4
15	上野	上野1～6、秋葉原
16	東上野	東上野1～3
17	北上野	北上野1～2、東上野4～6、上野7、下谷1
18	池之端	池之端1～2
19	上野公園	上野公園

※本報告書における区面積は、原則として平成28年度土地利用データによる。そのため、国土地理院による公表面積（10.11 km²）とは異なる。



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

図 1.1 ゾーンの位置

1.3 調査項目及び手順

1.3.1 調査項目

本調査における調査項目を以下に示す。

- | | | |
|------------|---------------|-----------------|
| (1) 緑被率調査 | (2) 樹林調査 | (3) 屋上緑化調査 |
| (4) 公遊園等調査 | (5) 樹木(大径木)調査 | (6) 保護樹木・保護樹林調査 |
| (7) 壁面緑化調査 | (8) 生垣等調査 | (9) 街路樹等調査 |
| (10) 緑視率調査 | | |

1.3.2 調査のながれ

本調査における調査のながれを図 1.2 に示す。

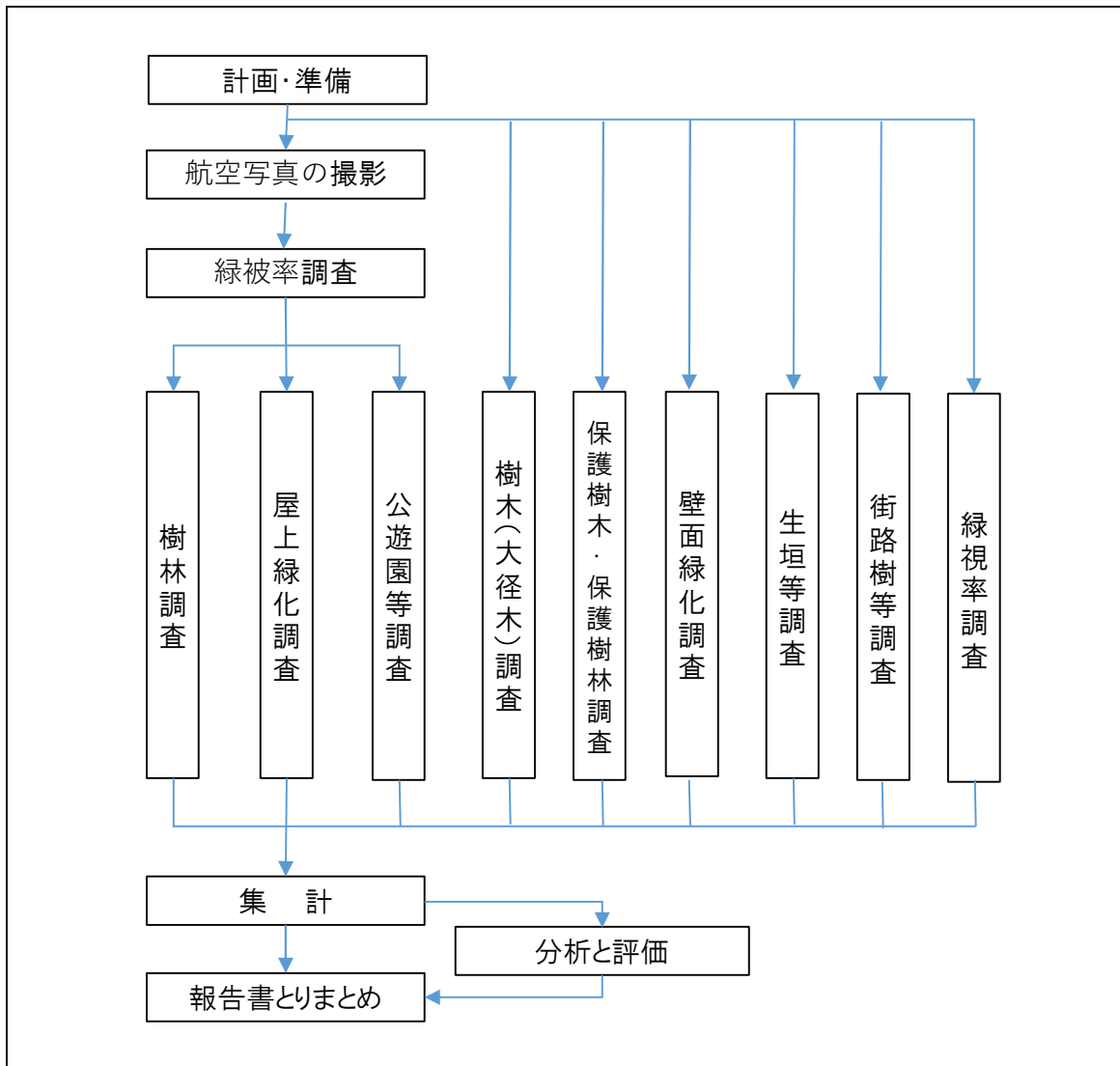


図 1.2 調査のフロー図

1.3.3 調査内容

本調査における調査内容を、調査項目ごとに以下に示す。
 本調査で使用した航空写真及びデジタルオルソについては、次のとおりである。

(1) 航空写真の撮影及びデジタルオルソの作成

1) 航空写真撮影

以下の条件（表 1.2）で航空写真撮影を実施した。図 1.3 に撮影位置図を示す。

表 1.2 航空写真撮影概要

項目	内容
計測機器	デジタル航空カメラ UC-Xp-wa-40618056 焦点距離 70.5 mm
撮影範囲	台東区全域
撮影日	平成 30 年 7 月 1 日
撮影重複度	オーバーラップ 80%、サイドラップ 60%
地上解像度	16 cm
地上検証点	5 点
取得画像データ	RGB(カラー)/NIR(近赤外線)同時取得

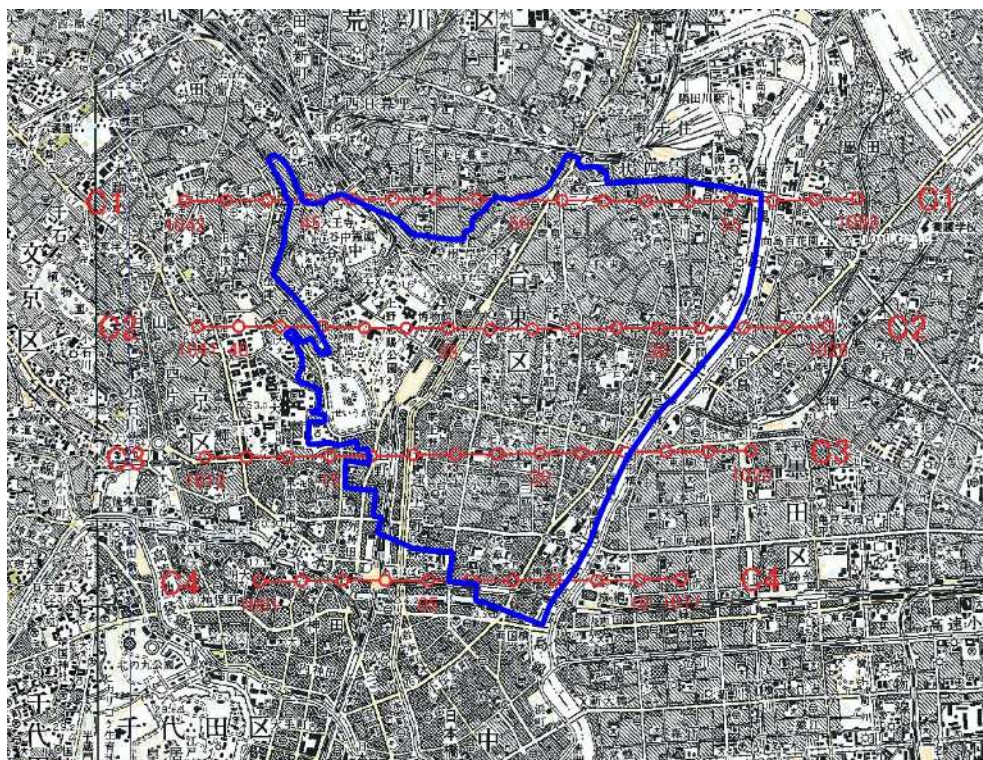


図 1.3 航空写真撮影位置図

2) デジタルオルソの作成

航空写真撮影により取得した画像に、正射投影変換処理（オルソ処理）を行い、図郭単位で以下の 2 種類のデジタルオルソを作成した。

① カラーデジタルオルソ

上空から撮影した画像に対して地形の歪を補正し、地形図と整合するように調整した画像である。

② 近赤外デジタルオルソ

近赤外、可視領域赤、可視領域緑の波長帯で撮影した画像を、近赤外を赤、緑色を青に発色させた組み合わせの画像である。

植物の分布域が赤色で強調され、植生調査によく用いられる。



図 1.4 カラーデジタルオルソ画像（RGB）と近赤外デジタルオルソ画像（NIR）の例

(2) 緑被率調査

表 1.3 に示す内容について調査を行った。

表 1.3 緑被率調査内容

調査対象	台東区全域(抽出精度:1m ² 以上)
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルオルソ画像データ及び収集資料を用いて緑被等を求積し、緑被率、みどり率を算出 ・ ゾーン別、土地利用別、公共施設別に集計
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ①樹木被覆地(樹木・樹林の樹冠投影面積) ②草地(公園や広場などの草本類による緑化地) ③屋上緑化(屋上、テラスなどの人工地盤上の緑化地) ④裸地(植生のない未舗装地。主として公園内の土裸地、未舗装の駐車場 等) ⑤水面(河川、池などの水面) ⑥建物・道路 ⑦公園

(3) 樹林調査

表 1.4 に示す内容について調査を行った。

表 1.4 樹林調査内容

調査対象	列状の樹林を除いた 100 m ² 以上の樹林
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空写真により所在地の確認と樹林面積を計測 ・ 土地利用別、ゾーン別に集計 ・ 300 m² 以上の樹林について、現地調査
調査項目	①所在地、②樹林面積、③現地調査(管理者、樹林の状況、管理の状況)

(4) 屋上緑化調査

表 1.5 に示す内容について調査を行った。

表 1.5 屋上緑化調査内容

調査対象	建築物の屋上やベランダ、テラスの部分に設置された 1 m ² 以上の植栽
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空写真により抽出された屋上緑化の所在地の確認と緑化面積計測 ・ 規模別、ゾーン別に集計 ・ 現地調査を 3 箇所実施
調査項目	①所在地、②緑化面積、③現地調査(管理者等、屋上緑化の状況、管理の状況)

(5) 公遊園等調査

表 1.6 に示す内容について調査を行った。

表 1.6 公遊園等調査内容

調査対象	公園、児童遊園、防災広場等
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空写真により抽出された樹木被覆地等データから、各公園等の敷地面積、樹木被覆地・草地・裸地・水面の各面積と面積割合、ゾーン別の箇所数と 1 人あたりの公遊園面積を算出
調査項目	①所在地、②樹木被覆地・草地・水面の面積、③緑被率

(6) 樹木（大径木）調査

表 1.7 に示す内容について調査を行った。

表 1.7 樹木（大径木）調査内容

調査対象	前回調査において、大径木だった樹木と新たに大径木に該当する樹木
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回調査で大径木と確認した樹木の追跡調査を実施 ・ 区内全域を調査し、新たに大径木に該当する樹木の調査を実施
調査項目	①調査木の有無、②樹種、③幹周、④樹高、⑤生育場所、⑥健康度(樹形、葉の付き具合、幹肌)
調査期間	平成 30 年 6 月 4 日から 9 月 18 日まで

(7) 保護樹木・保護樹林調査

表 1.8 に示す内容について調査を行った。

表 1.8 保護樹木・保護樹林調査内容

調査対象	保護樹木として指定している樹木(つる性植物含む)及び保護樹林として指定している樹林
調査方法	・ 保護樹木台帳(つる性植物、保護樹木含む)をもとに、現況調査を実施
調査項目	①保護樹木・保護樹林の有無、②幹周、③樹高、④健康度、⑤管理状況
調査期間	平成 30 年 7 月 5 日から 9 月 6 日まで

(8) 壁面緑化調査

表 1.9 に示す内容について調査を行った。

表 1.9 壁面緑化調査内容

調査対象	前回調査において、壁面緑化であった箇所と新たに壁面緑化に該当する箇所
調査方法	・ 前回調査で壁面緑化であった箇所の調査を実施 ・ 区内全域を調査し、新たに該当する壁面緑化の調査を実施
調査項目	①所在地、②土地利用形態、③樹種、④壁面緑化面積(高さ、幅)、 ⑤形態(登はん型、下垂型、壁前植栽等)、⑥健康度、⑦管理状況、 ⑧密度、⑨所有者・管理者
撮影期間	平成 30 年 7 月 11 日から 10 月 4 日まで

(9) 生垣等調査

表 1.10 に示す内容について調査を行った。

表 1.10 生垣等調査内容

調査対象	前回調査において、生垣等であった箇所と新たに生垣、地先緑化に該当する箇所
調査方法	・ 前回調査で生垣等であった箇所の追跡調査を実施 ・ 区内全域を調査し、新たに該当する生垣、地先緑化の調査を実施
調査項目	①所在地、②土地利用形態、③樹種、④面積(高さ、幅)、 ⑤形態(生垣、地先緑化)、⑥健康度、⑦管理状況、⑧密度、⑨所有者・管理者
調査期間	平成 30 年 7 月 11 日から 10 月 4 日まで

(10) 街路樹等調査

表 1.11 に示す内容について調査を行った。

表 1.11 街路樹等調査内容

調査対象	区道、都道及び国道の街路樹及び植樹帯、植込地(中・低木)等
調査方法	・「緑被率調査」の結果及び街路樹台帳等の既存資料の収集・整理を行い、樹種、幹周、本数、植樹帯・植込地の管理面積について、管理区分別に集計
調査項目	①樹種、②幹周、③本数、④植樹帯・植込地の管理面積

(11) 緑視率調査

表 1.12 に示す内容について調査を行った。

表 1.12 緑視率調査内容

調査対象	台東区全域
調査方法	・ 選定した調査地点(57箇所)をデジタルカメラで撮影し、緑視率を算出
調査項目	①区内55箇所及びイベント2箇所の緑視率 ②区域別の緑視率
調査期間	平成30年6月30日～9月19日

第2章 台東区の緑を取り巻く環境

2.1 自然的条件

2.1.1 位置

台東区は、東京都23区の都心部東寄りに位置し、東は隅田川を境界に墨田区に、西は文京区に、北は荒川区に接している。また、南は神田川の一部を境界として中央・千代田両区と接している。

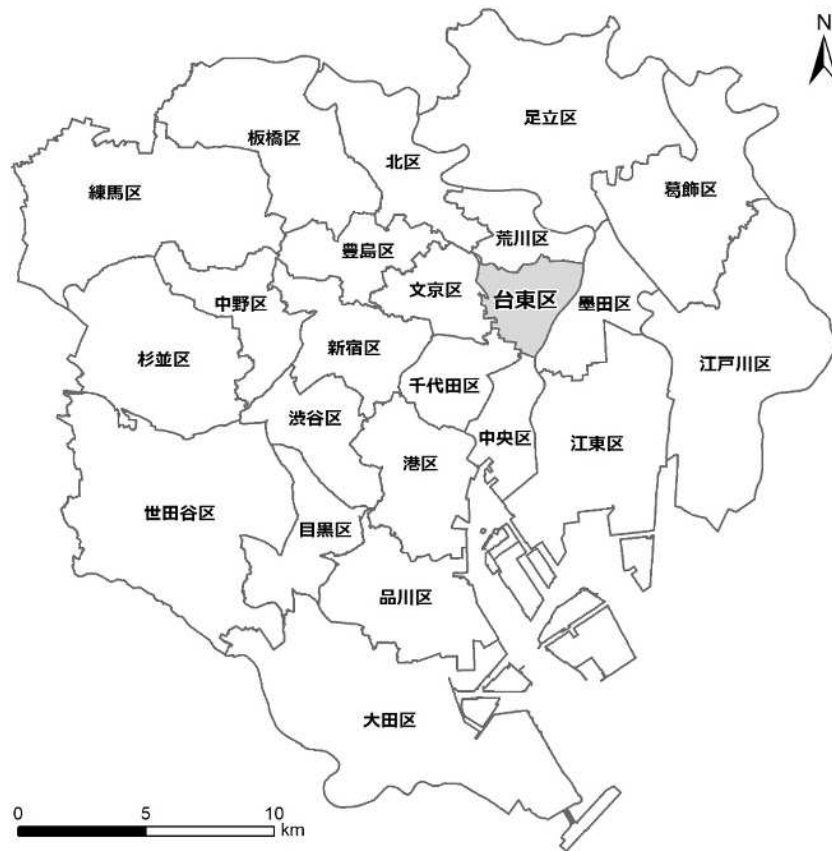


図 2.1 台東区の位置

2.1.2 面積

本区的面積は、23区内でもっとも小さく 10.08 km^2 (公表値 10.11 km^2) である。これは東京都総面積の 0.46% に相当し、区部総面積の 1.61% を占めている (平成31年1月1日現在)。

なお、これ以降報告書の表等に記載される面積と面積にかかる割合は、表に計上されない端数を有している。そのため、表等における数値及び合計値は必ずしも一致しない。

2.1.3 地形

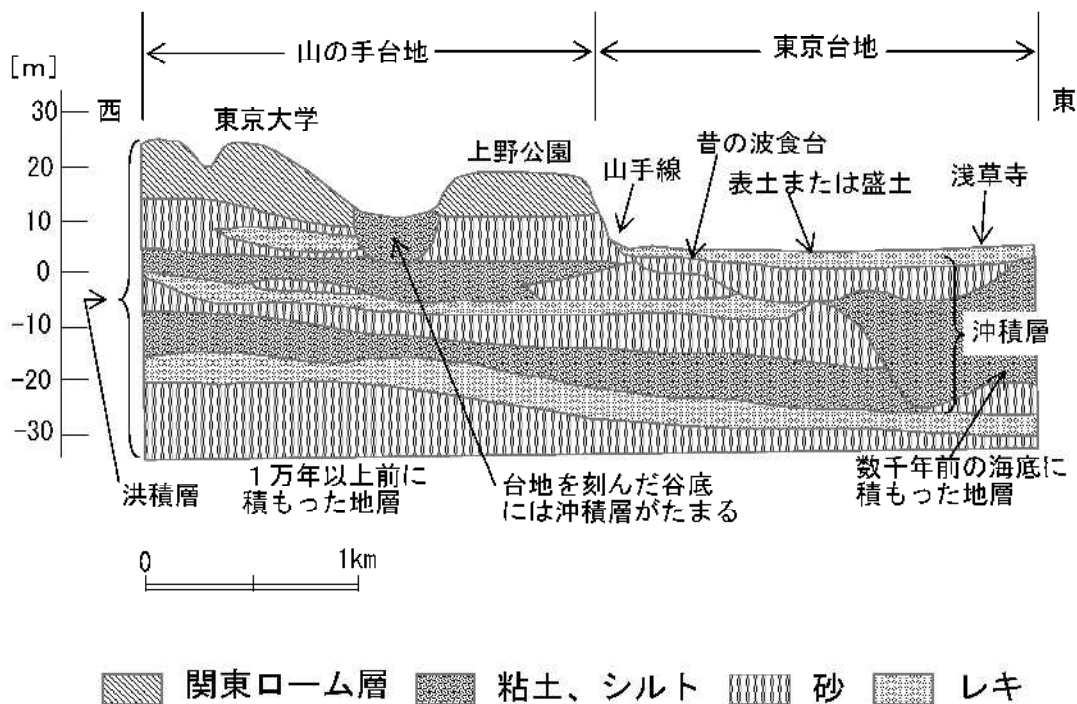
本区の地形は、上野・谷中の高台と下谷・浅草の低地に大別される。概ね JR 山手線の内側が台地面となり、外側が低地面となっている。広域的に見ると、上野・谷中の高台は武蔵野台地の東端に位置し、皇居や本郷（湯島）台とともに、武蔵野台地の分支台を形成している。さらに、この高台の西側は不忍池につづく根津谷が南北方向に伸びながら低地を形成し、この谷の中心の旧藍染川が文京区との境界になっている。下谷・浅草の低地面の大部分は河川の運搬土砂によって形成されたもので、ほとんど起伏がない平地となっている。本区の平均的な標高は、台地面で 15～20 m、低地面で 1～5 m 位である。

2.1.4 地質

本区の地質は、地形と同様に台地面（図 2.2 中の山の手台地）と低地面（図 2.2 中の東京台地）を成層する 2 種類に分けることができる。台地面の地質は第三紀層の上にできた洪積層であり、低地面は河川の運搬した土砂が堆積してできた沖積層が主体である。

本区における洪積層の地質は良好で、特に台地面の上部に累堆する関東ローム層は小孔隙に富み、多量の水分を含むことができる。それと同時に透水性（水はけ）が良いため、植物の生育に非常に適している。

これに対して低地面を構成している沖積層は、泥質あるいは粘土質であるため、軟弱で栄養に乏しく水はけが悪く、植物の生育にはそれほど適していない。



資料：上野公園物語（（財）東京都公園協会）

図 2.2 地形断面と地質

2.2 社会的条件

2.2.1 人口及び人口密度

本区の世帯数、人口及び人口密度を表 2.1 に示す。本区の人口は、平成 31 年 1 月 1 日現在で 199,292 人である（うち外国人 15,433 人）。前回調査時（平成 23 年 1 月 1 日）の人口は 168,396 人であったため、8 年間で 30,896 人増加している。平成 25 年以降は外国人も集計しているが、日本人のみの人口の比較でもこの間に 15,463 人増加している。

また、住民基本台帳をもとに集計した平成 31 年 1 月（一部は平成 30 年 12 月）現在における特別区内の人口密度を見ると、台東区は 197.1 人/ha で、23 区中 5 位となっている。隣接する荒川区は 3 位（212.6 人/ha）、墨田区は 4 位（197.4 人/ha）、文京区は 6 位（196.2 人/ha）であり、台東区を含む周辺地域は特別区内でも非常に人口が過密な地域であるといえる。

ゾーン別に人口を見ると、根岸が 18,752 人で最も多く、次いで清川（18,481 人）、蔵前（16,685 人）の順となっており、最も少ないのは上野公園で 245 人である。人口密度では、竜泉が 339.4 人/ha で最も高く、次いで西浅草（295.1 人/ha）、根岸（280.6 人/ha）の順となり、最も低いのは上野公園で 3.0 人/ha となっている。

表 2.1 ゾーン別の人口及び人口密度

ゾーン No.	ゾーン名	面積 (ha)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)
1	浅草橋	61.90	7,436	11,714	189.2
2	台東	38.01	5,307	8,454	222.4
3	蔵前	60.56	10,015	16,685	275.5
4	寿	56.68	9,005	15,364	271.1
5	西浅草	55.77	9,681	16,459	295.1
6	浅草南	65.19	5,214	8,904	136.6
7	浅草北	49.49	7,597	13,129	265.3
8	今戸	49.58	3,763	6,698	135.1
9	清川	79.79	11,572	18,481	231.6
10	千束	49.29	8,342	13,176	267.3
11	竜泉	46.19	9,125	15,675	339.4
12	根岸	66.84	10,783	18,752	280.6
13	谷中東	44.48	1,800	3,430	77.1
14	谷中西	55.76	5,301	9,453	169.5
15	上野	37.65	1,781	2,651	70.4
16	東上野	26.34	2,500	3,851	146.2
17	北上野	68.50	7,629	12,797	186.8
18	池之端	13.69	1,864	3,374	246.5
19	上野公園	82.29	143	245	3.0
合計		1008.00	118,858	199,292	197.7

- ・人口は住民基本台帳による平成 31 年 1 月 1 日現在の数値。
- ・外国人の人数を含む。
- ・面積は平成 28 年度土地利用現況データによるもので、公表値（10.11 km²）とは異なる。

本区のゾーン別の人口密度を色別にしたものを図 2.3 に示す。本区の北側に位置する根岸、竜泉、千束の人口密度が高い。一方、上野公園、谷中東は大規模な公園や霊園等で占める面積が広く、人口密度が低くなっている。また、上野、台東、東上野のように事業所の多い地域や商業地域も比較的人口密度が低くなっている。

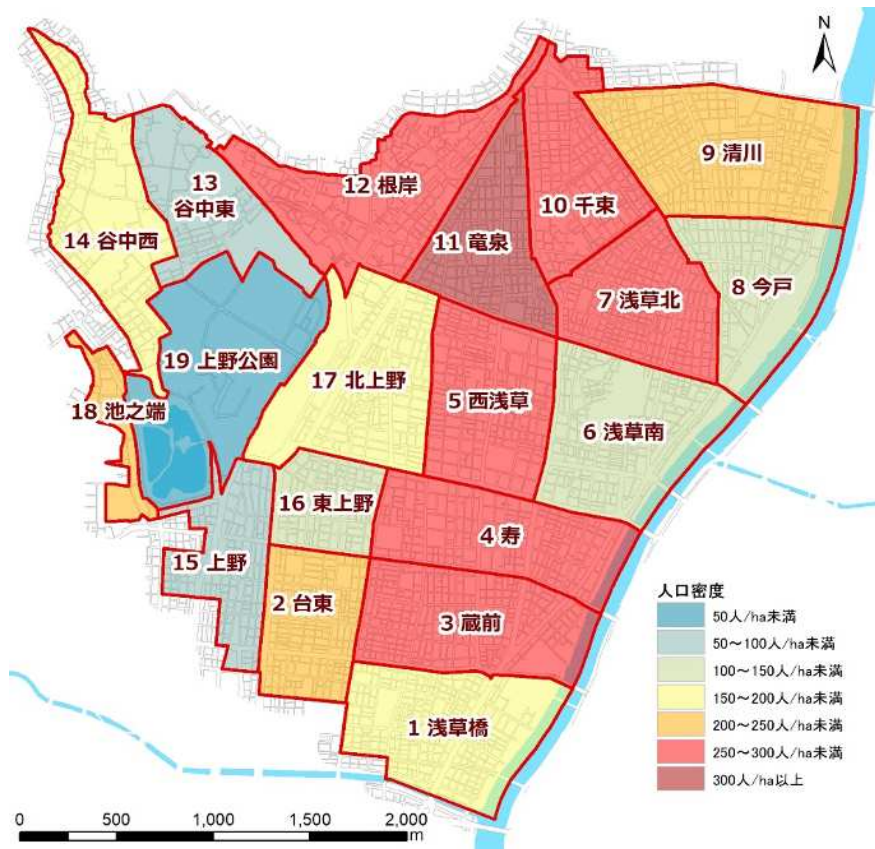


図 2.3 ゾーン別の人口密度

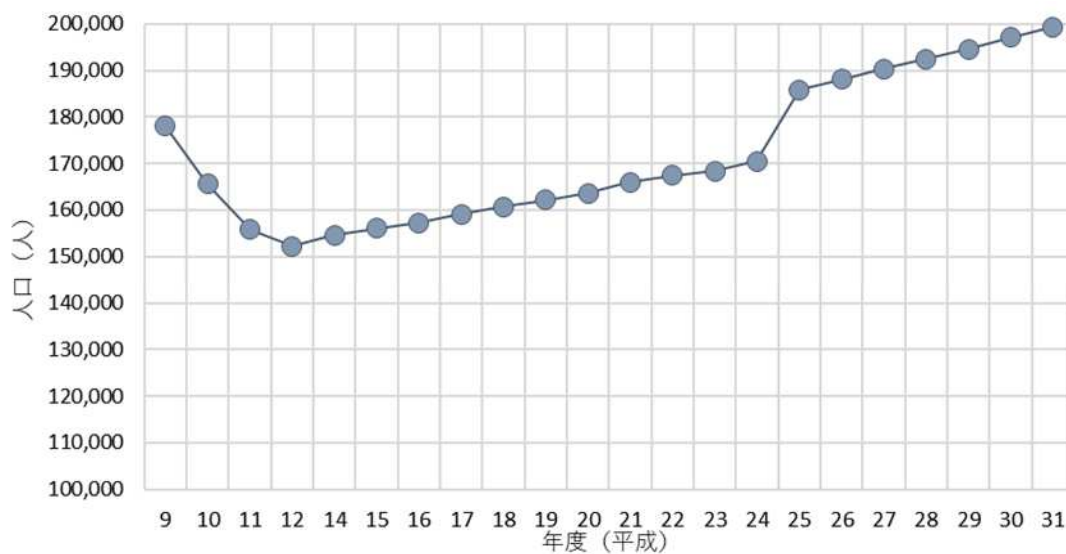


図 2.4 年度別人口の推移

住民基本台帳をもとにした本区の人口の推移を図 2.4 に示す。各年の人口は、平成 30 年以前の各年は 4 月 1 日現在、平成 31 年は 1 月 1 日現在の値である。本区の人口は、1960 年（昭和 35 年）をピークに減少していたが、平成 12 年を境に増加に転じ、その後は現在まで増加が続いている。なお、平成 25 年以降は外国人の人口を含めて集計している。

2.2.2 事業所数

本区の実業所数及び事業所密度を表 2.2 に示す。本区の実業所数は平成 26 年 7 月 1 日現在で 24,443 件、事業所密度は 24.2 件/ha である。ゾーン別の事業所数を見ると、上野が 3,003 件で最も多く、次いで浅草橋 (2,277 件)、浅草南 (2,189 件) の順となっており、最も少ないのは上野公園で 147 件となっている。事業所密度を見ると、事業所数と同様、上野が 79.8 件/ha と最も高く、次いで東上野が (60.9 件/ha)、台東 (46.5 件/ha) の順となっており、最も低いのは上野公園で 1.8 件/ha となっている。

表 2.2 ゾーン別の事業所数

ゾーン No.	ゾーン名	面積 (ha)	事業所数 (件)	事業所密度 (件/ha)
1	浅草橋	61.90	2,277	36.8
2	台東	38.01	1,767	46.5
3	蔵前	60.56	1,700	28.1
4	寿	56.68	1,577	27.8
5	西浅草	55.77	1,358	24.4
6	浅草南	65.19	2,189	33.6
7	浅草北	49.49	1,208	24.4
8	今戸	49.58	494	10.0
9	清川	79.79	1,222	15.3
10	千束	49.29	857	17.4
11	竜泉	46.19	952	20.6
12	根岸	66.84	1,178	17.6
13	谷中東	44.48	195	4.4
14	谷中西	55.76	671	12.0
15	上野	37.65	3,003	79.8
16	東上野	26.34	1,605	60.9
17	北上野	68.50	1,835	26.8
18	池之端	13.69	208	15.2
19	上野公園	82.29	147	1.8
合計		1008.00	24,443	24.2

- ・平成 26 年経済センサス基礎調査による。
- ・面積は平成 28 年度土地利用現況データによるもので、公表値 (10.11 km²) とは異なる。

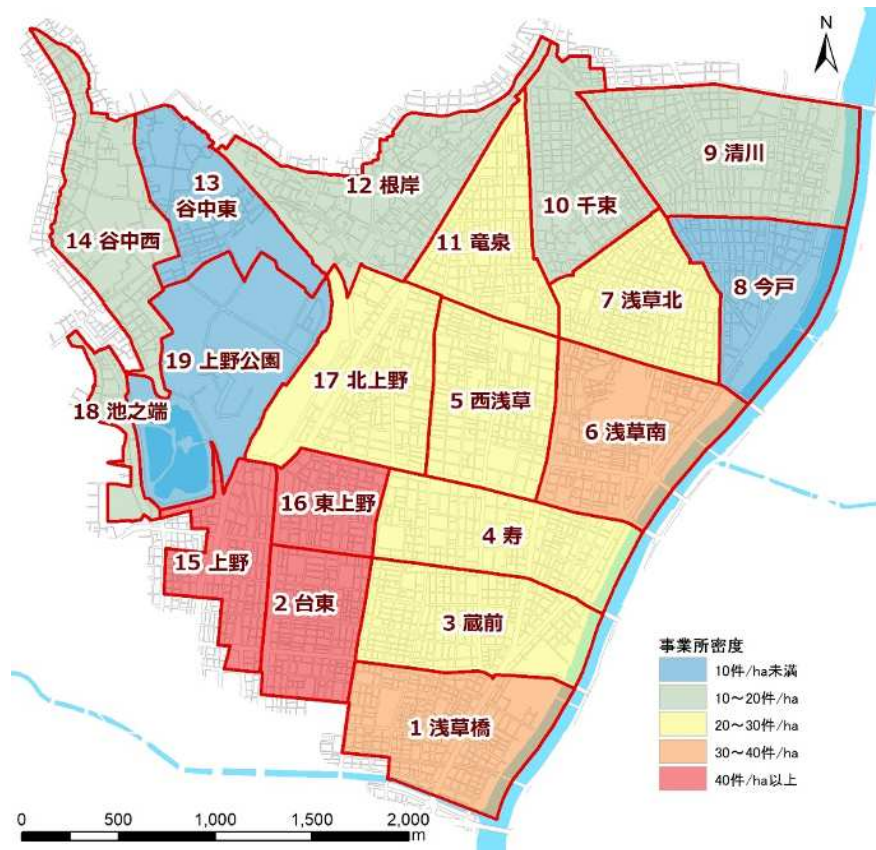


図 2.5 ゾーン別の事業所密度

本区の事業所密度をゾーン別に色別したものを図 2.5 に示す。上野公園と谷中東を含む本区の北西部から北東部にかけては事業所密度が低いことがわかる。一方で、上野駅や御徒町駅を擁する上野や東上野周辺の事業所密度が高いことがわかる。

2.2.3 地域特性

■現代に続く江戸のまちづくり

本区は上野・浅草という2大中心地を持ち、栄えてきた。その発展の基礎となったのは寛永寺と浅草寺を中心とした寺院であり、本区は門前町としての色彩が古くから非常に濃厚であった。寺社等の敷地には多くの樹林が残っており、本区の緑地に占める割合は大きい。

本区の街並みは、震災による復興区画整理や戦災などにより大きく変わった。しかしながら、江戸期の道路構成を多く残し、歴史や伝統文化の古きよきものを活かしながら個性的な街並みを培ってきたといえる。また、江戸幕府の政策として形成された寺町と職人が多く住む町人地が混在するまちとして形づくられ、こうした江戸のまちづくりは、現在の本区でみられる職住接近の伝統的な住まい方にも影響している。

■様々な土地利用と緑の状況

本区の地域の多くは商業地域が占め、住居と店舗、工場などが一体となり密集している複合的な市街地である。区の南部地域は、人形や玩具等の特徴のある問屋街があり、区の北部地域は、職人の町としての歴史を持ち、皮革製品を中心とする家内工業地として発展してきた。このように、地域ごとの性格を持つ界限もあり、特徴的な街並みを形成している。中でも浅草、上野地域は商業・事務系の施設が集積し広域商業地域としての性格が強くなる。これらの地域では、地先園芸等による緑化を行なっている商店等もあるが、緑化を進めるためのまとまりのあるスペースは限られている。

一方、谷中、根岸地域は、歴史的な町並みを残し、落ちついた住宅街を形成している。大半の建物は低中層が基調であるが、近年は随所に超高層建築物が建っている。谷中、根岸地域から上野公園一帯には、数多くの文化施設や学術・教育機関などが集積し、各施設の敷地内外には、大径木樹木を含む、まとまった緑が配置されている。

■自然と文化資源が誘う魅力に溢れたまち

本区には、日本最初の公園として整備された上野恩賜公園やその周辺地域にある東京藝術大学等により、自然と芸術文化が調和した空間が生まれ、多くの人々が訪れる地域となっている。また、浅草寺を中心とする浅草や隅田川では、国際的な観光地として多くの人で賑わっている。

上野恩賜公園周辺や隅田川沿い、浅草寺周辺等のまとまった緑は、他の寺社や公園等の緑とともに、まちに潤いをもたらす、緑が少ない本区においては重要な要素となっている。

■下町の面影を残す園芸文化

区内には、寺社を中心とした祭りや催し物が多く、区民の生活に深くかかわりを持っている。そこでは、江戸時代より朝顔市や植木市など緑に関連するイベント等も多くが開かれ、古くから園芸文化が根付いている地域であるといえる。個々の住宅敷地が比較的狭い本区においては、緑のカーテンづくりや園芸文化を活かしたベランダ・窓辺の緑化等、区民の手による地先緑化が下町らしい風情を演出している。

第3章 緑被地の抽出

3.1 基本的な考え方

緑被地として面積を抽出する対象の選定及び抽出方法における基準を以下に示す。

- ・ 原則として、航空写真画像データ上で識別できる緑被地を抽出対象とした。
- ・ 抽出精度を確保するために、まず NDVI（正規化植生指標）を用いた緑被地の抽出を行い、次に航空写真画像データを目視判読することによって抽出精度を高めた。
- ・ 既存資料との整合性が保てるよう配慮した。

3.2 調査項目

緑被率調査における調査項目を表 3.1 に示す。

表 3.1 緑被率調査における判読項目

判読項目	内容	
(1) 樹木被覆地	1) 樹林 2) 公園にあるもの 3) 道路にあるもの 4) 学校、庁舎等にあるもの 5) 住宅、事業所、寺社等にあるもの 6) 河川敷内にあるもの 7) その他	山林、平地林のように樹冠がふれあう程度に密生している一群の木本類 公園内の木本類による緑被地の面積 道路内の木本類による緑被地の面積 敷地内の木本類による緑被地の面積 敷地内の木本類による緑被地の面積 河川敷内の木本類のうち担保性のある緑被地(※2)の面積 上記に含まれない木本類のうち担保性のある緑被地(※2)の面積
(2) 草地(※1)	1) 公園にあるもの 2) 道路にあるもの 3) 学校、庁舎等にあるもの 4) 住宅、事業所、寺社等にあるもの 5) 樹林内にあるもの 6) 河川敷内にあるもの 7) 鉄道敷内にあるもの 8) その他	公園内の草本類等による緑被地の面積 道路内の草本類等による緑被地の面積 敷地内の草本類等による緑被地の面積 敷地内の草本類等による緑被地の面積 伐採跡地のように平地林内の草本類等による緑被地の面積 河川敷内の草本類等のうち担保性のある緑被地(※2)の面積 鉄道敷内の草本類等のうち担保性のある緑被地(※2)の面積 上記に含まれない草本類等のうち担保性のある緑被地(※2)の面積
(3) 裸地	1) 造成地 2) グラウンド 3) がけ(土、岩)、岩 4) その他	人工造成地など、土壌面が露出している空地の面積 運動競技場、野球場、学校、公園内の土壌が露出している地面の面積 土砂の崩壊等によって出来た急斜面、地表に露出した岩石の面積 上記に含まれない土壌が露出している地面の面積
(4) 水面	1) 湖沼、河川、海水域 2) 公園にあるもの 3) 学校、庁舎等にあるもの 4) 住宅、事業所、寺社等にあるもの	湖沼、河川、海水域の面積 公園内の湖沼、河川、海水域の面積 敷地内の水面の面積 敷地内の水面の面積
(5) 屋上緑化	樹木被覆地及び草地のうち、建物屋上にあるもの。	

注)

※1 草地：草本類と概ね高さ 2m 未満の木本類を含む土地をいう。

※2 担保性のある緑被地：何らかの人為的管理がなされ、短期間で消失することのない緑被地をいう。

3.3 NDVI による抽出方法

(1) NDVI の算出

緑被地の抽出にあたって、オルソ画像から NDVI (Normalized Difference Vegetation Index = 正規化植生指標) を算出した。NDVI の算出はオルソ画像の可視光赤バンド (Red) と近赤外バンド (NIR) を用いて、以下の計算式により行った。

$$NDVI = (NIR - R) / (NIR + R)$$

(2) 緑被地の抽出

NDVI は -1 ~ +1 の間の値をとり、+1 に近いほど植生の活性度が高いとされる。上記(1)で算出した NDVI 画像に対して、オルソ画像との重ね合わせや前回調査結果との比較により適切な閾値 (いきち) を設定し、緑被地の抽出を行った。

(3) 緑被地候補ポリゴンの作成

NDVI 画像から、(2)で設定した閾値以上の値を持つセルを抽出し、ポリゴンデータ (線で囲まれた多角系形の面データ) に変換した。本調査の緑被地の抽出精度が 1 m² 以上であることから、面積が 1 m² 未満となる微小なポリゴンについては、除去または穴埋めの処理を行い、緑被地候補ポリゴンを作成した。

3.4 目視判読の方法

GIS ソフト上にて、縮尺 1/500 程度に拡大表示した航空写真画像データに、上記 3.3 にて NDVI から抽出した緑被地候補ポリゴンを重ねて参照しながら、目視によって判読を行った。抽出したデータを参照することによって、航空写真画像の色調だけでは分かりにくい緑被地や、抽出が難しい最小単位 (1 m²) に近い小面積の植栽地も漏らさずに判読することが可能である。反対に、NDVI からの抽出だけではエラーが出やすい影などの部分については、航空写真画像を参照することによって、正確な判読が可能となる。

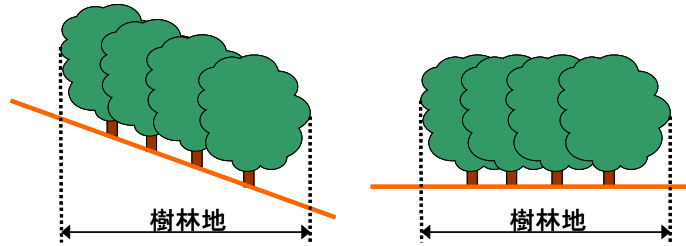
目視判読における基準を以下に示す。

(1) 樹木被覆地

山林・平地林のように樹冠がふれあう程度に密生している一群の木本類や街路樹を対象とする。以下に樹木被覆地の例を示す。

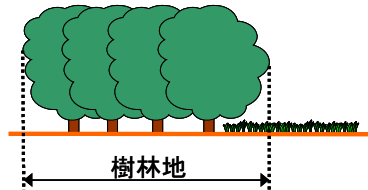
1) 樹林

山林、平地林のように樹冠がふれあう程度に密生している一群の木本類。



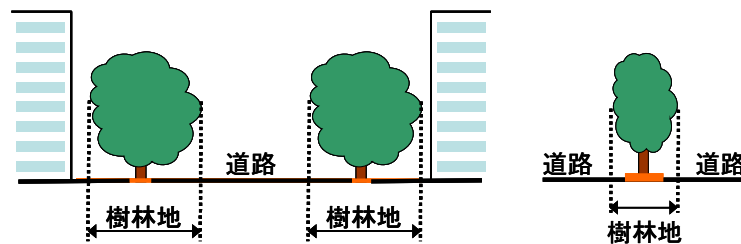
2) 公園にあるもの

公園内の木本類による緑被地。



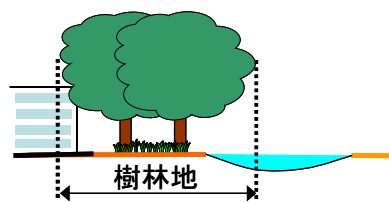
3) 道路にあるもの

道路内の木本類による緑被地。



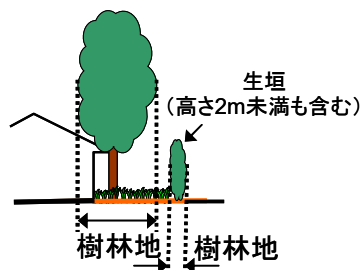
4) 学校、庁舎等にあるもの

学校、庁舎等の敷地内の木本類による緑被地。



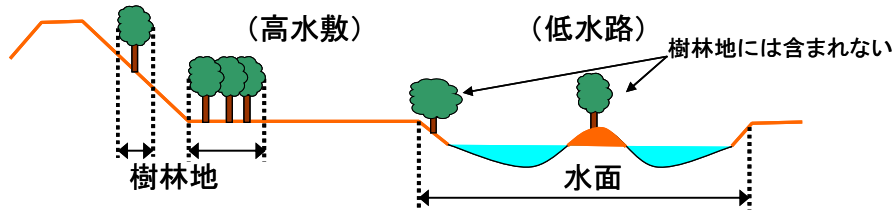
5) 住宅、事業所、寺社等にあるもの

住宅、事業所、寺社等の敷地内の木本類による緑被地。



6) 河川敷内にあるもの

河川敷内にある木本類のうち担保性のある（高水敷にある）緑被地を指す。高水敷と低水路の境界にある木本は、立木位置が高水敷に含まれると航空写真画像で判断される場合に抽出する。

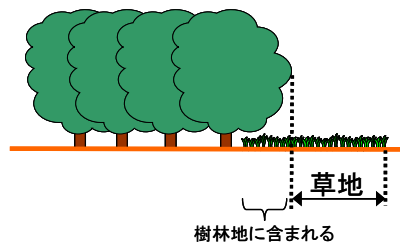


(2) 草地

いわゆる草地のほか、道路境界にある植え込み（サツキなど樹高が低く樹木被覆地と判断することが困難な樹木）を含む。以下に草地の例を示す。

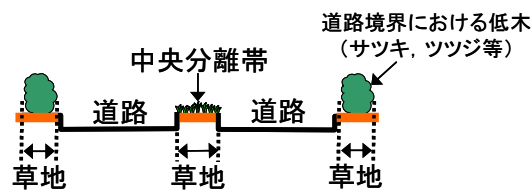
1) 公園にあるもの

公園内の草本類による緑被地。



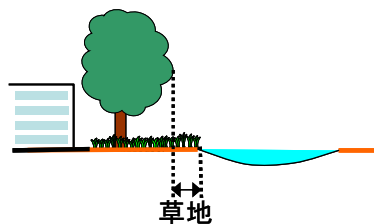
2) 道路にあるもの

道路内の草本類による緑被地。



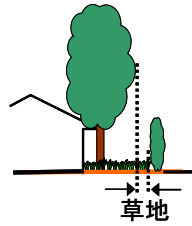
3) 学校、庁舎等にあるもの

学校、庁舎等の敷地内の草本類による緑被地。



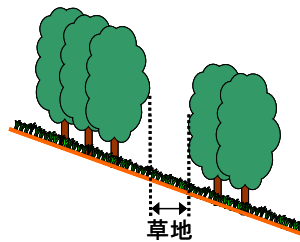
4) 住宅、事業所、寺社等にあるもの

住宅、事業所、寺社等の敷地内の草本類による緑被地。



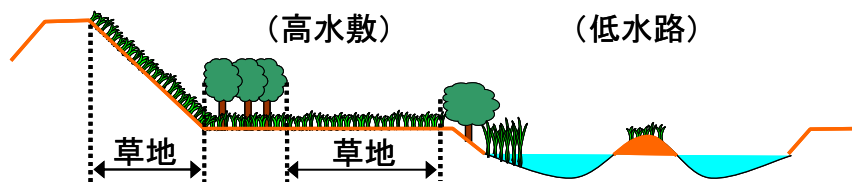
5) 樹林内にあるもの

山地、平地林内の草本類による緑被地。



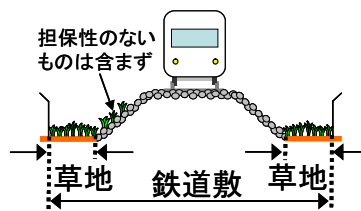
6) 河川敷内にあるもの

河川敷内にある草本類のうち担保性のある緑被地。



7) 鉄道敷内

鉄道敷内にある草本類のうち担保性のある緑被地。

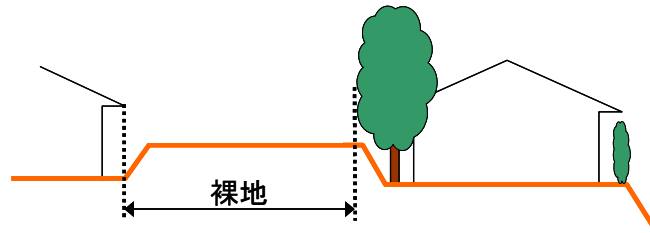


(3) 裸地

土壌面が露出している地面をいう。砂入人工芝は土壌面ではないため裸地に含まない。以下に裸地の例を示す。

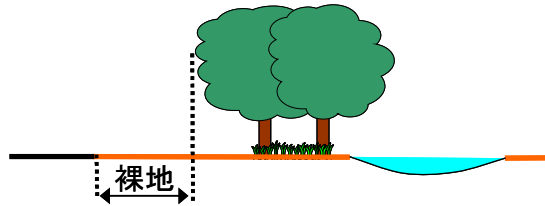
1) 造成地

人工造成地など、土壌面が露出している空地。



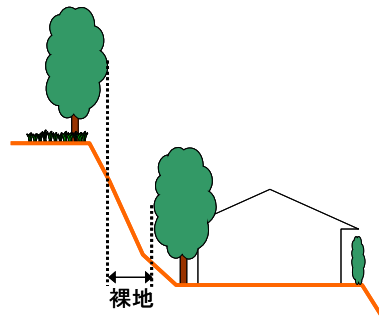
2) グラウンド

運動競技場、野球場、学校、公園内の土壌が露出している地面。



3) がけ（土、岩）、岩

土砂の崩壊等によって出来た急斜面、地表に露出した岩面。

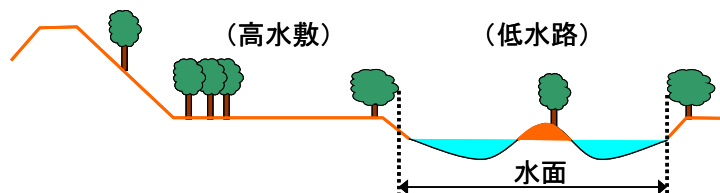


(4) 水面

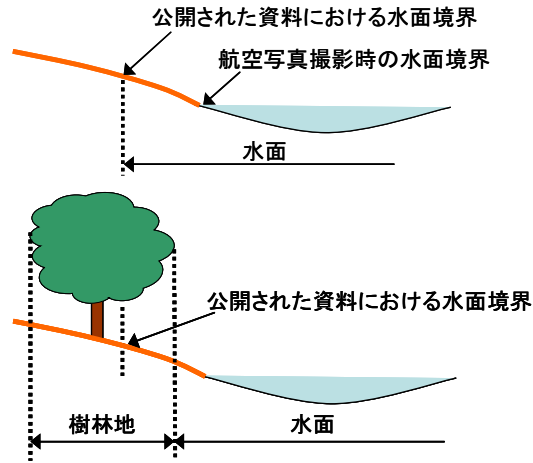
陸域にある水面のうち自然的な形状を有するものをいう。池の水面をハスが覆っている状況においては、ハスを含めて水面とする。以下に水面の例を示す。

1) 湖沼、河川

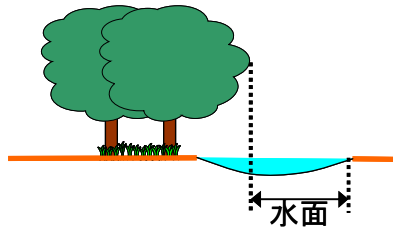
低水路を樹林地が覆っている場合、樹林地で覆われていない低水路を抽出する。中州は水面とする。



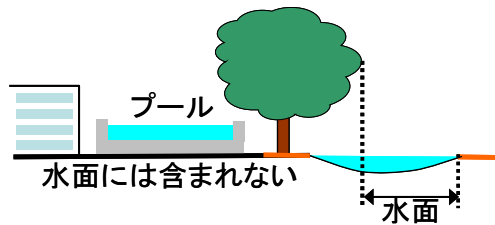
水面の境界線は、原則として公表された資料をもとに設定するが、水面を覆う緑被地を把握する場合は、航空写真画像データから水面と緑被地の境界線を判読する。



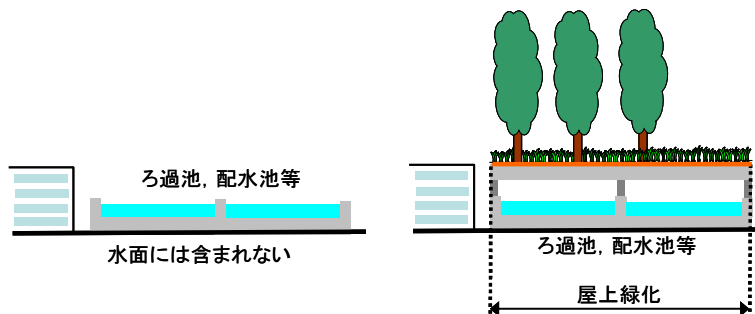
- 2) 公園にあるもの
公園内の湖沼、河川。



- 3) 学校、庁舎等にあるもの
学校、庁舎等の敷地内の水面。プールは含まない。



- 4) 住宅、事業所、寺社等にあるもの
住宅、事業所、寺社等の敷地内の水面。人工地盤上の緑被地は屋上緑化に含める。



第4章 緑被率調査

緑被率とは、特定地域に占める緑被地の割合をいう。緑被地とは、樹林地・草地・水辺地及び公園緑地等、植物の緑で被覆された土地、もしくは緑で被覆されていなくとも自然的環境の状態にある土地の総称をいう。

4.1 調査方法

航空写真画像等から抽出した緑被地データを用い、ゾーン別、土地利用別、公共施設別の緑被地面積及び緑被率を集計した。集計に用いたデータを以下に示す。

(1) 町丁目データ

東京都都市計画地理情報システムデータのうち、平成28年度土地利用現況データを基本データとし、大字・町コード及び町丁目コードをもとに町丁目データを作成した。

(2) ゾーンデータ

町丁目データを基本データとし、表1.1に示したゾーンごとに町丁目を統合することによって作成した。

(3) 公共施設データ

東京都都市計画地理情報システムデータのうち平成28年度土地利用現況データを基本データとして、官公庁施設及び教育文化施設を抽出することによって公共施設データを作成した。

4.2 調査結果

4.2.1 緑被の現況

本区全域の緑被状況を表4.1に示す。これによると、本区における樹木被覆地の面積は80.73 ha (8.0%)、草地の面積は15.25 ha (1.5%)、屋上緑化の面積は5.66 ha (0.6%)であり、緑被地の合計面積は101.64 ha (1,016,444 m²)で緑被率は10.1%となった。緑被地以外の項目については、裸地の面積が10.64 ha (1.1%)、水面の面積が39.17 ha (3.9%)、そして建物・道路などの面積が856.55 ha (85.0%)となった。

前回調査(平成22年度)における緑被率は12.3% (124.21 ha)であり、前回調査から今回調査にかけて緑被率は2.2ポイント、面積にして22.57 ha減少した。

各区分における面積の増減を見ると、樹木被覆地面積の減少が14.46 ha (1.4ポイント)と最も大きく、次いで草地面積が8.38 ha (0.8ポイント)減少している。一方で屋上緑化面積は0.27 ha増加した。

表 4.1 緑被等の区分別面積

区分	平成12年度		平成22年度		平成30年度		平成22年度からの増減	
	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (ポイント)
樹木被覆地	81.59	8.1	95.19	9.4	80.73	8.0	▲ 14.46	▲ 1.4
草地	2.35	0.2	23.63	2.3	15.25	1.5	▲ 8.38	▲ 0.8
屋上緑化	1.14	0.1	5.39	0.5	5.66	0.6	0.27	0.0
緑被地	85.08	8.4	124.21	12.3	101.64	10.1	▲ 22.57	▲ 2.2
裸地	5.79	0.6	8.37	0.8	10.64	1.1	2.27	0.2
水面	41.11	4.1	38.67	3.8	39.17	3.9	0.50	0.0
建物・道路など	876.02	86.9	836.74	83.0	856.55	85.0	19.81	2.0

・平成30年度の面積は、平成28年度土地利用現況データによるもので、公表値(10.11 km²)とは異なる。
 ・平成30年度の面積は、小数点第三位以下を四捨五入した。

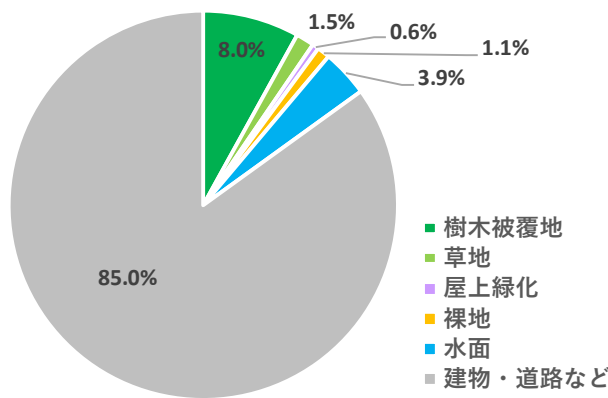
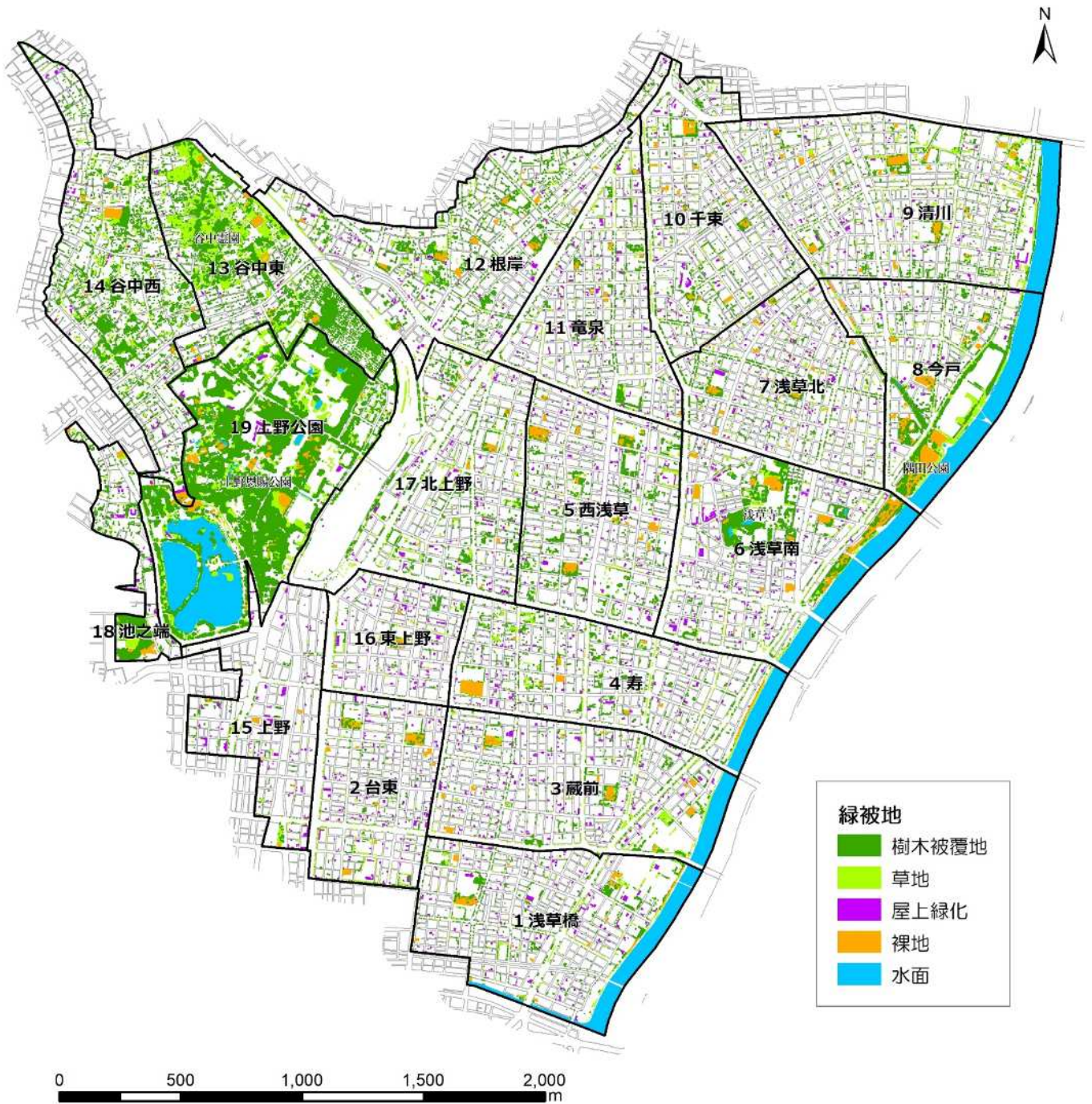


図 4.1 緑被等の構成比

図 4.2 に緑被地分布図を示す。これを見ると、本区の西側に位置する 19.上野公園、13.谷中東ゾーンと東側に位置する 6.浅草南、8.今戸ゾーンに緑被地が集中していることがわかる。19.上野公園、13.谷中東には、上野恩賜公園（恩賜上野動物園、東京国立博物館周辺）や谷中霊園があり、6.浅草南、8.今戸には隅田公園、浅草寺があることから、公園や寺社などに緑被地が集中していることがわかる。本区の中央やその他のゾーンにはまとまった緑被地は少なく、小規模な緑被が点在していることがわかる。本区における緑被地分布の概観は、前回調査の結果からあまり変化していない。

各区によって調査年度・調査方法・調査精度が異なるため、直接的な比較をすることはできないが、参考として特別区 23 区の緑被率を表 4.2 に示す。

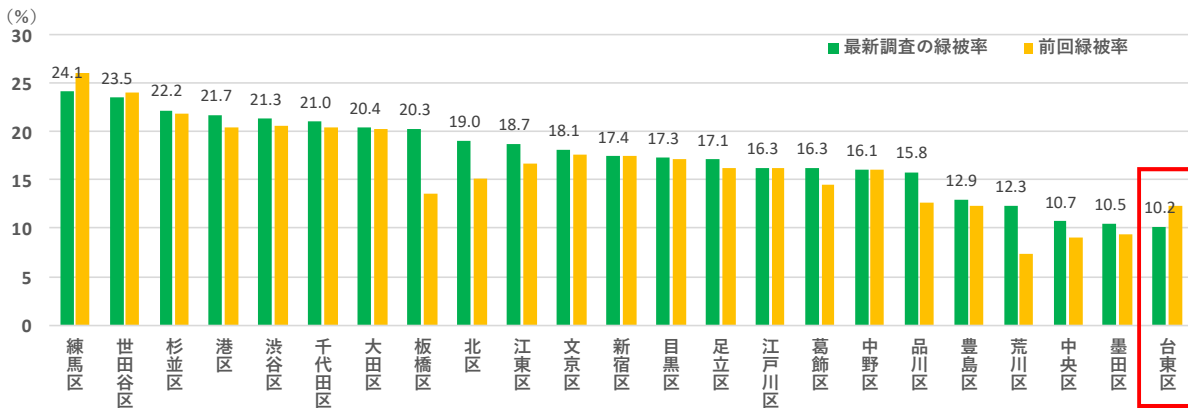


この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30都市基交著第136号

図 4.2 緑被地分布図

(各ゾーンの詳細図を図 4.6～図 4.24 に示す)

表 4.2 特別区の緑被率（参考）



	緑被率 (%)	調査年度	主な公園・緑地
練馬区	24.1	平成 28	光が丘公園、石神井公園、大泉中央公園、城北中央公園、*としまえん
世田谷区	23.5	平成 28	砧公園、駒沢オリンピック公園、馬事公苑、等々力溪谷公園、芦花公園、世田谷公園、羽根木公園、祖師谷公園、*二子玉川緑地運動公園、*豪徳寺
杉並区	22.2	平成 24	善福寺公園、善福寺川公園、和田堀公園
港区	21.7	平成 28	芝公園、有栖川公園、台場公園、青山公園、旧芝離宮恩賜庭園、*赤坂御用地、*国立自然教育園
渋谷区	21.3	平成 25	代々木公園、新宿御苑、*明治神宮
千代田区	21.0	平成 22	皇居、北の丸公園、日比谷公園、*靖国神社
大田区	20.4	平成 21	東京港野鳥公園、大井ふ頭中央海浜公園、平和の森公園、城南島海浜公園、多摩川台公園、*多摩川緑地、*池上本門寺
板橋区	20.3	平成 26	城北中央公園、赤塚公園、浮間公園、*荒川戸田橋緑地
北区	19.0	平成 25	飛鳥山公園、旧古河庭園、荒川緑地公園、*西が丘競技場
江東区	18.7	平成 29	夢の島公園、若洲海浜公園、有明テニスの森公園、亀戸中央公園、猿江公園、木場公園、清澄庭園、辰巳の森海浜公園
文京区	18.1	平成 24	小石川後楽園、六義園、占春園、小石川植物園、*豊島ヶ岡墓地、*吉祥寺
新宿区	17.4	平成 27	新宿御苑、戸山公園、*明治神宮外苑
目黒区	17.3	平成 26	林試の森公園、西郷山公園、駒場公園、碑文谷公園、*目黒不動
足立区	17.1	平成 29	舎人公園、東綾瀬公園、*荒川鹿浜橋緑地、*江北橋緑地
江戸川区	16.3	平成 18	葛西海浜公園、篠崎公園、総合レクリエーション公園
葛飾区	16.3	平成 20	水元公園、新小岩公園、矢切の渡し公園、*科学事業団総合運動場
中野区	16.1	平成 28	平和の森公園、哲学堂公園、新井薬師公園、北江古田公園
品川区	15.8	平成 26	大井埠頭中央海浜公園、京浜運河緑道公園、しながわ区民公園、戸越公園、林試の森公園、潮風公園、東京野鳥公園、*大井競馬場
豊島区	12.9	平成 27	池袋西口公園、*雑司が谷霊園、*染井霊園
荒川区	12.3	平成 19	尾久の原公園、汐入公園、荒川自然公園、*荒川遊園
中央区	10.7	平成 29	浜離宮庭園、浜町公園
墨田区	10.5	平成 21	向島百花園、隅田公園、錦糸公園、大横川親水公園、旧安田庭園、梅若公園
台東区	10.1	平成 30	上野恩賜公園、隅田公園、旧岩崎邸庭園、*谷中霊園

参考として各区の公表値を掲載（資料：各区ホームページ）

注）表中の「*」の付く名称は緑地を示す。

4.2.2 ゾーン別の緑被状況（緑被率・みどり率）

(1) 緑被率

ゾーン別の緑被状況を表 4.3 に示す。これによると、緑被率は 19.上野公園が 41.5 % と最も高く、次いで 13.谷中東が 28.5 %、18.池之端が 20.9 %の順となった。緑被地面積を比較すると、19.上野公園が 34.18 ha と最も大きく、次いで 13.谷中東が 12.68 ha、14.谷中西が 7.27 ha の順となった。これらのゾーンは緑被地分布図も示すとおり、19.上野公園は上野恩賜公園・恩賜上野動物園・東京国立博物館、13.谷中東は谷中霊園、18.池之端は旧岩崎邸庭園といったまとまった緑被地を有しているため、緑被率が高い結果となった。また、14.谷中西にも霊園や寺社敷地等が多く分布しており、それらの緑被地がまとまって大きな緑被地面積を示す結果となったと考えられる。これらのゾーンのほかに隅田公園を有する 8.今戸（10.8 %）、浅草寺を有する 6.浅草南（9.5 %）においても緑被率が比較的高くなっている。

これに対し緑被率が低いゾーンを見ると、15.上野が 2.5 %と最も低く、次いで 16.東上野が 3.4 %、台東が 3.9 %の順となった。緑被地の面積では、16.東上野が 0.90 ha と最も小さく、次いで 15.上野が 0.93 ha、2.台東が 1.47 ha の順となった。これらのことから、事業所密度の高いゾーンにはまとまった面積を持つ緑被地が少ないことがわかる。

表 4.3 ゾーン別の緑被率

ゾーン	ゾーン 面積	面積(ha)								割合(%)						
		緑被地					裸地	水面	建物・ 道路 など	緑被地				裸地	水面	建物・ 道路 など
		樹木 被覆地	草地	屋上 緑化	緑被率	樹木 被覆地				草地	屋上 緑化					
1	浅草橋	61.90	1.64	0.44	0.42	2.50	0.46	5.57	53.37	2.6	0.7	0.7	4.0	0.7	9.0	86.2
2	台東	38.01	0.87	0.29	0.31	1.47	0.38	0.00	36.16	2.3	0.8	0.8	3.9	1.0	0.0	95.1
3	蔵前	60.56	1.57	0.58	0.43	2.58	0.59	2.59	54.80	2.6	1.0	0.7	4.3	1.0	4.3	90.5
4	寿	56.68	1.79	0.45	0.31	2.55	0.73	2.72	50.68	3.2	0.8	0.5	4.5	1.3	4.8	89.4
5	西浅草	55.77	2.62	0.36	0.34	3.32	0.67	0.00	51.78	4.7	0.6	0.6	6.0	1.2	0.0	92.8
6	浅草南	65.19	4.98	0.73	0.48	6.19	1.32	5.70	51.98	7.6	1.1	0.7	9.5	2.0	8.7	79.7
7	浅草北	49.49	1.50	0.31	0.33	2.14	0.39	0.00	46.96	3.0	0.6	0.7	4.3	0.8	0.0	94.9
8	今戸	49.58	4.15	1.06	0.16	5.37	1.48	7.48	35.25	8.4	2.1	0.3	10.8	3.0	15.1	71.1
9	清川	79.79	2.58	1.11	0.35	4.04	0.80	4.65	70.30	3.2	1.4	0.4	5.1	1.0	5.8	88.1
10	千束	49.29	1.51	0.44	0.29	2.24	0.45	0.00	46.60	3.1	0.9	0.6	4.5	0.9	0.0	94.5
11	竜泉	46.19	1.33	0.36	0.34	2.03	0.17	0.00	43.99	2.9	0.8	0.7	4.4	0.4	0.0	95.2
12	根岸	66.84	3.74	0.62	0.32	4.68	0.50	0.00	61.66	5.6	0.9	0.5	7.0	0.7	0.0	92.3
13	谷中東	44.48	9.85	2.76	0.07	12.68	0.54	0.00	31.26	22.1	6.2	0.2	28.5	1.2	0.0	70.3
14	谷中西	55.76	6.14	0.91	0.22	7.27	0.55	0.00	47.94	11.0	1.6	0.4	13.0	1.0	0.0	86.0
15	上野	37.65	0.41	0.18	0.34	0.93	0.12	0.00	36.60	1.1	0.5	0.9	2.5	0.3	0.0	97.2
16	東上野	26.34	0.53	0.13	0.24	0.90	0.09	0.00	25.35	2.0	0.5	0.9	3.4	0.3	0.0	96.2
17	北上野	68.50	2.64	0.72	0.35	3.71	0.16	0.00	64.63	3.9	1.1	0.5	5.4	0.2	0.0	94.4
18	池之端	13.69	2.30	0.40	0.16	2.86	0.23	0.00	10.60	16.8	2.9	1.2	20.9	1.7	0.0	77.4
19	上野公園	82.29	30.58	3.40	0.20	34.18	1.01	10.46	36.64	37.2	4.1	0.2	41.5	1.2	12.7	44.5
合計		1008.00	80.73	15.25	5.66	101.64	10.64	39.17	856.55	8.0	1.5	0.6	10.1	1.1	3.9	85.0

・各ゾーンの面積は、平成 28 年度土地利用現況データによるもので、合計面積は公表値（10.11 km²）とは異なる。
 ・各面積は小数点第三位で四捨五入した。但し、全体面積を整合させるため、浅草南と今戸の水面については小数点第三位で切り上げ処理を行った（表 4.4 も同じ）。

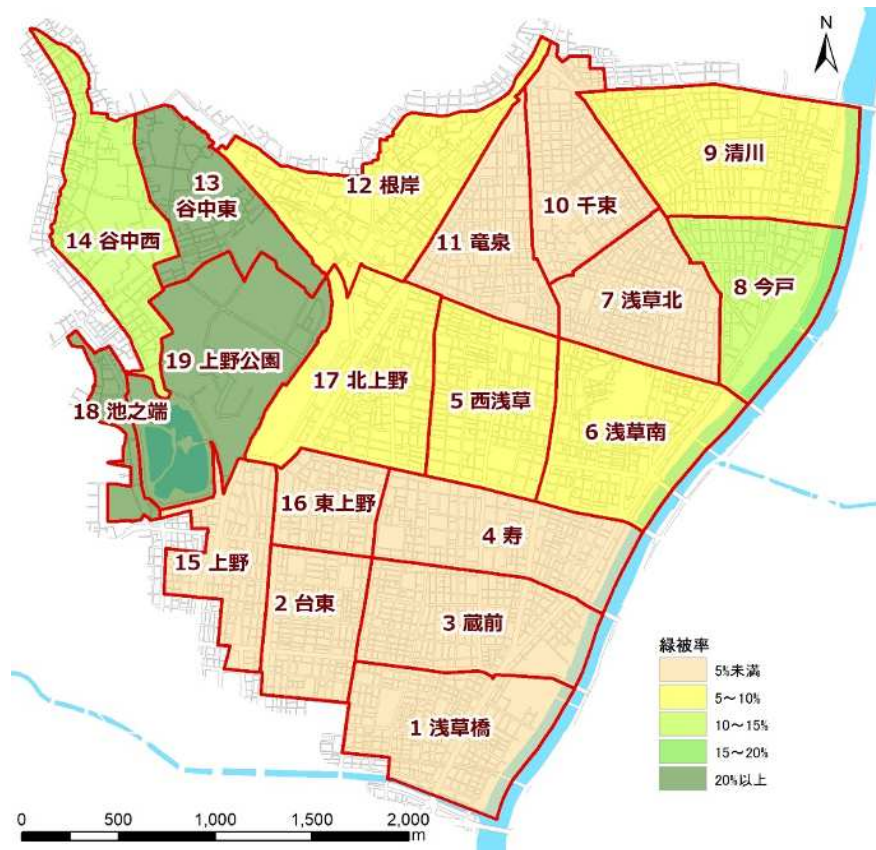


図 4.3 ゾーン別緑被率

図 4.3 はゾーン別に色別した緑被率を示す。緑被地分布図と同様、13.谷中東、19.上野公園、18.池之端の緑被率が高いことがわかる。事業所密度が高い15.上野、16.東上野、2.台東や人口密度の高い11.竜泉などのゾーンは緑被率が低くなっている。本区は、練馬区や世田谷区のような農地や、葛飾区や江戸川区のように草地が広がる河川敷を有していない。また、小規模な建物が密集しており、緑化に適したオープンスペースの面積は限られている。

(2) みどり率

「緑被率」は、特定区域の面積に対する樹木被覆地・草地・屋上緑化等の緑被地が占める面積の割合を示したものである。これに対し、みどり率とは、裸地土壌面における雨水浸透機能や水面によるヒートアイランド緩和効果など、都市環境保全のための様々な機能を考慮した指標である。緑被地に加えて緑で覆われていない裸地土壌面等の面積の占める割合を表したものである。

前回調査に引き続き、緑化の指標としてこの「みどり率」を求めた。

算出したみどり率を表4.4に示す。本区全体のみどり率は17.5%である。みどり率が最も高いゾーンは19.上野公園で75.0%、次いで8.今戸が39.8%、13.谷中東が30.1%の順となった。緑被率が高いゾーンではみどり率も高い傾向が見られるほか、8.今戸や1.浅草橋など隅田川沿いのゾーンでは水面の割合が高くみどり率の上昇に寄与している。

表4.4 ゾーン別のみどり率

ゾーン	面積(ha)						割合(%)					
	ゾーン面積	緑被地	裸地	水面	公園※1	みどり域	緑被率	裸地	水面	公園	みどり率	
1	浅草橋	61.90	2.50	0.46	5.57	0.05	8.58	4.0	0.7	9.0	0.1	13.9
2	台東	38.01	1.47	0.38	0.00	0.10	1.95	3.9	1.0	0.0	0.3	5.1
3	蔵前	60.56	2.58	0.59	2.59	0.15	5.91	4.3	1.0	4.3	0.2	9.8
4	寿	56.68	2.55	0.73	2.72	0.02	6.02	4.5	1.3	4.8	0.0	10.6
5	西浅草	55.77	3.32	0.67	0.00	0.03	4.02	6.0	1.2	0.0	0.1	7.2
6	浅草南	65.19	6.19	1.32	5.70	1.25	14.46	9.5	2.0	8.7	1.9	22.2
7	浅草北	49.49	2.14	0.39	0.00	0.06	2.59	4.3	0.8	0.0	0.1	5.2
8	今戸	49.58	5.37	1.48	7.48	5.40	19.73	10.8	3.0	15.1	10.9	39.8
9	清川	79.79	4.04	0.80	4.65	0.28	9.77	5.1	1.0	5.8	0.4	12.2
10	千束	49.29	2.24	0.45	0.00	0.09	2.78	4.5	0.9	0.0	0.2	5.6
11	竜泉	46.19	2.03	0.17	0.00	0.02	2.22	4.4	0.4	0.0	0.0	4.8
12	根岸	66.84	4.68	0.50	0.00	0.12	5.30	7.0	0.7	0.0	0.2	7.9
13	谷中東	44.48	12.68	0.54	0.00	0.18	13.40	28.5	1.2	0.0	0.4	30.1
14	谷中西	55.76	7.27	0.55	0.00	0.44	8.26	13.0	1.0	0.0	0.8	14.8
15	上野	37.65	0.93	0.12	0.00	0.05	1.10	2.5	0.3	0.0	0.1	2.9
16	東上野	26.34	0.90	0.09	0.00	0.06	1.05	3.4	0.3	0.0	0.2	4.0
17	北上野	68.50	3.71	0.16	0.00	0.10	3.97	5.4	0.2	0.0	0.1	5.8
18	池之端	13.69	2.86	0.23	0.00	0.32	3.41	20.9	1.7	0.0	2.3	24.9
19	上野公園	82.29	34.18	1.01	10.46	16.07	61.72	41.5	1.2	12.7	19.5	75.0
合計		1008.00	101.64	10.64	39.17	24.79	176.24	10.1	1.1	3.9	2.5	17.5

※1：公園敷地のうち、緑被地、裸地、水面以外の土地

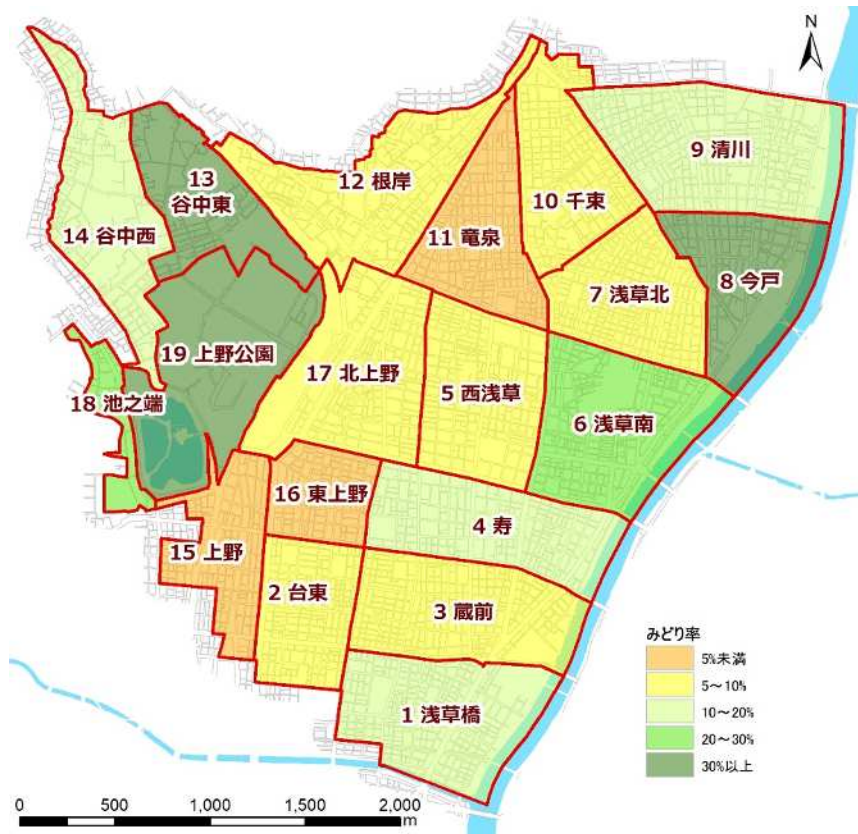


図 4.4 ゾーン別みどり率

(3) ゾーン別の緑被地分布

図 4.5～図 4.23 に 19 ゾーン別の緑被地分布図を示す。

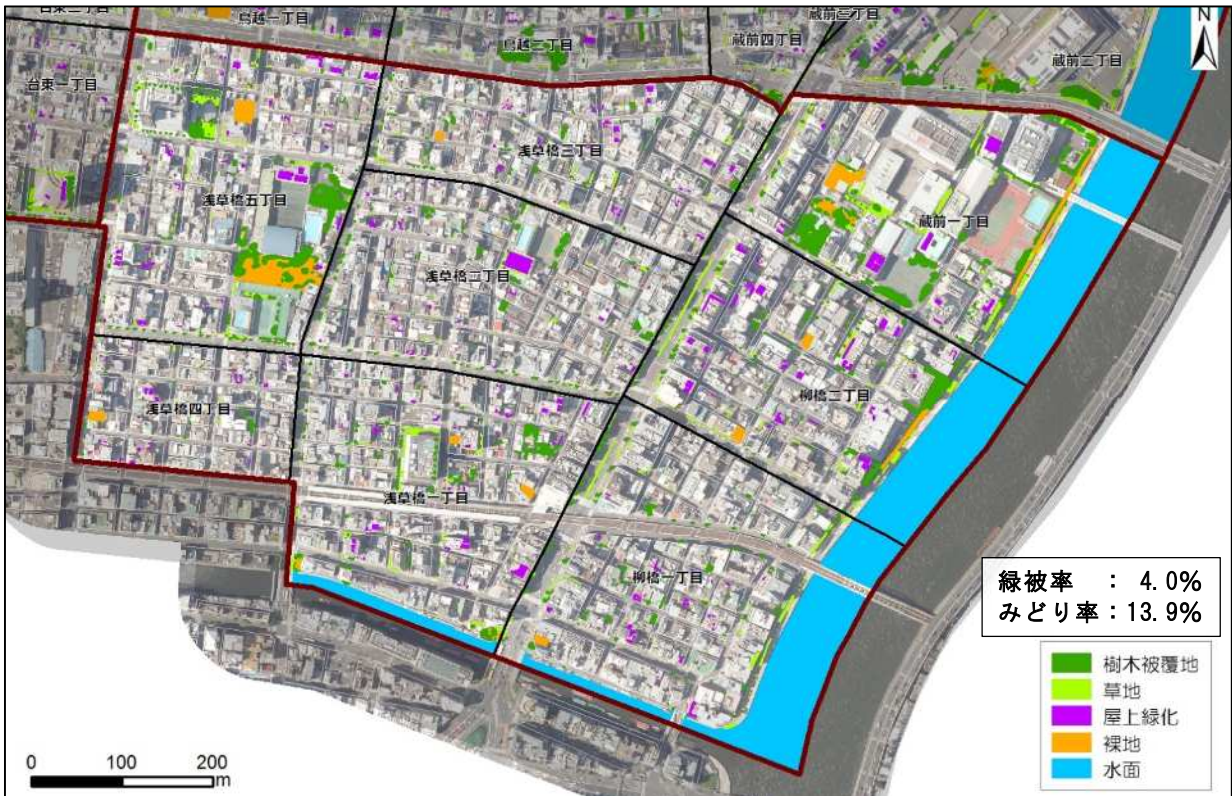


図 4.5 緑被地分布図 (1. 浅草橋)

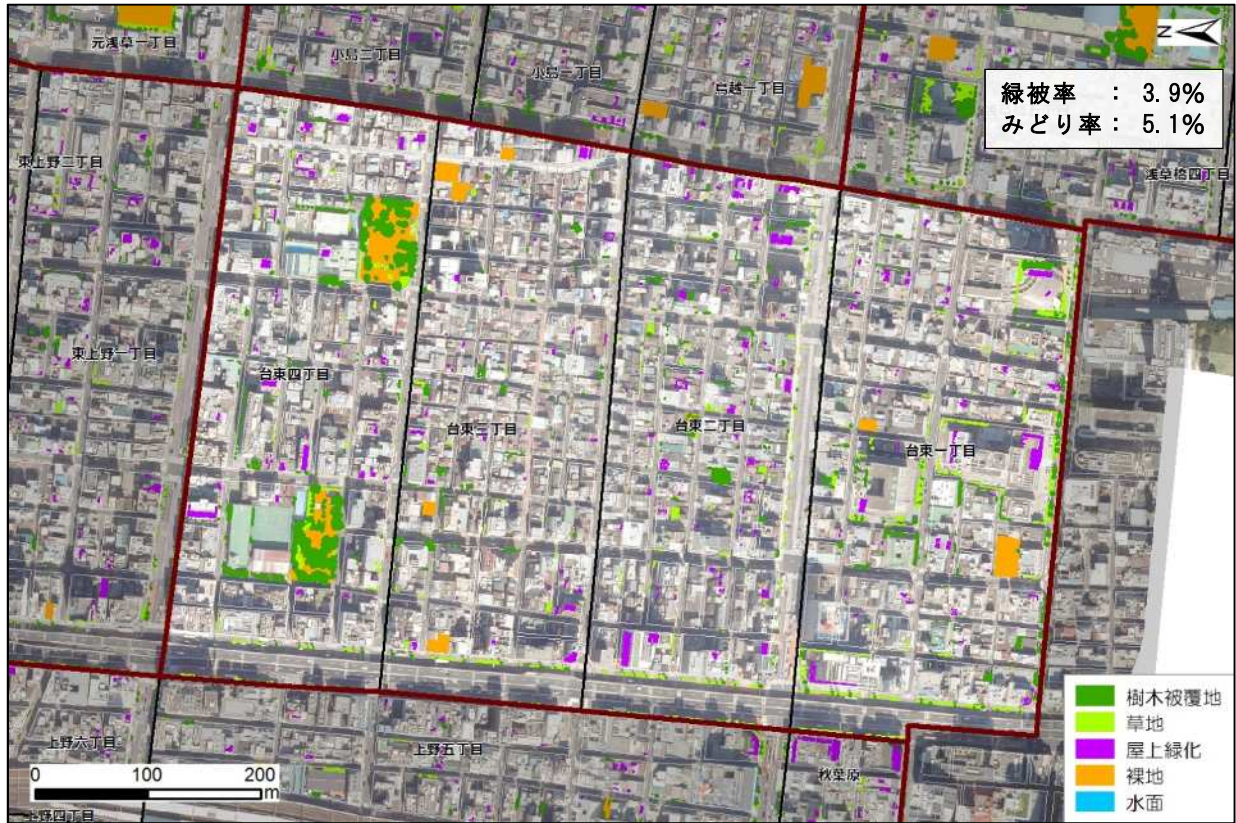


図 4.6 緑被地分布図 (2. 台東)

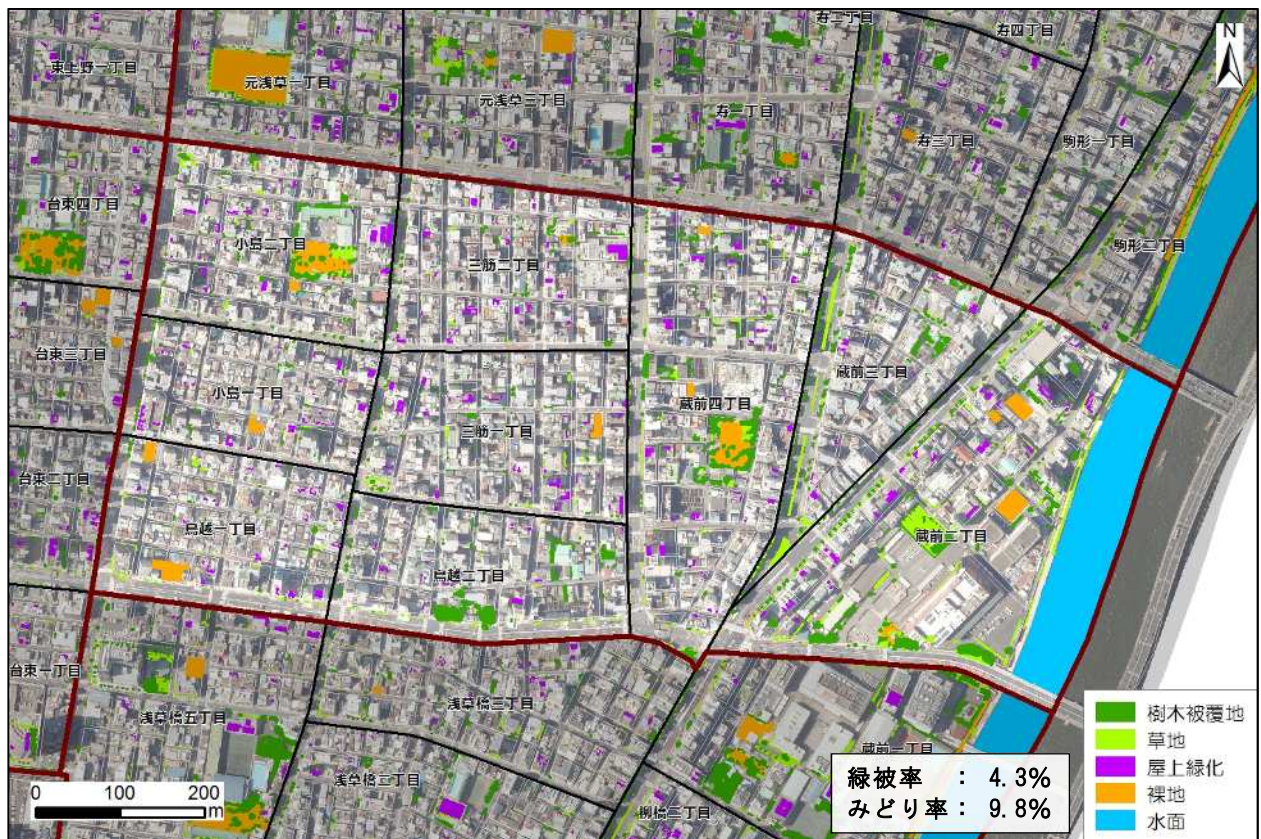


図 4.7 緑被地分布図 (3. 蔵前)



図 4.8 緑被地分布図 (4. 寿)



図 4.9 緑被地分布図 (5. 西浅草)



図 4.10 緑被地分布図 (6. 浅草南)



図 4.11 緑被地分布図 (7. 浅草北)



図 4.12 緑被地分布図 (8. 今戸)

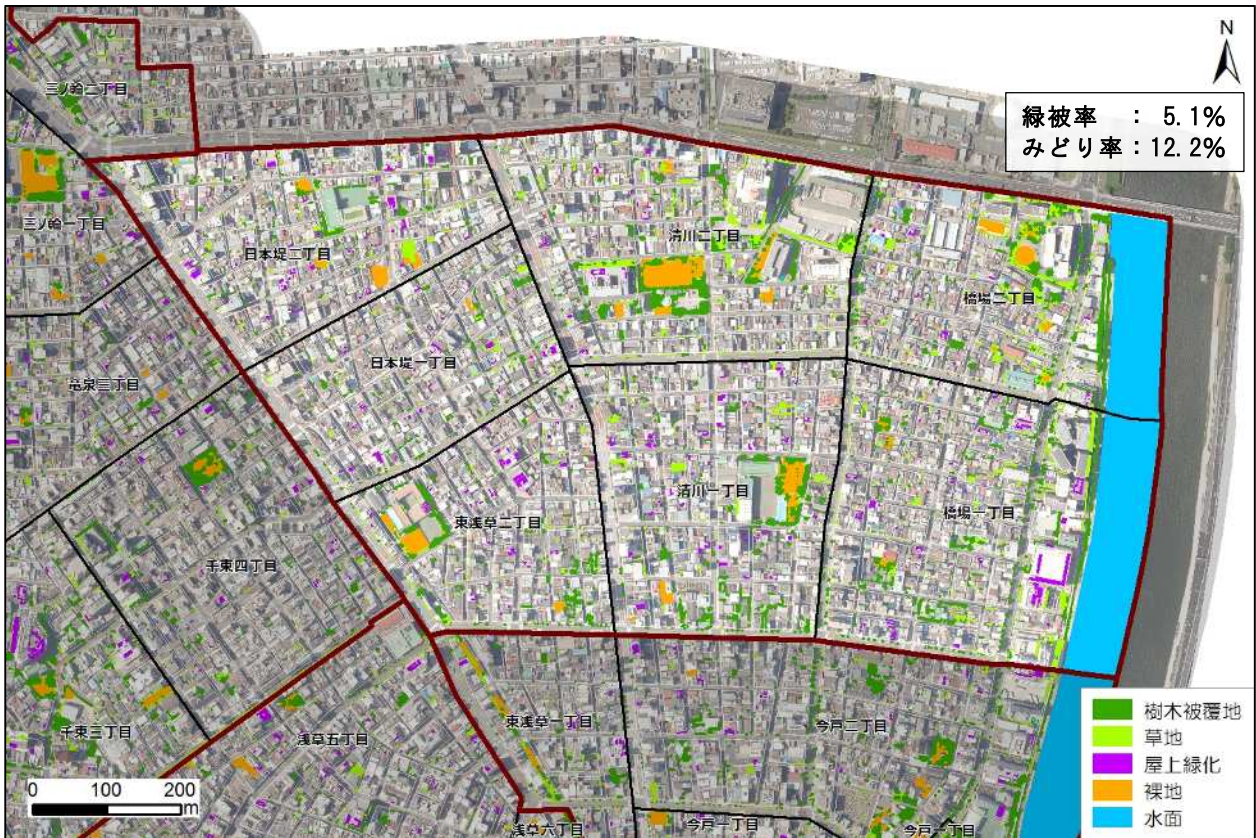


図 4.13 緑被地分布図 (9. 清川)



図 4.14 緑被地分布図 (10. 千束)

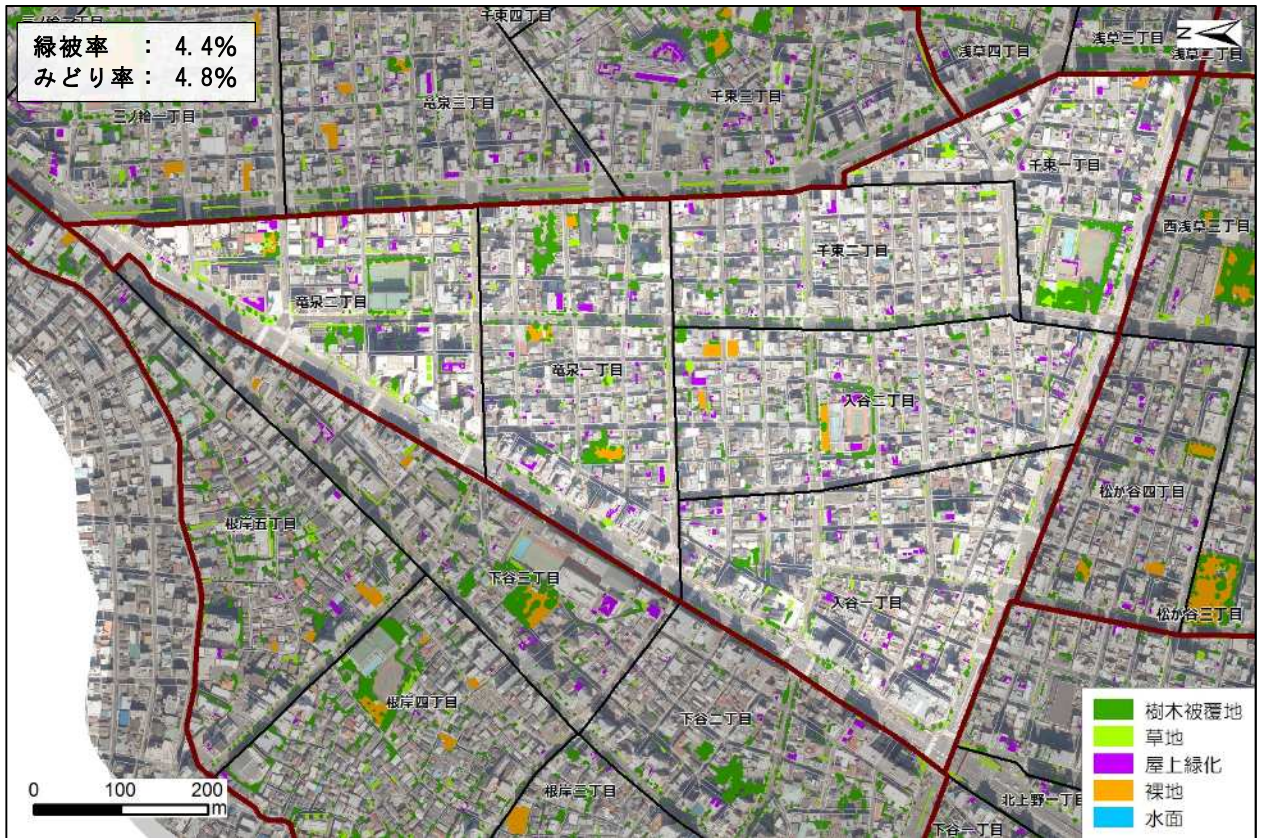


図 4.15 緑被地分布図 (11. 竜泉)



図 4.16 緑被地分布図 (12. 根岸)

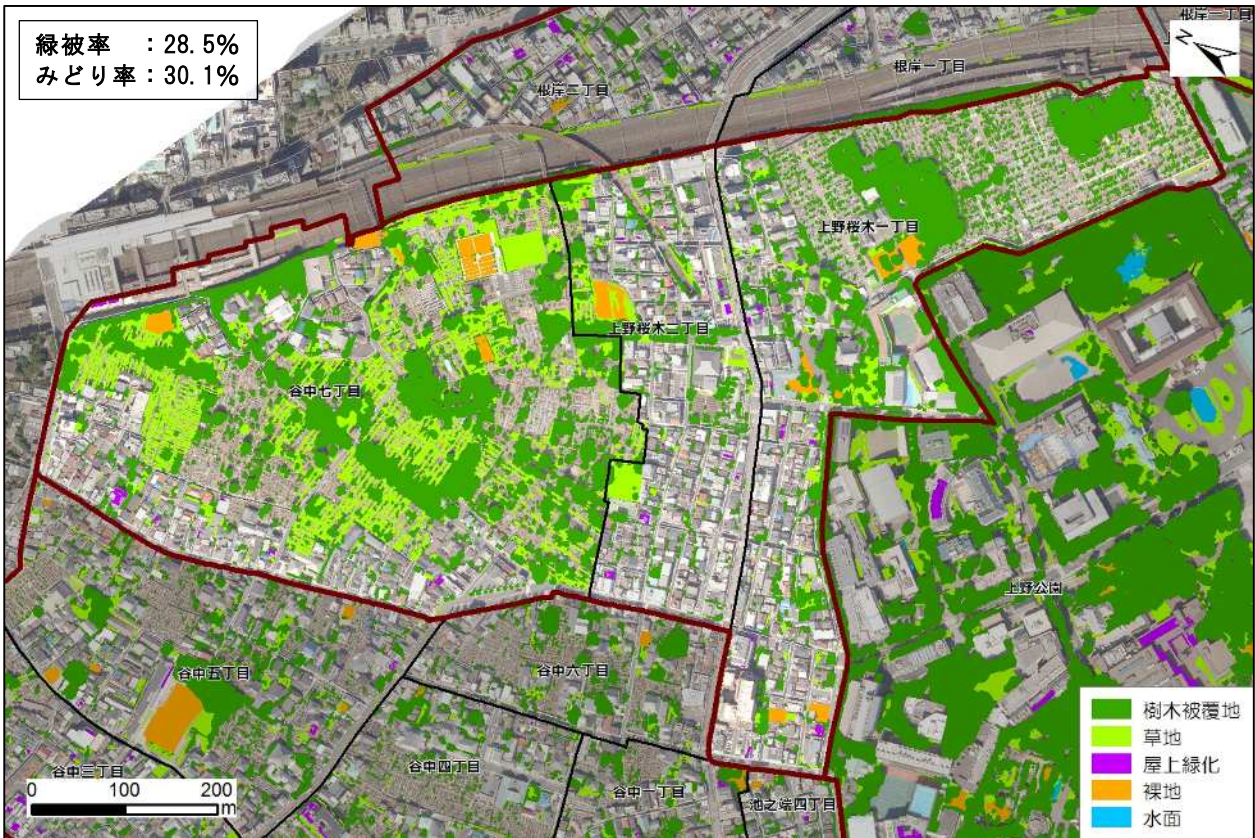


図 4.17 緑被地分布図 (13. 谷中東)

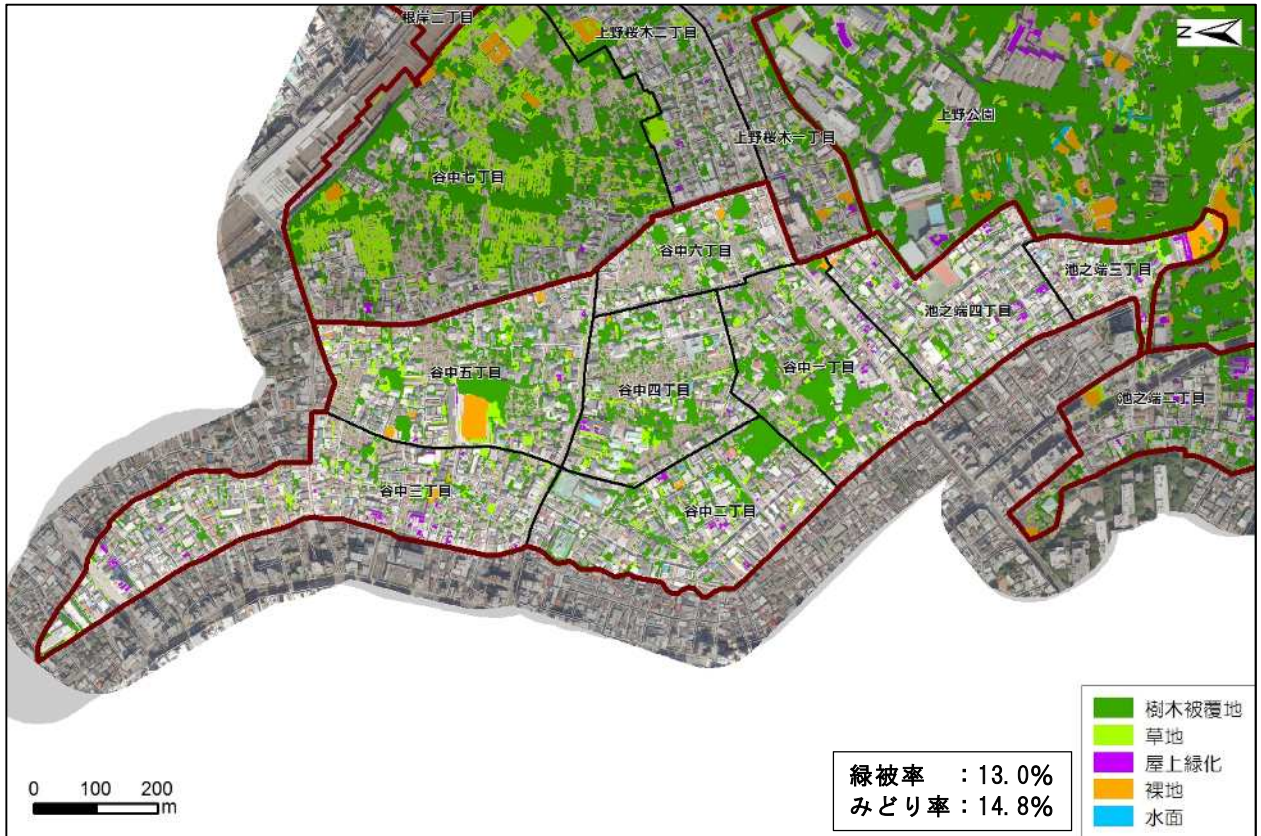


図 4.18 緑被地分布図 (14. 谷中西)

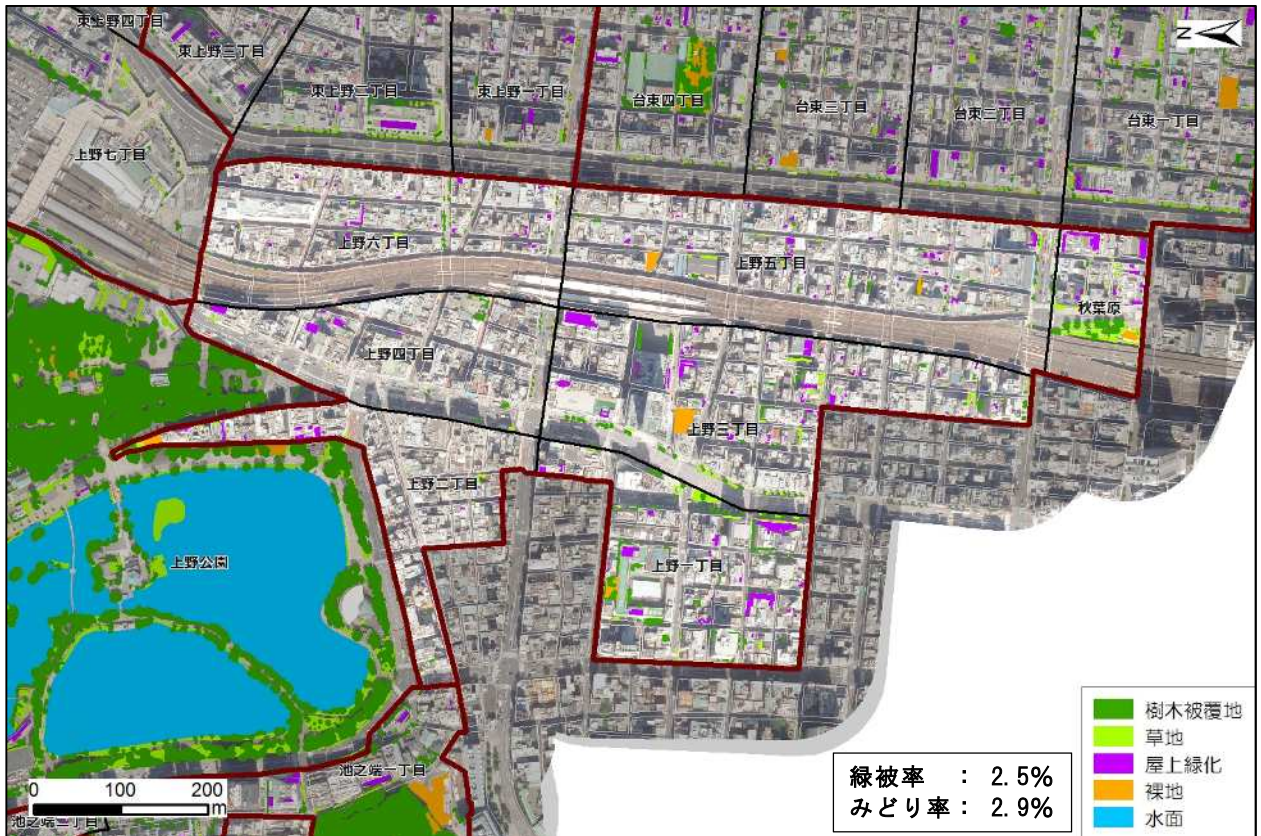


図 4.19 緑被地分布図 (15. 上野)

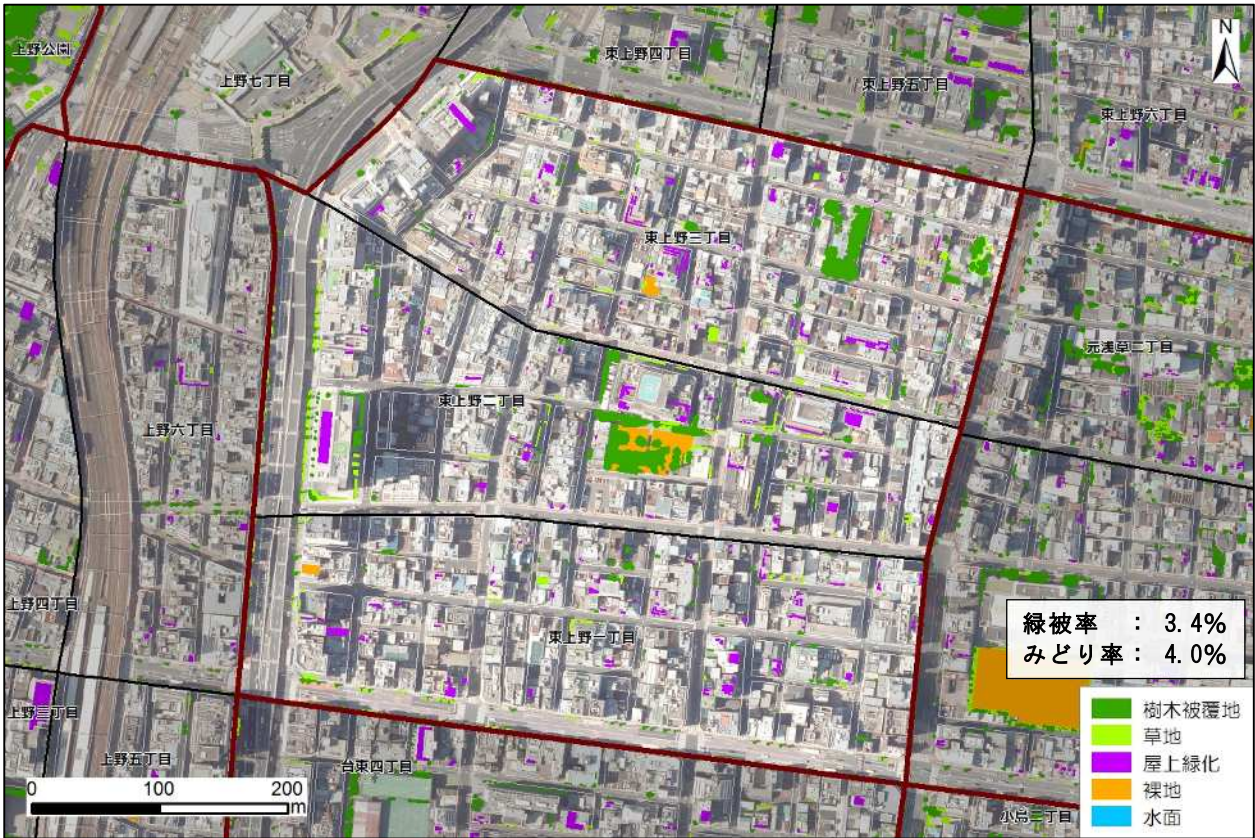


図 4.20 緑被地分布図 (16. 東上野)



図 4.21 緑被地分布図 (17. 北上野)

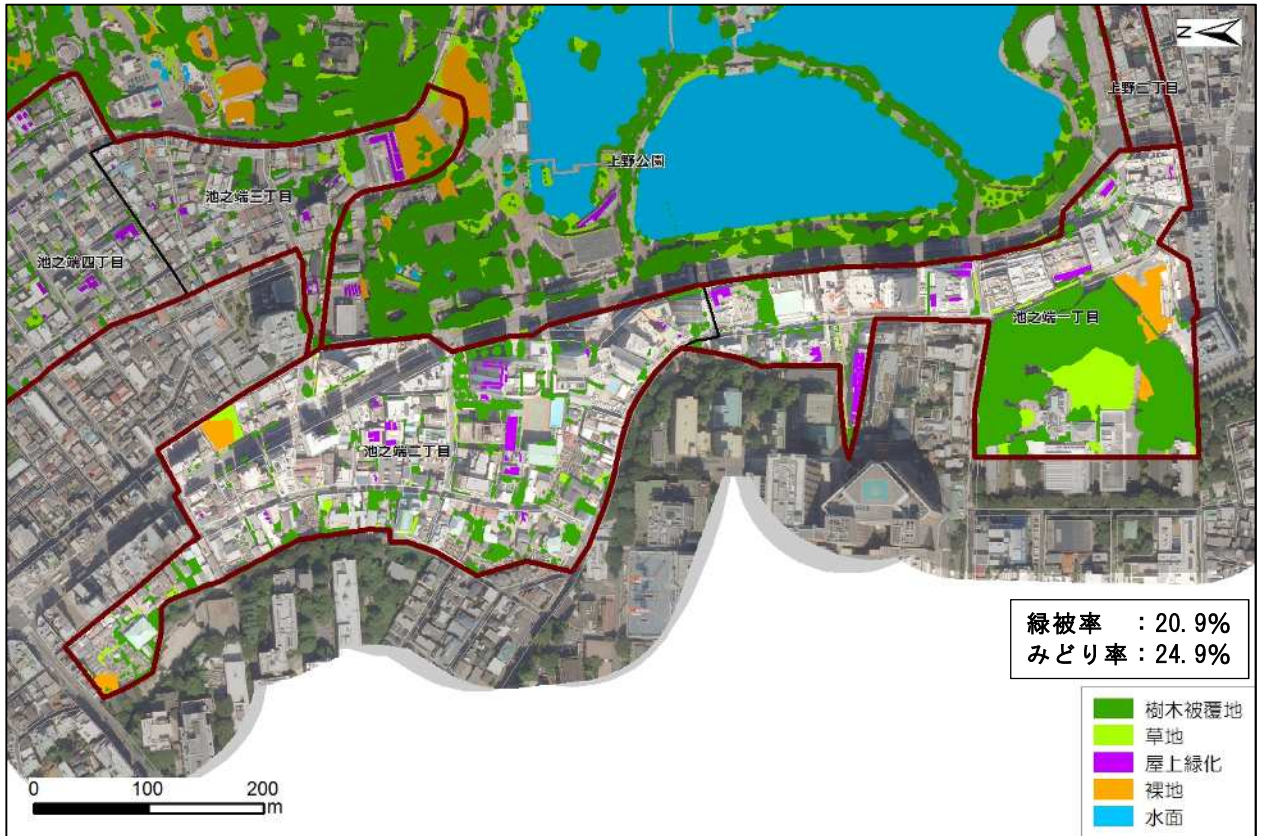


図 4.22 緑被地分布図 (18. 池之端)

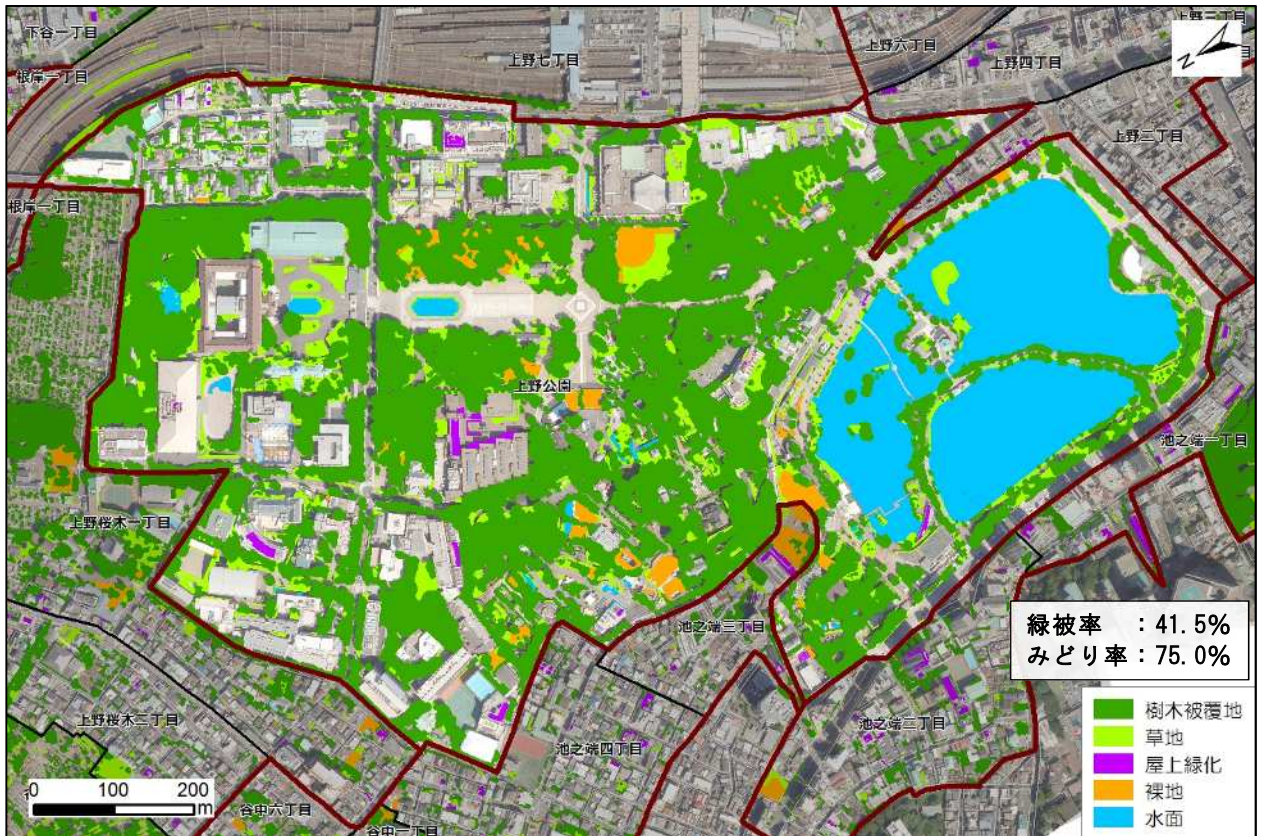


図 4.23 緑被地分布図 (19. 上野公園)

4.2.3 土地利用区分別の緑被状況

本区の緑被を土地利用区分ごとに集計した。土地利用区分は平成28年度土地利用現況データを用いた。

土地利用区分構成比を図4.24に示す。土地利用区分の構成比は、前回の調査時点と比較して道路の割合が26.6%と最も高いのは変わらないが、次いで、住宅用地が20.3%、商業用地が19.1%の順で、住宅用地が増加している。これは近年の人口増加傾向を反映しているものと考えられる。

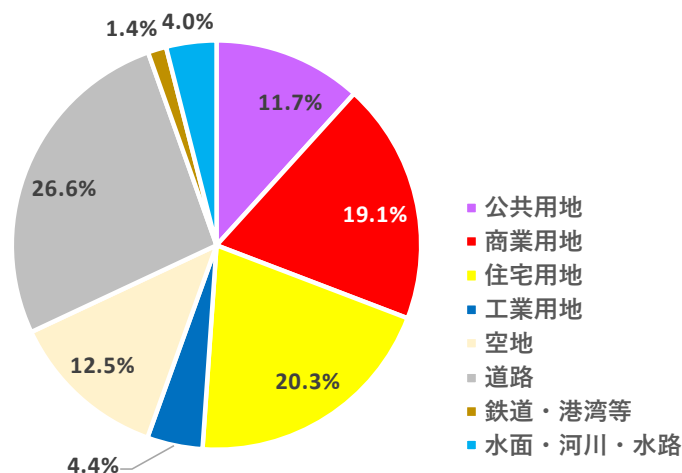


図 4.24 土地利用区分構成比

土地利用における主用途別の緑被率を表4.5に示す。これによると、緑被地面積が最も大きいのは空地における公園・運動場等の38.38haで、次いで公共用地の教育文化施設が25.86ha、道路が13.75haの順となった。緑被地面積が大きい主用途の上位3項目の順番は、前回調査と同様であった。また、緑被率が最も高いのは、公園・運動場等で45.9%（前回調査から9.7ポイント減）で、次いで、教育文化施設が26.0%（同3.2ポイント減）、未利用地等が13.0%（同2.0ポイント減）の順となった。前回調査と比較して増加した主用途は、厚生医療施設11.3%（0.4ポイント増）、宿泊・遊興施設3.9%（0.3ポイント増）、集合住宅5.2%（0.3ポイント増）、及び水面・河川・水路2.2%（0.2ポイント増）の4項目である。

一方、緑被率が低い主用途は、工業用地における住居併用工場の1.8%、次いで、商業用地における住商併用建物の2.3%、工業用地における倉庫運輸関係施設の2.4%の順となった。工業用地系及び商業用地系の土地利用では、区分全体で見ても工業用地が2.1%、商業用地が3.0%と低い緑被率となっている。これらの用途では、ひとつひとつの敷地面積が小さく、配置も密集していることから、まとまった緑化を施すための敷地や屋上を確保することが困難であることが考えられる。

表 4.5 土地利用別の緑被率

区分	主用途	平成30年度面積(ha)							緑被率(%)		前回調査からの変化(ポイント)	
		区分面積	緑被地			裸地	水面	道路・建物など	平成22年度	平成30年度		
			樹木被覆地	草地	屋上緑化							
公共用地	官公庁施設	6.57	0.30	0.13	0.15	0.58	0.02	0.00	5.97	12.0	8.8	▲ 3.2
	教育文化施設	99.62	22.41	2.80	0.65	25.86	1.40	0.31	72.05	29.1	26.0	▲ 3.2
	厚生医療施設	8.22	0.58	0.13	0.22	0.93	0.05	0.00	7.24	10.9	11.3	0.4
	供給処理施設	3.81	0.21	0.10	0.02	0.33	0.02	0.00	3.46	11.2	8.7	▲ 2.5
	小計	118.23	23.50	3.16	1.04	27.70	1.49	0.31	88.73	26.6	23.4	▲ 3.1
商業用地	事務所建築物	75.63	0.88	0.41	0.96	2.25	0.43	0.00	72.95	3.2	3.0	▲ 0.2
	専用商業施設	20.25	0.56	0.12	0.29	0.97	0.03	0.00	19.25	5.0	4.8	▲ 0.2
	住商併用建物	78.72	0.87	0.22	0.72	1.81	0.37	0.01	76.53	3.4	2.3	▲ 1.1
	宿泊・遊興施設	15.70	0.23	0.15	0.23	0.61	0.18	0.00	14.91	3.6	3.9	0.3
	スポーツ・興行施設	1.98	0.17	0.03	0.01	0.21	0.06	0.00	1.71	11.6	10.6	▲ 1.0
	小計	192.28	2.71	0.93	2.21	5.85	1.07	0.01	185.35	3.6	3.0	▲ 0.6
住宅用地	独立住宅	105.06	3.93	0.94	0.53	5.40	0.59	0.00	99.07	8.1	5.1	▲ 2.9
	集合住宅	99.51	2.84	0.87	1.42	5.13	0.23	0.00	94.15	4.9	5.2	0.3
	小計	204.57	6.77	1.81	1.95	10.53	0.82	0.00	193.22	6.8	5.1	▲ 1.6
工業用地	専用工場	3.21	0.04	0.02	0.02	0.08	0.03	0.00	3.10	3.9	2.5	▲ 1.4
	住居併用工場	21.53	0.17	0.06	0.15	0.38	0.10	0.00	21.05	2.9	1.8	▲ 1.2
	倉庫運輸関係施設	19.40	0.32	0.10	0.05	0.47	0.17	0.00	18.76	3.2	2.4	▲ 0.8
	小計	44.14	0.53	0.18	0.22	0.93	0.30	0.00	42.91	3.1	2.1	▲ 1.0
空地	屋外利用地・仮設建物	32.24	0.89	0.42	0.04	1.35	0.51	0.00	30.38	5.2	4.2	▲ 1.0
	公園・運動場等	83.65	32.85	5.52	0.01	38.38	5.99	0.35	38.93	55.6	45.9	▲ 9.7
	未利用地等	10.53	0.59	0.62	0.16	1.37	0.38	0.01	8.77	15.0	13.0	▲ 2.0
	小計	126.43	34.33	6.56	0.21	41.10	6.88	0.36	78.09	39.1	32.5	▲ 6.6
道路		267.70	11.72	2.01	0.02	13.75	0.07	0.02	253.86	7.0	5.1	▲ 1.9
鉄道・港湾等		14.61	0.57	0.32	0.00	0.89	0.00	0.01	13.71	8.3	6.1	▲ 2.2
水面・河川・水路		40.05	0.60	0.28	0.01	0.89	0.01	38.46	0.69	2.0	2.2	0.2
合計		1008.00	80.73	15.25	5.66	101.64	10.64	39.17	856.55	12.3	10.1	▲ 2.2

※土地利用データを基に集計したものであり、公共性が高い施設の緑被状況や公遊園等調査結果とは異なる。
 ※緑被地等の面積は小数点第三位で四捨五入し、合計値が表 4-1 及び 4-3 の値整合するよう調整した。

緑被地面積（101.64 ha）の土地利用区分別構成比を図 4.25 に示す。公園・運動場等を含む空地の構成比が最も大きく 40.4 %、次いで教育文化施設を含む公共用地系の構成比が 27.3 %、道路の構成比が 13.5 %となっている。

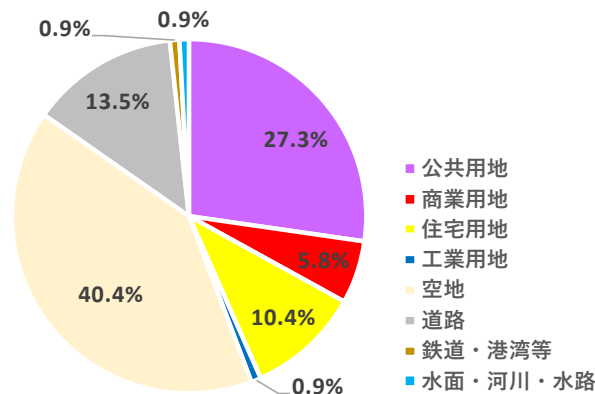


図 4.25 緑被地の土地利用区分別構成比

4.2.4 用途地域別の緑被状況

用途地域別の緑被率を表 4.6 に示す。これによると、緑被率は第二種住居地域が 60.0 % (前回調査から 3.7 ポイント減) で最も高く、次いで第一種中高層住居専用地域が 37.2 % (同 7.4 ポイント減)、第二種中高層住居専用地域が 25.0 % (同 7.3 ポイント減) の順となっており、住居系の地域の緑被率が高いことがわかる。

一方、緑被率が低いのは商業地域 (4.9 %)、近隣商業地域 (6.4 %)、準工業地域 (7.2%) の順となっており、土地利用区分別と同様に、規模の小さな事業所・工場などが密集する商業系・工業系の地域の緑被率が低いことがわかる。

表 4.6 用途地域別の緑被率

用途	区分面積 (ha)	緑被地面積(ha)				緑被率(%)		前回調査からの変化 (ポイント)
		合計	樹木被覆地	草地	屋上緑化	平成 22年度	平成 30年度	
第一種中高層住居専用地域	114.10	42.40	36.55	5.63	0.22	44.5	37.2	▲ 7.4
第二種中高層住居専用地域	3.80	0.95	0.74	0.21	0.00	32.3	25.0	▲ 7.3
第一種住居地域	79.80	15.99	13.47	2.27	0.25	26.5	20.0	▲ 6.5
第二種住居地域	3.10	1.86	1.52	0.31	0.03	63.7	60.0	▲ 3.7
近隣商業地域	95.50	6.11	4.42	1.16	0.53	7.8	6.4	▲ 1.4
商業地域	670.70	33.02	23.36	5.04	4.62	5.9	4.9	▲ 1.0
準工業地域	8.30	0.60	0.39	0.20	0.01	8.5	7.2	▲ 1.3
指定なし	32.70	0.71	0.28	0.43	0.00	2.9	2.2	▲ 0.8
台東区合計	1,008.00	101.64	80.73	15.25	5.66	12.3	10.1	▲ 2.2

※緑被地等の面積は小数点第三位で四捨五入し、合計値が表 4-1 及び 4-3 の値を整合するよう調整した。

【用途地域の説明】

- ・ 第一種中高層住居専用地域：中高層住宅の良好な環境を守るための地域で病院、大学、500 m² までの一定の店舗などを建てることできる。
- ・ 第二種中高層住居専用地域：主に中高層住宅の良好な環境を守るための地域で、病院、大学、1,500 m² までの一定の店舗や事務所などが建てることできる。
- ・ 第一種住居地域：住居環境を守るための地域で、3,000 m² までの店舗、事務所、ホテルなどが建てることできる。
- ・ 第二種住居地域：主に住居の環境を守るための地域で、店舗、事務所、ホテル、パチンコ屋、カラオケボックスなどは建てることできる。
- ・ 近隣商業地域：近隣の住民が日用品の買い物をする店舗等の業務の利便の増進を図る地域で住宅や店舗のほか小規模の工場も建てることできる。
- ・ 商業地域：銀行、映画館、飲食店、百貨店、事務所などの業務の利便の増進を図る地域で、住宅や小規模の工場も建てることできる。
- ・ 準工業地域：主に軽工業に関する工場といった環境悪化の恐れのない工業の利便を図る地域で、危険性や環境悪化が大きい工場のほかは、ほとんど建てることできる。

4.2.5 公共性が高い施設の緑被状況

本区内の公共性が高い施設について、その緑被率を集計した。公共施設別の緑被率を表4.7に示す。

公共施設の中で緑被率が最も高いのは大学で36.0%（緑被地面積2.29ha）であった。次いで、中学校が16.6%（同0.71ha）、小学校が14.1%（同1.21ha）の順となった。

表4.7 公共施設別の緑被状況

種別	平成30年度面積(ha)								緑被率(%)		平成22年度からの増減(ポイント)
	施設敷地	樹木被覆地	草地	屋上緑化	緑被地	裸地	水面	建物・道路など	平成22年度	平成30年度	
一般	17.84	1.51	0.41	0.28	2.20	0.09	0.00	15.55	12.9	12.3	▲ 0.6
小学校	8.61	0.87	0.07	0.27	1.21	0.02	0.00	7.38	16.1	14.1	▲ 2.1
中学校	4.31	0.62	0.04	0.06	0.71	0.00	0.00	3.59	15.1	16.6	▲ 1.4
都立高校	5.04	0.42	0.06	0.07	0.54	0.49	0.00	4.01	10.4	10.7	▲ 0.3
大学	6.34	2.01	0.26	0.01	2.29	0.02	0.00	4.04	37.0	36.0	▲ 1.0
私立学校	1.04	0.06	0.02	0.04	0.13	0.00	0.00	0.91	10.9	12.1	▲ 1.2
区営住宅	0.20	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.19	6.6	4.3	▲ 2.2
都営住宅	1.25	0.06	0.02	0.01	0.09	0.01	0.00	1.14	8.1	7.4	▲ 0.7
職員住宅	0.16	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.15	7.0	4.0	▲ 3.0
台東区合計	44.79	5.55	0.88	0.75	7.18	0.63	0.01	36.97	16.6	16.0	▲ 0.6

4.2.6 緑被状況の推移

ゾーン別の緑被率の推移を表4.8及び図4.26に示す。前述の通り、本区全体の緑被率は10.1%となり、前回調査から2.2ポイント減少している。ゾーン別に見ると、すべてのゾーンにおいて緑被率が減少しており、最も減少幅の大きいゾーンは13.谷中東で9.3ポイント、次いで19.上野公園が6.4ポイント、14.谷中西が6.3ポイントの順となった。一方、緑被率の減少幅が最も小さいゾーンは7.浅草北で0.8ポイント、次いで15.上野と16.東上野で1.1ポイントの順となった。

表 4.8 ゾーン別の緑被率の推移

ゾーン	平成12年度			平成22年度			平成30年度			平成22年度からの増減							
	緑被率(%)			緑被率(%)			緑被率(%)			緑被率(ポイント)							
	樹木被覆地	草地	屋上緑化	樹木被覆地	草地	屋上緑化	樹木被覆地	草地	屋上緑化	樹木被覆地	草地	屋上緑化					
1	浅草橋	1.4	0.0	0.1	1.5	3.2	1.4	0.6	5.2	2.6	0.7	0.7	4.0	▲0.6	▲0.7	0.1	▲1.2
2	台東	1.4	0.0	0.2	1.6	3.2	1.3	1.2	5.6	2.3	0.8	0.8	3.9	▲0.9	▲0.5	▲0.4	▲1.7
3	蔵前	1.6	0.0	0.1	1.7	3.5	1.7	0.6	5.8	2.6	1.0	0.7	4.3	▲0.9	▲0.7	0.1	▲1.5
4	寿	2.5	0.0	0.1	2.6	4.0	1.9	0.6	6.6	3.2	0.8	0.5	4.5	▲0.8	▲1.1	▲0.1	▲2.1
5	西浅草	4.1	0.0	0.2	4.3	5.7	1.0	0.6	7.3	4.7	0.6	0.6	6.0	▲1.0	▲0.4	▲0.0	▲1.3
6	浅草南	8.1	0.1	0.2	8.4	9.3	1.4	0.5	11.1	7.6	1.1	0.7	9.5	▲1.7	▲0.3	0.2	▲1.6
7	浅草北	1.7	0.0	0.1	1.8	3.9	0.5	0.7	5.1	3.0	0.6	0.7	4.3	▲0.9	0.1	0.0	▲0.8
8	今戸	9.3	0.7	0.1	10.1	10.9	2.2	0.2	13.4	8.4	2.1	0.3	10.8	▲2.5	▲0.1	0.1	▲2.6
9	清川	3.6	0.2	0.1	3.9	4.6	1.8	0.4	6.8	3.2	1.4	0.4	5.1	▲1.4	▲0.4	0.0	▲1.7
10	千束	3.2	0.1	0.1	3.4	3.8	1.4	0.6	5.7	3.1	0.9	0.6	4.5	▲0.7	▲0.5	0.0	▲1.2
11	竜泉	2.2	0.0	0.1	2.3	4.1	1.4	0.6	6.2	2.9	0.8	0.7	4.4	▲1.2	▲0.6	0.1	▲1.8
12	根岸	5.1	0.1	0.1	5.3	7.0	2.3	0.4	9.7	5.6	0.9	0.5	7.0	▲1.4	▲1.4	0.1	▲2.7
13	谷中東	35.8	1.0	0.0	36.8	27.5	10.2	0.1	37.8	22.1	6.2	0.2	28.5	▲5.4	▲4.0	0.1	▲9.3
14	谷中西	13.7	0.2	0.0	13.9	14.8	4.3	0.3	19.3	11.0	1.6	0.4	13.0	▲3.8	▲2.7	0.1	▲6.3
15	上野	0.5	0.0	0.2	0.7	1.6	0.9	1.0	3.6	1.1	0.5	0.9	2.5	▲0.5	▲0.4	▲0.1	▲1.1
16	東上野	1.4	0.0	0.1	1.5	2.7	0.8	1.0	4.5	2.0	0.5	0.9	3.4	▲0.7	▲0.3	▲0.1	▲1.1
17	北上野	2.3	0.1	0.2	2.6	4.3	1.9	0.5	6.7	3.9	1.1	0.5	5.4	▲0.4	▲0.8	▲0.0	▲1.3
18	池之端	15.5	2.6	0.0	18.1	16.2	5.4	1.0	22.6	16.8	2.9	1.2	20.9	0.6	▲2.5	0.2	▲1.7
19	上野公園	38.6	0.8	0.0	39.4	42.7	5.1	0.2	47.9	37.2	4.1	0.2	41.5	▲5.5	▲1.0	0.0	▲6.4
	合計	8.1	0.2	0.1	8.4	9.4	2.3	0.5	12.3	8.0	1.5	0.6	10.1	▲1.4	▲0.8	0.1	▲2.2

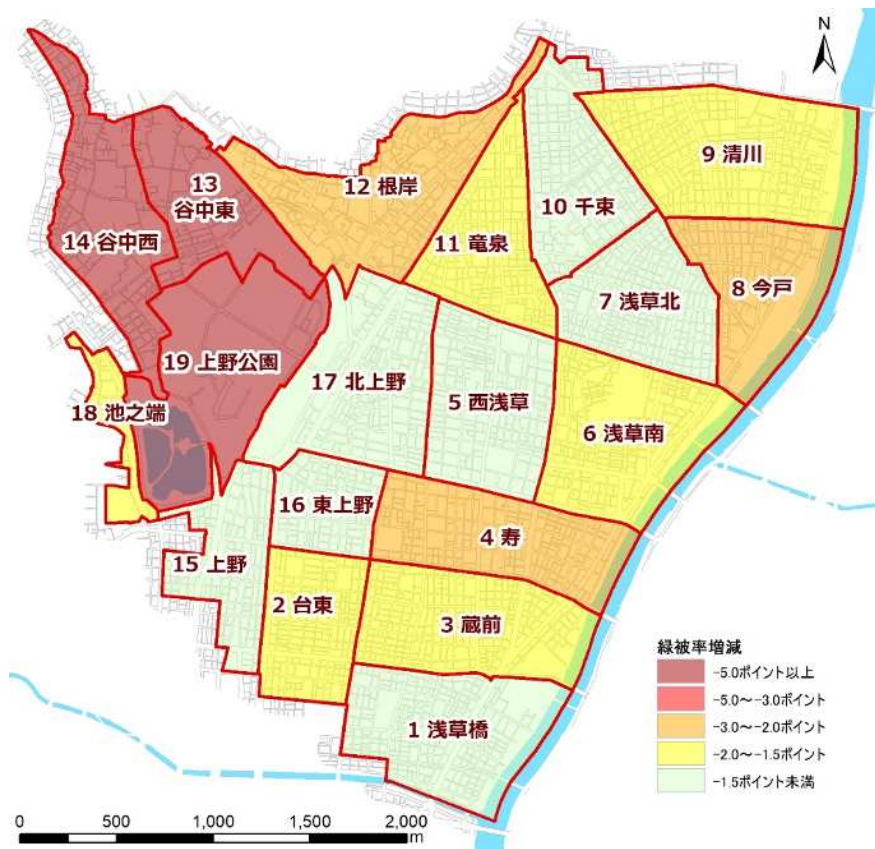


図 4.26 前回調査から今回調査にかけての緑被率増減

第5章 樹林調査

樹林とは、樹冠がふれあう程度に密集している一群の樹木をいう（街路樹等の列状の樹林を除く）。

5.1 調査方法

本区において、武蔵野の雑木林のような樹林はほとんど存在しないが、公園、学校、寺社などに適度な広がりを持った樹木被覆地の一群が存在する。今回の樹林調査は、前回調査に引き続き、小規模な樹林も調査するため、抽出した樹木被覆地のうち面積 100 m² 以上の樹林を対象として実施し、面積 300 m² 以上の樹林については現地調査も合わせて行った。

調査項目を以下に示す。

(1) 航空写真調査

100 m² 以上の樹林に関して以下の項目について集計を行った。

- ① 所在地
- ② 樹林面積

(2) 現地調査

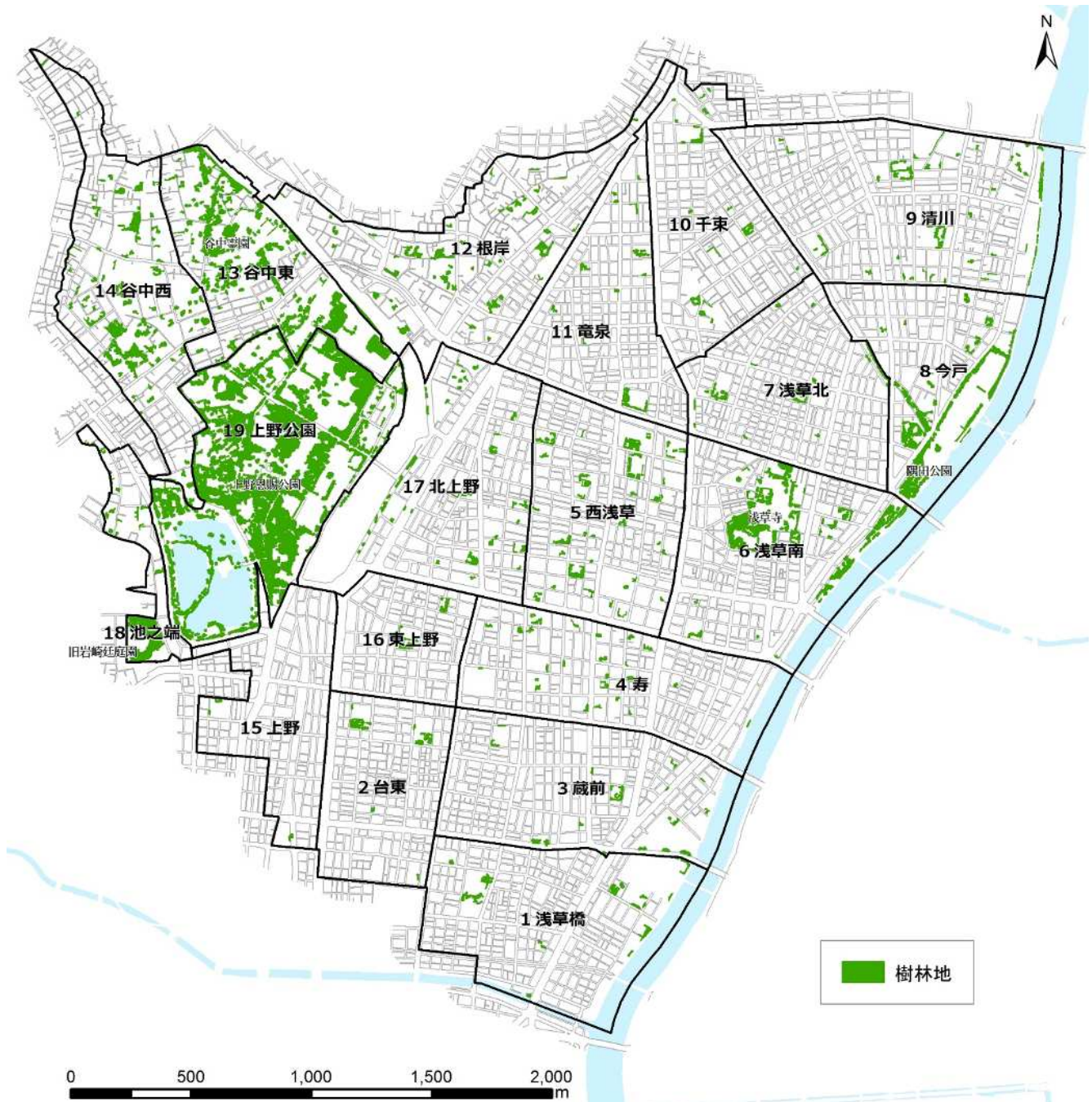
300 m² 以上の樹林に関して以下の項目について調査を行った。

- ① 所在地
- ② 土地利用形態
- ③ 所有者・管理者
- ④ 構成樹種
- ⑤ 樹林面積
- ⑥ 樹林形態（階層構造による分類）
- ⑦ 健康度
- ⑧ 人的管理
- ⑨ 立入りの可否

5.2 調査結果

5.2.1 樹林の規模と分布状況

台東区全体における面積 100 m² 以上の樹林は、合計 910 箇所（前回調査から 3 箇所増加）、面積は 591,960m²（同 91,155 m² 減少）であった。樹林地の分布を図 5.1 に示す。これによると、上野恩賜公園、隅田公園、旧岩崎邸庭園、浅草寺、谷中霊園周辺に樹林が多く分布していることがわかる。



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

図 5.1 樹林地分布図

次に、樹林地面積規模の内訳及び構成比を表 5.1 及び図 5.2 に示す。規模別の箇所数では、面積 100～300 m² 未満の樹林地が、607 箇所（66.7%）を占め、面積 300 m² 以上が合わせて 303 箇所（33.3%）であった。一方、面積比で見ると、10,000 m² 以上の樹林地が 30.4% で最も広く、面積 100～300 m² 未満の割合は 17.2% となった。

前回調査との比較では、100～300 m² 未満の樹林地箇所数は 33 箇所減少しているのに対し、300 m² 以上の樹林地箇所数は合わせて 36 箇所増加している。面積区分で見ると、300～500 m² 未満が 16 箇所、500～1000 m² 未満が 25 箇所増えている。

表 5.1 樹林の内訳

面積区分	平成22年度		平成30年度						平成22年度からの増減(B)-(A)
	箇所数(A)	面積(m ²)	箇所数(B)	面積(m ²)	構成比(%)		面積比(%)		
					300m ² 以上のみ	300m ² 以上のみ			
100~300m ² 未満	640	-	607	101,750	66.7	-	17.2	-	▲ 33
300~500m ² 未満	97	-	113	43,373	12.4	37.3	7.3	8.8	16
500~1,000m ² 未満	83	-	108	72,366	11.9	35.6	12.2	14.8	25
1,000~3,000m ² 未満	54	-	56	90,159	6.2	18.5	15.2	18.4	2
3,000~5,000m ² 未満	13	-	14	51,195	1.5	4.6	8.6	10.4	1
5,000~10,000m ² 未満	12	-	7	53,267	0.8	2.3	9.0	10.9	▲ 5
10,000m ² 以上	8	-	5	179,850	0.5	1.7	30.4	36.7	▲ 3
台東区合計	907	683,115	910	591,960	100.0	100.0	100.0	100.0	3

・ 前回調査では面積区分別の面積は集計していないため、面積は合計値のみ記載した。

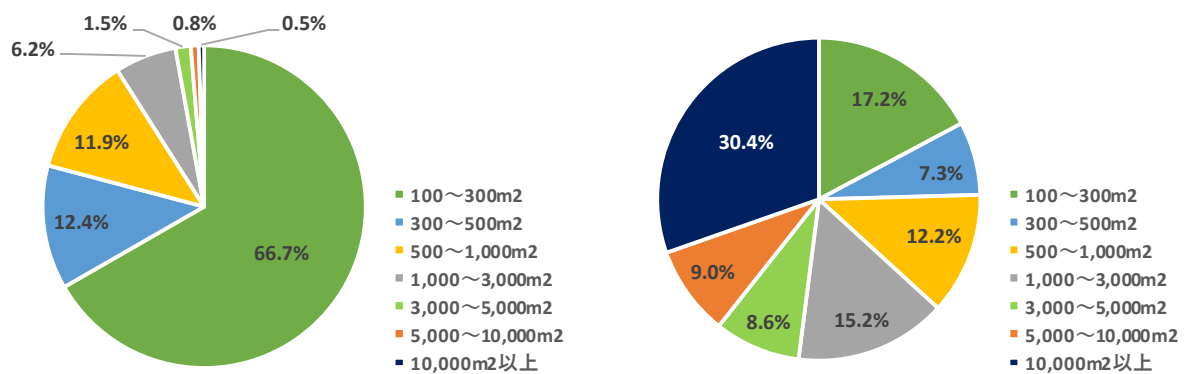


図 5.2 規模別樹林構成比 (総数)
(左：箇所数比、右：面積比)

前々回、前回調査との比較のため、参考として面積区分 300 m² 以上の樹林の構成比を図 5.3 に示す。

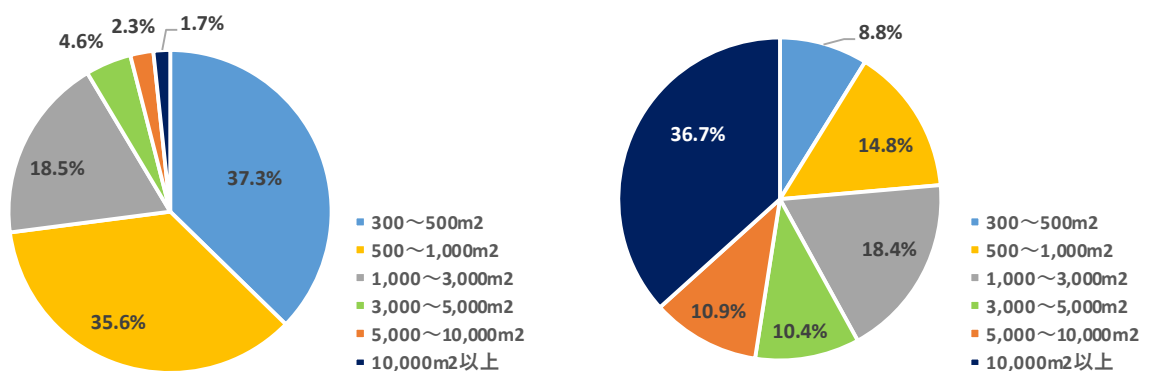


図 5.3 規模別樹林構成比 (300m²以上)
(左：箇所数比、右：面積比)

5.2.2 樹林の土地利用

土地利用区分別の樹林箇所数と構成比を表 5.2 及び図 5.4 に示す。

土地利用区分別の樹林箇所数を見ると、最も多いのは道路の 615 箇所（22.6%）で、次いで教育文化施設の 550 箇所（20.2%）、公園・運動場等が 516 箇所（18.9%）の順となった。面積で見ると、公園・運動場等が 290,299 m²（49.0%）で最も広く、教育文化施設の 184,305 m²（31.1%）と合わせて全体の 8 割以上を占めている。

表 5.2 土地利用別の樹林箇所数

土地利用区分		箇所数		面積	
		箇所数	構成比	面積(m ²)	構成比
公共用地	官公庁施設	26	1.0%	1,693	0.3%
	教育文化施設	550	20.2%	184,305	31.1%
	厚生医療施設	25	0.9%	3,528	0.6%
	供給処理施設	11	0.4%	1,306	0.2%
	小計	612	22.4%	190,832	32.2%
商業用地	事務所建築物	73	2.7%	3,550	0.6%
	専用商業施設	40	1.5%	4,288	0.7%
	住商併用建物	118	4.3%	3,122	0.5%
	宿泊・遊興施設	14	0.5%	565	0.1%
	スポーツ・興行施設	8	0.3%	1,386	0.2%
	小計	253	9.3%	12,911	2.2%
住宅用地	独立住宅	275	10.1%	12,978	2.2%
	集合住宅	168	6.2%	10,504	1.8%
	小計	443	16.2%	23,482	4.0%
工業用地	専用工業	5	0.2%	70	0.0%
	住居併用工場	40	1.5%	394	0.1%
	倉庫運輸関係施設	35	1.3%	1,841	0.3%
	小計	80	2.9%	2,305	0.4%
空地	屋外利用地・仮設建物	98	3.6%	4,413	0.7%
	公園、運動場等	516	18.9%	290,299	49.0%
	未利用地等	44	1.6%	3,821	0.6%
	小計	658	24.1%	298,533	50.4%
道路		615	22.6%	53,684	9.1%
鉄道・港湾等		22	0.8%	5,133	0.9%
水面・河川・水路		44	1.6%	5,080	0.9%
合計		2,727	100.0%	591,960	100.0%

- ・複数の土地利用に樹林がまたがっている場合は、それぞれの土地利用に重複して箇所数をカウントしている。そのため、箇所数は表 5.1 に示したものと一致しない。
- ・面積は小数点以下を四捨五入し、合計面積が表 5-1 と整合するよう調整した。

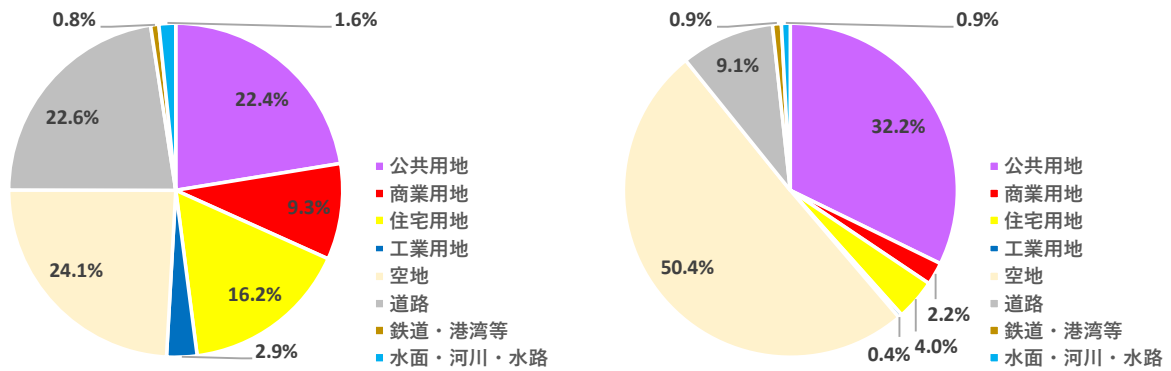


図 5.4 土地利用別樹林箇所数の構成比
(左：箇所数、右：面積)

5.2.3 ゾーン別の樹林状況

ゾーン別の樹林箇所数及び面積を表 5.3 に示す。樹林箇所数が最も多いゾーンは 19.上野公園で 219 箇所 (291,822 m²)、次いで 13.谷中東が 135 箇所 (73,995 m²)、14.谷中西が 101 箇所 (35,744 m²) の順となった。面積では、樹林箇所数最多の 19.上野公園が最も広く 291,822 m² (219 箇所)、次いで 13.谷中東が 73,995 m² (135 箇所)、6.浅草南が 39,620 m² (64 箇所) の順である。また、樹林面積率で見ると、やはり 19.上野公園が 35.46% で最も高く、次いで 13.谷中東が 16.64%、18.池之端が 13.41% の順となっている。一方、樹林箇所数が最も少ないゾーンは 16.東上野で 6 箇所、次いで 2.台東が 11 箇所、15.上野が 14 箇所の順となり、樹林面積率が低いのは、15.上野 0.27%、3.蔵前 0.91%、10.千束 1.03% の順になっている。

表 5.3 ゾーン別樹林箇所数及び面積

ゾーン	ゾーン面積 (ha)	箇所数	面積 (m ²)	樹林面積率 (%)	
1	浅草橋	61.90	24	7,615	1.23
2	台東	38.01	11	4,157	1.09
3	蔵前	60.56	23	5,501	0.91
4	寿	56.68	29	5,944	1.05
5	西浅草	55.77	48	15,109	2.71
6	浅草南	65.19	64	39,620	6.08
7	浅草北	49.49	21	6,507	1.31
8	今戸	49.58	53	32,275	6.51
9	清川	79.79	50	11,023	1.38
10	千束	49.29	21	5,084	1.03
11	竜泉	46.19	15	5,176	1.12
12	根岸	66.84	51	18,202	2.72
13	谷中東	44.48	135	73,995	16.64
14	谷中西	55.76	101	35,744	6.41
15	上野	37.65	14	1,023	0.27
16	東上野	26.34	6	3,007	1.14
17	北上野	68.50	53	11,800	1.72
18	池之端	13.69	23	18,356	13.41
19	上野公園	82.29	219	291,822	35.46
合計	1008.00	961	591,960	5.87	

- ・複数のゾーンに樹林がまたがっている場合は、それぞれのゾーンで重複して箇所数をカウントしている。そのため、箇所数は表 5.1 に示したものと一致しない。
- ・面積は小数点以下で四捨五入し、合計面積が表 5-1 と整合するよう調整した。
- ・1 ha = 10,000 m²

ゾーン別の樹林箇所数を図 5.5 に、樹林面積率を図 5.6 にそれぞれ示す。

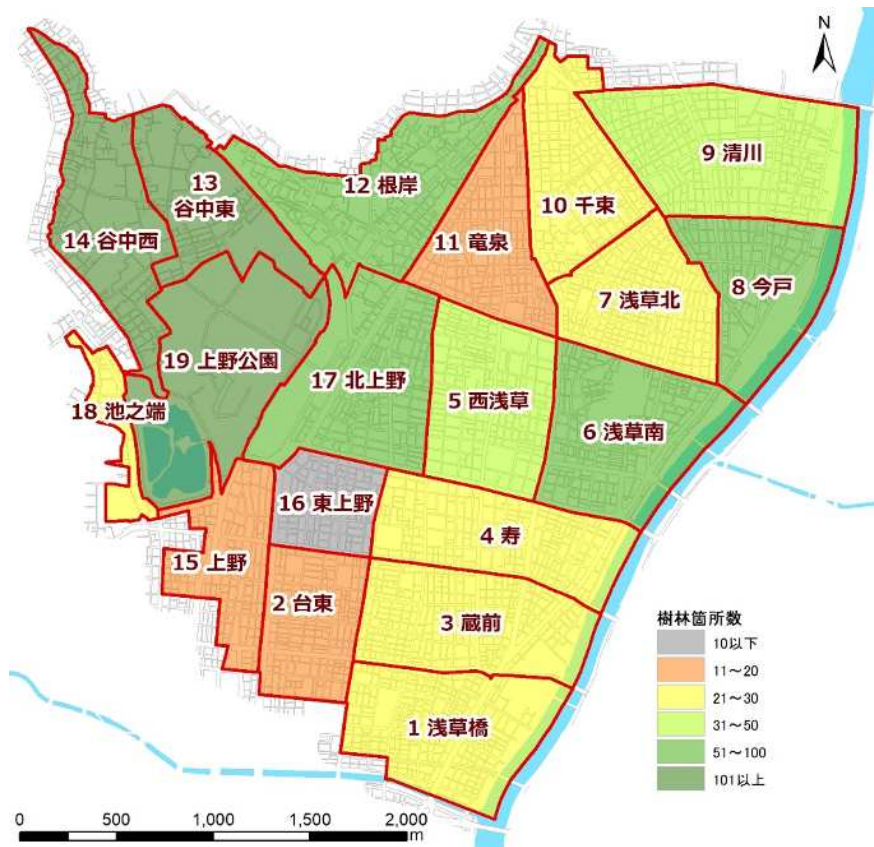


図 5.5 ゾーン別樹林箇所数

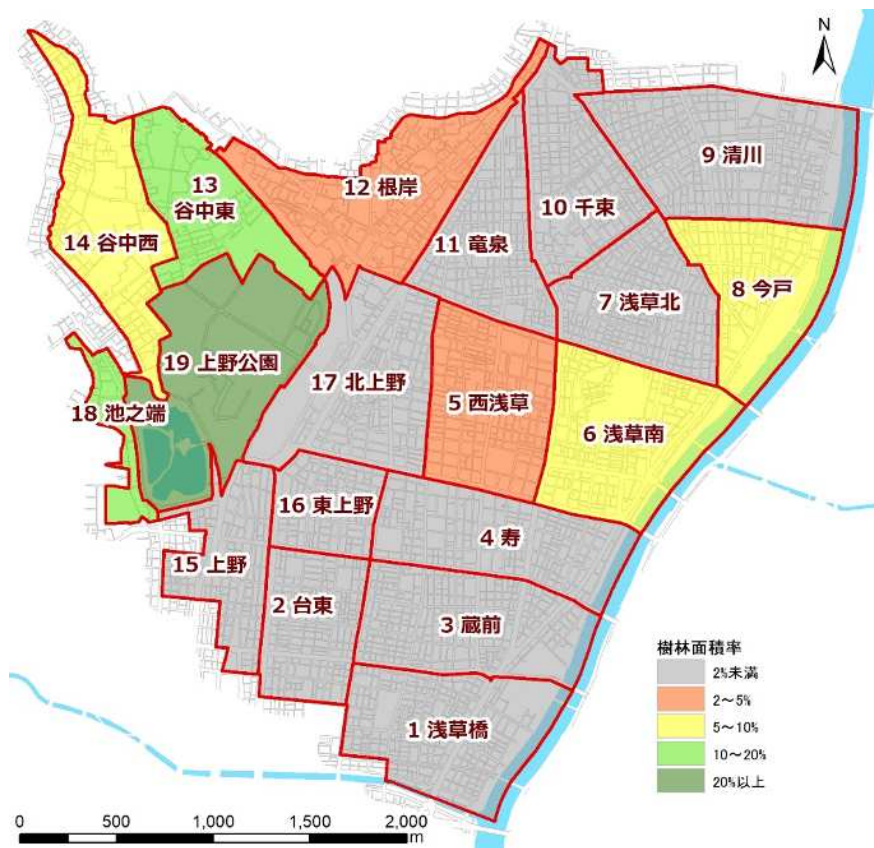


図 5.6 ゾーン別樹林面積率

5.2.4 樹林の現地調査

前回調査で確認した 300 m² 以上の樹林 (267 箇所) の追跡調査及び新たに確認した 300 m² 以上の樹林について調査を行った。

前回調査した 267 箇所のうち 66 箇所で樹林面積の減少や樹林消失があった。

新たに確認した 300 m² 以上の樹林の現地調査の結果を表 5.5 に示す。新たに確認した 300 m² 以上の樹林 8 箇所のうち、1 箇所は民間敷地の公開空地で緑化計画によるものである。他の 7 箇所の樹林は、前回調査時点には 300 m² 未満の樹木被覆地としてあったものが自然生長によって樹冠面積が増大したことや、隣接する樹木と連旦したこと等により 300 m² 以上になったと考えられる。

表 5.5 現地調査の結果

	ゾーン名	樹林のある敷地	面積(m ²)	備考
1	蔵前	公共用地	330	複層林(林床植生あり)
2	寿	学校用地	314	単層林
3	西浅草	寺社等敷地	445	複層林(林床植生あり)
4	西浅草	民間敷地	1,507	複層林(林床植生あり)
5	浅草南	学校用地	387	単層林
6	北上野	公園敷地	360	複層林(林床植生あり)
7	北上野	公園敷地	432	複層林(林床植生あり)
8	上野公園	公共用地	441	複層林(林床植生あり)
合 計			3,771	

増加した樹林の事例を表 5.8 及び表 5.9 に示す。

表 5.8 は寺社敷地内の樹林である。前回調査時点にも存在していたものと考えられることから、樹木の自然生長によって樹冠面積が増大したことによって、新たに 300 m²以上の樹林となったものと考えられる。

表 5.8 樹林の事例（寺社敷地内）

	施設名	〒寺	
	土地利用	寺社	
	構成樹種	高木:	サクラ、クスノキ、カヤ、クロマツ、ナツメ
		中木:	ツバキ、ウメ
		低木:	ツツジ、ササ類
		地被:	
	特記事項	樹種が多い。	
健康度	中		
管理状況	中		

表 5.9 は民間敷地内の樹林で唯一新設された樹林である。建物を取り囲む形で樹林を構成している事例である。

表 5.9 樹林の事例（民間敷地内）

	施設名	A マンション	
	土地利用	事業所・集合住宅	
	構成樹種	高木:	クスノキ、シラカシ、アラカシ、シマトネリコ
		中木:	フジ、イヌマキ、モッコク
		低木:	イヌツゲ、アジサイ
		地被:	ノビル、オモト
	特記事項	公開空地として近隣住民の憩いの場となっている。	
健康度	良		
管理状況	多		

第6章 屋上緑化調査

屋上緑化とは、建築物の屋上やベランダ・テラスの部分に設置された植栽をいう。

6.1 調査方法

屋上緑化に関しては、建築物の屋上やベランダ・テラスの部分に設置された1m²以上の植栽を対象に、航空写真調査によって以下の項目について調査し、集計を行った。

- ・ 面積別の屋上緑化箇所数（台東区全体、ゾーン別）
- ・ 屋上緑化位置

6.2 調査結果

6.2.1 屋上緑化の現況

屋上緑化の箇所数は4,073箇所（56,640m²）で、緑被地面積（1,016,444m²）の5.6%にあたる。屋上緑化規模別の箇所数及び構成比を表6.1及び図6.1に示す。屋上緑化の箇所数が最大なのは、屋上緑化規模区分1～10m²未満（2,754箇所）で、面積で最大なのは屋上緑化規模区分100m²以上（11,423m²）となっている。

前回調査時からの増減を見ると、1～10m²未満の規模の屋上緑化数が969箇所（増加率154.3%）と大幅に増加し、全体では985箇所（同131.9%）、面積では2,759m²の増加となった。

屋上緑化の位置図を図6.2に示す。

表6.1 屋上緑化規模の内訳

規模区分	平成22年度			平成30年度				平成22年度からの増減	
	箇所数	面積(m ²)	構成比(%)	箇所数	面積(m ²)	構成比(%)		増減数	増加率(%)
						箇所数	面積		
1～10m ²	1,785	-	57.8	2,754	11,030	67.6	19.5	969	154.3
10～20m ²	630	-	20.4	627	8,889	15.4	15.7	▲3	99.5
20～40m ²	408	-	13.2	389	10,913	9.6	19.3	▲19	95.3
40～60m ²	147	-	4.8	137	6,762	3.4	11.9	▲10	93.2
60～80m ²	49	-	1.6	77	5,327	1.9	9.4	28	157.1
80～100m ²	24	-	0.8	26	2,296	0.6	4.1	2	108.3
100m ² 以上	45	-	1.5	63	11,423	1.5	20.2	18	140.0
台東区合計	3,088	53,881	100.0	4,073	56,640	100.0	100.0	985	131.9

- ・ 前回調査では規模区分別の面積は集計していない。
- ・ 面積は小数点以下で四捨五入し、合計面積が表6-5と整合するよう調整した。

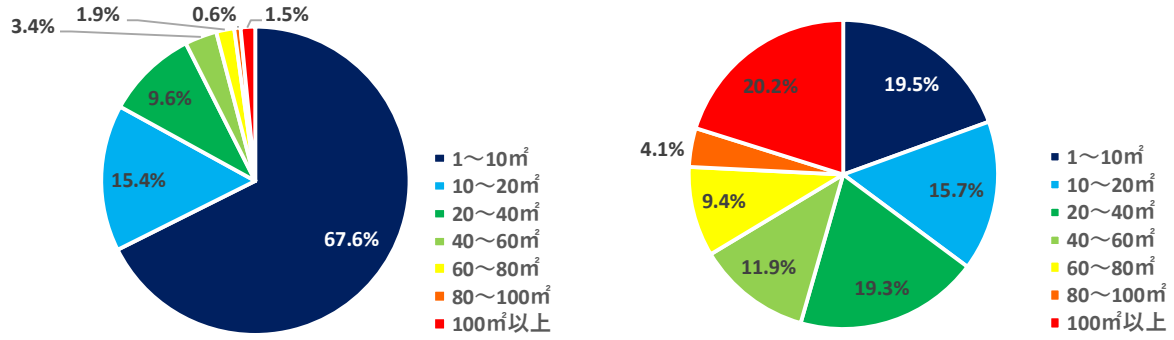


図 6.1 屋上緑化の構成比
(左：箇所数、右：面積)

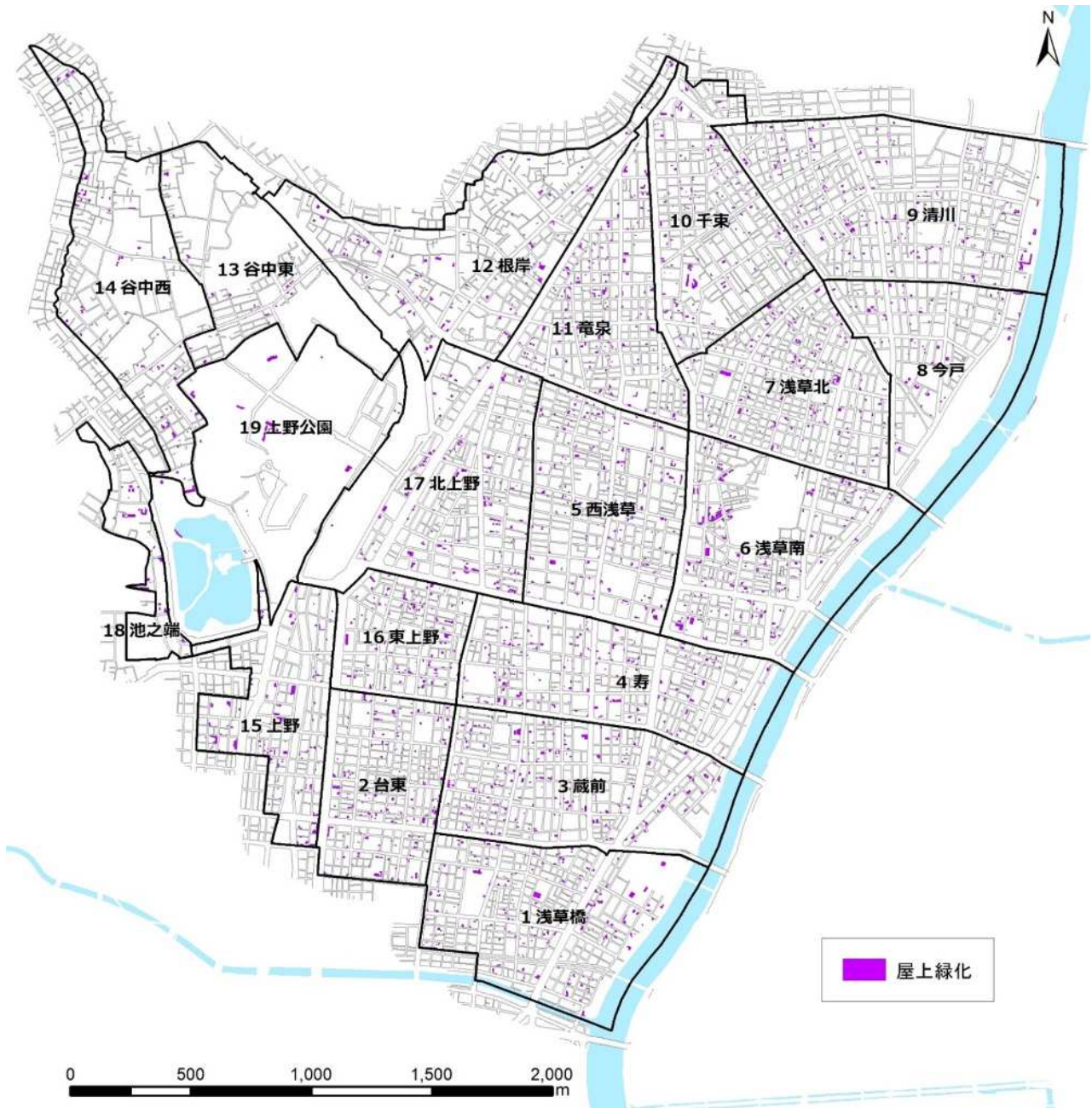


図 6.2 屋上緑化分布図

表 6.2 屋上緑化の事例（個人宅）

	建物名称	H邸		ゾーン	根岸
	所在地	下谷		緑化階数	6階
	緑化構成	芝緑化・プランター		緑化目的	悪い・ヒートアイランド対策
	構成	・草木: 芝			
		・低木			
	日照	良		風	中
	土壌	(種類)	土壌コンテナ	(土壌厚)	6.5cm
	灌水	(時期)	年間		
		(間隔)	適宜		
		(方法)	自動灌水システム		
管理	芝の刈り込みを6回/年。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティーやBBQなどの憩いの場。 ・地上に空間がないため屋上に庭園を造った。 ・水やりすると下の階が冷えていると感じる。 ・屋上でくつろげるのは気持ちいい。 				

表 6.3 屋上緑化の事例（民間社会福祉施設）

	建物名称	F施設		ゾーン	浅草北
	所在地	浅草		緑化階数	7階
	緑化構成	芝緑化・プランター		緑化目的	悪い・緑とのふれあい
	構成	・草木: 芝			
		・低・中木			
	日照	良		風	強
	土壌	(種類)	人工軽量土壌	(土壌厚)	15cm
	灌水	(時期)	年間		
		(間隔)	適宜		
		(方法)	自動灌水システム		
管理	樹木の剪定を適宜。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・主に利用者のくつろぎの場として活用。 ・近隣に緑が少ないため緑の場の提供を目的としている。 ・近所の子供と一緒に菜園をしている。 ・芝生の一部を畑にしたいと考えている。 				

表 6.4 屋上緑化の事例（事業所）

	建物名称	A社		ゾーン	上野
	所在地	上野		緑化階数	11階
	緑化構成	庭緑化		緑化目的	ヒートアイランド対策・趣味
	構成	・草木: タマリユウ			
		・低・中木			
	日照	良		風	中
	土壌	(種類)	人工軽量土壌	(土壌厚)	10~15cm
	灌水	(時期)	年間		
		(間隔)	適宜、夏季はほぼ毎日		
		(方法)	手やり		
管理	植木の手入れを適宜。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・植木等の手入れや鑑賞が主。 ・下の階で断熱効果を感じることがある。 ・めずらしい鳥が飛んでくることがある。 				

6.2.2 ゾーン別の屋上緑化状況

ゾーン別の屋上緑化箇所数及び面積を表 6.5 に示す。屋上緑化箇所数が最も多いゾーンは 9.清川で 351 箇所、次いで 11.竜泉が 319 箇所、5.西浅草が 305 箇所の順となった。前回調査からの増減では、6.浅草南で 145 箇所増加したのをはじめ、11.竜泉で 127 箇所、9.清川で 97 箇所増加するなど、1.浅草橋を除く 18 のゾーンで増加した。

また、屋上緑化面積で見ると、最も大きいゾーンは 6.浅草南の 4,775 m²、次いで 3.蔵前が 4,319 m²、1.浅草橋が 4,211 m² の順となった。

表 6.5 ゾーン別の屋上緑化箇所数及び面積

ゾーン	平成22年度		平成30年度		平成22年度からの増減 (箇所数)
	箇所数	面積(m ²)	箇所数	面積(m ²)	
1	浅草橋	286	275	4,211	▲ 11
2	台東	220	222	3,114	2
3	蔵前	246	290	4,319	44
4	寿	234	280	3,119	46
5	西浅草	244	305	3,426	61
6	浅草南	157	302	4,775	145
7	浅草北	230	254	3,305	24
8	今戸	90	116	1,639	26
9	清川	254	351	3,535	97
10	千束	160	241	2,857	81
11	竜泉	192	319	3,377	127
12	根岸	156	193	3,210	37
13	谷中東	23	54	677	31
14	谷中西	82	148	2,244	66
15	上野	169	180	3,420	11
16	東上野	125	213	2,355	88
17	北上野	186	197	3,476	11
18	池之端	27	56	1,581	29
19	上野公園	7	78	2,000	71
	合計	3,088	4,074	56,640	986

- ・複数のゾーンに屋上緑化がまたがっている場合は、それぞれのゾーンで重複して箇所数をカウントしている。そのため、箇所数は表 6.1 に示したものと一致しない。
- ・前回調査ではゾーン別の面積は集計していない。
- ・面積は小数点以下で四捨五入し、合計面積が表 6-1 と整合するよう調整した。

第7章 公遊園等調査

公遊園等とは、区内の公園、児童遊園、防災広場をいう。

7.1 調査方法

公遊園等に関しては、区立児童遊園 22 箇所、区立公園 50 箇所、都立公園 2 箇所、要綱公園 4 箇所、及び防災広場 2 箇所の合計 80 箇所を対象に、以下の調査を行った。

(1) 航空写真調査

以下の項目について集計を行った。

- ・ 所在地
- ・ 緑被地面積及び緑被率

7.2 調査結果

7.2.1 公遊園等の現況

本区における公遊園等の内訳を表 7.1 に示す。本区全体の公遊園等の数は 80 箇所であり、区立児童遊園が 22 箇所 (6,102.33 m²)、区立公園が 50 箇所 (193,301.398 m²)、都立公園が 2 箇所 (556,742.43 m²)、要綱公園が 4 箇所 (3,309.33 m²)、そして防災広場が 2 箇所 (9,420.38 m²) である。面積構成比を見ると、区立児童遊園が 0.8%、区立公園が 25.1%、都立公園が 72.4%、要綱公園が 0.4%、そして防災広場が 1.2% となり、都立公園が公園全体の 7 割以上を占めている。

表 7.1 公遊園等の内訳

種別	箇所数	敷地面積 (m ²)	面積構成比 (%)
区立児童遊園	22	6,102.330	0.8
区立公園	50	193,301.398	25.1
都立公園	2	556,742.430	72.4
要綱公園	4	3,309.330	0.4
防災広場	2	9,420.380	1.2
合計	80	768,875.868	100.0

※ 要綱公園…「芋坂児童遊園」「駒形公園」「蔵前公園」「広徳公園」の 4 箇所
 防災広場…「防災広場 根岸の里」「防災広場 初音の森」の 2 箇所
 公遊園の面積は台東区立公園・児童遊園調書によるもの

個々の公園の敷地面積（表 7.4「公遊園等の面積及び緑被率」参照）をみると、上野恩賜公園が 538,506.96 m²、隅田公園が 107,154.698 m² で、この二つの公園が区全体の公遊園等の敷地面積の 84.0 %を占めている。

規模別の公遊園等の箇所数を表 7.2 に示す。規模別の箇所数では、面積が 500 m² 未満の公遊園等が 30 箇所（構成比 37.5 %）と最も多く、次いで 500～1,000 m² が 18 箇所（同 22.5 %）、2,000～5,000 m² が 17 箇所（同 21.3 %）となっている。また、規模別の面積構成比で見ると、面積 10,000 m² 以上の公園が 86.3 %と大半を占め、500 m² 未満は 1.1% になっている。

表 7.2 規模別の公遊園等箇所数

面積規模	箇所数	面積計 (m ²)	構成比(%)	
			箇所数比	面積比
500m ² 未満	30	8,807	37.5	1.1
500～1,000m ²	18	12,180	22.5	1.6
1,000～2,000m ²	9	12,671	11.3	1.6
2,000～5,000m ²	17	51,251	21.3	6.7
5,000～10,000m ²	3	20,070	3.8	2.6
10,000m ² 以上	3	663,897	3.8	86.3
台東区合計	80	768,876	100.0	100.0

公遊園等の位置図を図 7.1 に、公遊園等の種別ごとの面積及び緑被率を表 7.3 に、各公遊園等の面積及び緑被率を表 7.4 にそれぞれ示す。

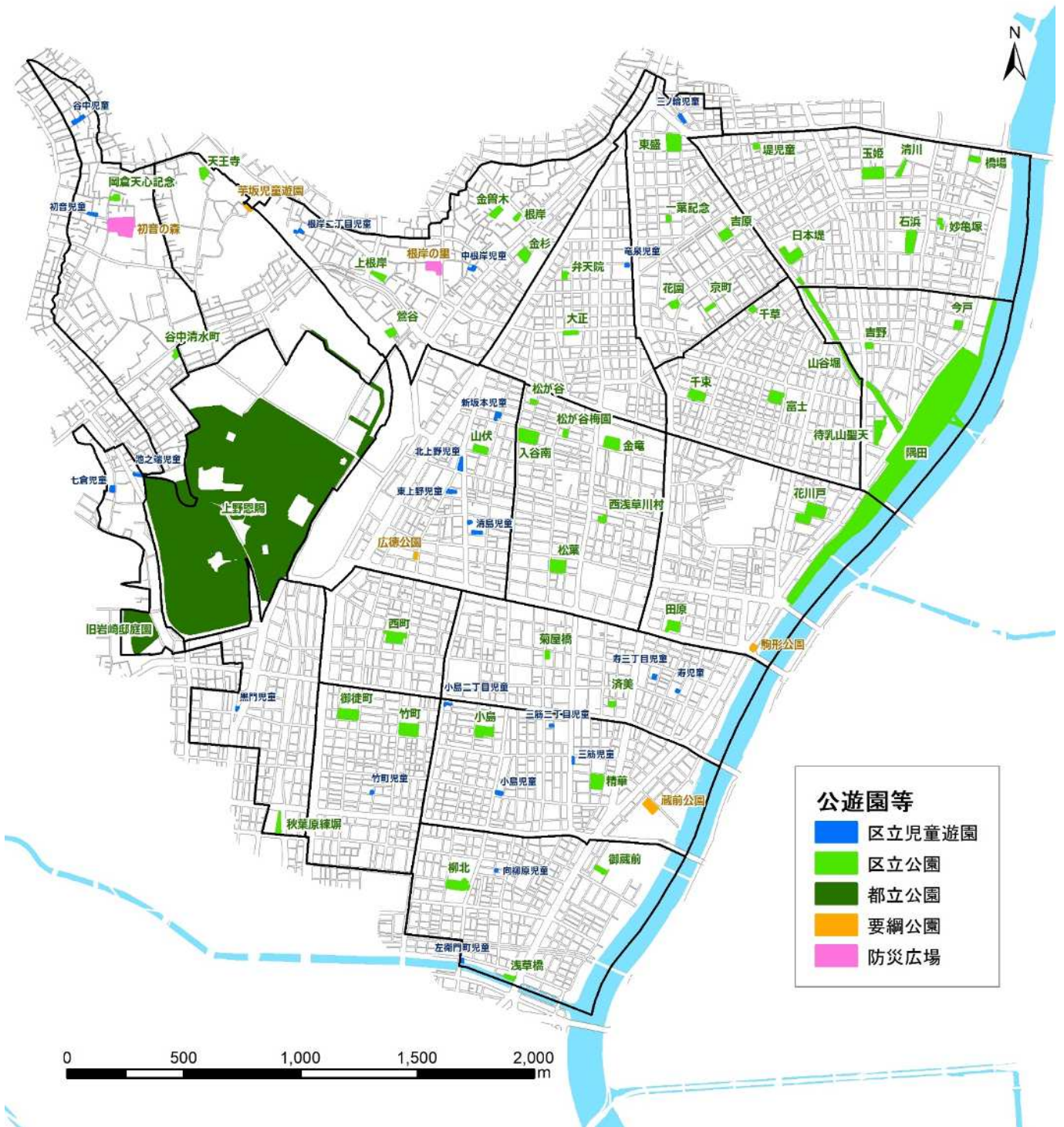
表 7.3 の種別ごとに緑被率を見ると、要綱公園の緑被率が 55.4 %で最も高く、次いで区立児童遊園が 53.3 %、都立公園が 44.5 %の順となっている。また、公遊園等全体の緑被率は 43.6 %であり、本区の緑被率における公遊園等の重要性がわかる。緑被地の面積では、都立公園が 247,728 m² と最も広く、次いで区立公園の 78,635 m²、防災広場の 3,909 m² の順となった。

表 7.3 公遊園等の種別ごとの面積及び緑被率

種別	公園敷地 (m ²)	緑被地(m ²)			裸地 (m ²)	水面 (m ²)	建物等 ※1 (m ²)	緑被率 (%)	
		樹木 被覆地	草地	屋上 緑化					
区立児童遊園	6,102.330	2,922	331	0	3,253	825	0	2,024	53.3
区立公園	193,301.398	67,735	10,876	24	78,635	43,271	1,331	70,065	40.7
都立公園	556,742.430	221,729	24,312	1,687	247,728	12,820	112,192	184,002	44.5
要綱公園	3,309.330	911	924	0	1,835	386	0	1,088	55.4
防災広場	9,420.380	3,165	706	38	3,909	3,486	0	2,025	41.5
合計	768,875.868	296,462	37,149	1,749	335,360	60,788	113,523	259,206	43.6

・緑被地等の面積は、各公遊園等の図形面積と公称面積との比率により按分した（表 7.4、表 7.5 も同じ）。

※1 公園敷地のうち、緑被地、裸地、水面以外の土地（表 7.4 も同じ）



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

図 7.1 公遊園等の位置図

表 7.4 公遊園等の面積及び緑被率

種別	名称	公園敷地 (㎡)	緑被等面積(㎡)						緑被率 (%)	
			樹木被覆地	草地	屋上緑化	裸地	水面	建物等		
区立児童遊園	1 谷中児童遊園	587.150	220	0	0	220	0	0	367	37.5
	2 初音児童遊園	316.890	199	0	0	199	75	0	43	62.8
	3 三ノ輪児童遊園	333.220	246	0	0	246	0	0	87	73.8
	4 新坂本児童遊園	445.420	342	0	0	342	101	0	2	76.8
	5 北上野児童遊園	634.500	165	178	0	343	246	0	46	54.1
	6 清島児童遊園	584.680	239	14	0	253	0	0	332	43.3
	7 黒門児童遊園	187.000	0	2	0	2	0	0	185	1.1
	8 竹町児童遊園	91.800	59	0	0	59	32	0	1	64.3
	9 向柳原児童遊園	104.180	45	0	0	45	0	0	59	43.2
	10 三筋児童遊園	72.790	68	0	0	68	0	0	5	93.4
	11 小島児童遊園	337.880	39	65	0	104	0	0	234	30.8
	12 寿児童遊園	117.430	85	0	0	85	0	0	32	72.4
	13 根岸二丁目児童遊園	308.820	125	0	0	125	168	0	16	40.5
	14 三筋二丁目児童遊園	126.470	73	0	0	73	37	0	16	57.7
	15 小島二丁目児童遊園	286.640	93	49	0	142	0	0	145	49.5
	16 竜泉児童遊園	179.330	65	0	0	65	114	0	0	36.2
	17 寿三丁目児童遊園	231.430	181	0	0	181	0	0	50	78.2
	18 東上野児童遊園	347.230	282	0	0	282	0	0	65	81.2
	19 左衛門町児童遊園	114.000	52	7	0	59	52	0	3	51.8
	20 池之端児童遊園	303.250	93	16	0	109	0	0	194	35.9
	21 中根岸児童遊園	292.220	190	0	0	190	0	0	102	65.0
	22 七倉児童遊園	100.000	61	0	0	61	0	0	39	61.0
区立公園	1 日本堤公園	3,142,680	518	140	0	658	917	0	1,568	20.9
	2 柳北公園	2,981,660	1,440	0	0	1,440	1,468	0	74	48.3
	3 東盛公園	3,777,170	1,139	189	0	1,328	1,922	0	527	35.2
	4 千束公園	2,221,320	1,237	10	0	1,247	874	0	100	56.1
	5 西町公園	2,935,750	1,583	58	0	1,641	700	0	595	55.9
	6 石浜公園	2,972,460	1,238	24	0	1,262	1,070	0	640	42.5
	7 精華公園	2,887,630	1,197	147	0	1,344	1,239	0	305	46.5
	8 玉姫公園	3,503,600	1,075	67	0	1,142	2,283	0	79	32.6
	9 山伏公園	1,460,880	605	13	0	618	823	0	20	42.3
	10 松葉公園	2,972,340	1,547	0	0	1,547	1,413	0	12	52.0
	11 御徒町公園	3,312,240	1,881	211	0	2,092	602	0	618	63.2
	12 金杉公園	1,678,510	977	0	0	977	588	0	114	58.2
	13 小島公園	2,795,580	834	294	0	1,128	1,307	0	361	40.3
	14 金竜公園	2,644,830	1,960	13	0	1,973	576	0	96	74.6
	15 富士公園	2,406,310	1,255	0	0	1,255	728	0	423	52.2
	16 田原公園	1,797,510	722	30	0	752	13	0	1,033	41.8
	17 一葉記念公園	340,000	205	0	0	205	81	0	54	60.3
	18 花川戸公園	5,304,140	1,874	0	0	1,874	1,282	119	2,029	35.3
	19 鶯谷公園	968,000	757	0	0	757	109	0	102	78.2
	20 竹町公園	3,731,930	1,838	162	0	2,000	1,382	0	350	53.6
	21 待乳山聖天公園	2,785,620	1,787	0	0	1,787	935	0	64	64.2
	22 上根岸公園	693,940	429	0	0	429	234	0	31	61.8
	23 入谷南公園	3,910,020	1,552	12	0	1,564	2,168	0	178	40.0
	24 大正公園	599,530	114	19	0	133	275	0	192	22.2
	25 今戸公園	892,560	635	0	0	635	172	0	86	71.1
	26 京町公園	617,570	71	83	0	154	421	0	43	24.9
	27 橋場公園	797,800	0	81	0	81	439	0	278	10.2
	28 吉原公園	1,584,330	1,058	8	0	1,066	415	0	103	67.3
	29 妙亀塚公園	471,900	320	0	0	320	152	0	0	67.8
	30 花園公園	1,020,730	590	27	0	617	323	0	81	60.4
	31 根岸公園	399,590	371	0	0	371	0	0	29	92.8
	32 谷中清水町公園	737,720	476	7	0	483	203	0	52	65.5
	33 岡倉天心記念公園	710,240	700	0	0	700	0	0	10	98.6
	34 堤原公園	375,780	145	0	0	145	230	0	1	38.6
	35 清川公園	719,000	324	12	0	336	291	0	92	46.7
	36 隅田公園	107,154,698	27,159	7,979	23	35,161	13,798	1,177	57,019	32.8
	37 天王寺公園	1,102,350	354	122	0	476	554	0	72	43.2
	38 弁天院公園	507,680	228	14	0	242	265	0	1	47.7
	39 千草公園	456,640	338	0	0	338	119	0	0	74.0
	40 山谷堀公園	7,616,110	4,636	510	0	5,146	753	35	1,682	67.6
	41 西浅草川村公園	636,390	342	118	0	460	172	0	4	72.3
	42 松が谷公園	340,000	181	19	0	200	140	0	0	58.8
	43 菊屋橋公園	497,800	200	3	1	204	268	0	26	41.0
	44 金曾木公園	1,023,300	574	19	0	593	326	0	104	57.9
	45 浅草橋公園	496,490	153	59	0	212	28	0	256	42.7
	46 御蔵前公園	863,770	477	25	0	502	250	0	112	58.1
	47 済美公園	410,200	168	11	0	179	179	0	52	43.6
	48 松が谷梅園公園	445,450	149	0	0	149	297	0	0	33.4
	49 吉野公園	555,280	70	33	0	103	363	0	89	18.5
	50 秋葉原線堺公園	1,044,370	252	357	0	609	124	0	311	58.3
都立公園	1 上野恩賜公園	538,506,960	209,727	21,374	1,687	232,788	12,505	112,192	181,022	43.2
	2 旧岩崎邸庭園	18,235,470	12,002	2,938	0	14,940	315	0	2,980	81.9
要綱公園	1 芋坂児童遊園	569,680	121	0	0	121	386	0	63	21.2
	2 駒形公園	504,080	98	24	0	122	0	0	382	24.2
	3 蔵前公園	1,958,660	613	843	0	1,456	0	0	503	74.3
	4 広徳公園	276,910	79	57	0	136	0	0	141	49.1
防災広場	1 初音の森	7,150,280	2,637	640	0	3,277	2,572	0	1,301	45.8
	2 根岸の里	2,270,100	528	66	38	632	914	0	724	27.8
合計		768,875,868	296,462	37,149	1,749	335,360	60,788	113,523	259,206	43.6

7.2.2 ゾーン別の公遊園等の状況

ゾーン別の公遊園等の箇所数・面積等を表 7.5 に示す。本区全体の公園面積率（ゾーン面積に占める公遊園等面積の割合）は 7.63 %となった。一方、一人あたりの公遊園等面積は区全体で 3.86 m²となった。

ゾーン別の公遊園等面積率は、19.上野公園が最も高く 64.17%、次いで 8.今戸が 18.58%、18.池之端が 13.61%の順となった。これらのゾーンには、上野恩賜公園、隅田公園、旧岩崎邸庭園等の規模の大きな公園が存在し、高い面積率となった。一方、公遊園等面積率が低いゾーンは、4.寿で 0.22 %であった。

次に、ゾーン別の一人あたりの公遊園等面積は、人口のごく少ない 19.上野公園を除くと、8.今戸が 13.80 m²で最も大きく、次いで、18.池之端が 5.54 m²、6.浅草南が 3.65 m²の順となった。一人あたりの公遊園等面積が最も小さいゾーンは 4.寿と 11.竜泉が 0.08 m²で並び、次いで 17.北上野が 0.34 m²となった。

ゾーン別の公遊園等面積率を図 7.2 に、ゾーン別の一人あたり公遊園等面積を図 7.3 にそれぞれ示す。

表 7.5 ゾーン別の公遊園等の箇所数・面積

ゾーン	ゾーン面積 (ha)	人口	区立児童遊園		区立公園		都立公園		要綱公園		防災広場		合計		公遊園面積率 (%)	1人あたりの公遊園面積 (m ²)
			箇所数	面積 (m ²)	箇所数	面積 (m ²)	箇所数	面積 (m ²)	箇所数	面積 (m ²)	箇所数	面積 (m ²)	箇所数	面積 (m ²)		
1 浅草橋	61.90	11,704	2	218	3	4,342	0	0	0	0	0	0	5	4560	0.74	0.39
2 台東	38.01	8,464	1	92	2	7,044	0	0	0	0	0	0	3	7,136	1.88	0.84
3 蔵前	60.56	16,639	4	824	2	5,683	0	0	1	1,959	0	0	7	8,466	1.40	0.51
4 寿	56.68	15,371	2	349	2	908	0	0	0	0	0	0	4	1,257	0.22	0.08
5 西浅草	55.77	16,470	0	0	6	10,949	0	0	0	0	0	0	6	10,949	1.96	0.66
6 浅草南	65.19	8,954	0	0	3	32,183	0	0	1	504	0	0	4	32,687	5.01	3.65
7 浅草北	49.49	13,155	0	0	4	6,681	0	0	0	0	0	0	4	6,681	1.35	0.51
8 今戸	49.58	6,676	0	0	5	92,101	0	0	0	0	0	0	5	92,101	18.58	13.80
9 清川	79.79	18,494	0	0	9	12,209	0	0	0	0	0	0	9	12,209	1.53	0.66
10 千束	49.29	13,200	1	333	5	7,340	0	0	0	0	0	0	6	7,673	1.56	0.58
11 竜泉	46.19	15,603	1	179	2	1,107	0	0	0	0	0	0	3	1,287	0.28	0.08
12 根岸	66.84	18,764	2	601	5	4,763	0	0	0	0	1	2,270	8	7,634	1.14	0.41
13 谷中東	44.48	3,416	0	0	2	1,137	1	2,658	1	570	0	0	4	4,365	0.98	1.28
14 谷中西	55.76	9,470	2	904	2	1,413	1	6,768	0	0	1	7,150	6	16,236	2.91	1.71
15 上野	37.65	2,677	1	187	1	1,044	1	438	0	0	0	0	3	1,669	0.44	0.62
16 東上野	26.34	3,863	0	0	1	2,936	0	0	0	0	0	0	1	2,936	1.11	0.76
17 北上野	68.50	12,819	4	2,012	1	1,461	1	571	1	277	0	0	7	4,321	0.63	0.34
18 池之端	13.69	3,367	2	403	0	0	1	18,235	0	0	0	0	3	18,639	13.61	5.54
19 上野公園	82.29	251	0	0	0	0	1	528,071	0	0	0	0	1	528,071	64.17	2,103.9
合計	1,008.00	199,357	22	6,102	55	193,301	6	556,743	4	3,309	2	9,420	89	768,876	7.63	3.86

- ・複数のゾーンに公遊園等がまたがっている場合は、それぞれのゾーンで重複してカウントしている。そのため、公遊園等の合計箇所数は表 7.1 に示したものと一致しない。
- ・人口は住民基本台帳による平成 31 年 1 月 1 日現在の数値。
- ・各ゾーンの面積は、平成 28 年度土地利用現況データによるもので、合計値は国土地理院の公表値 (10.11 km²) と異なる。

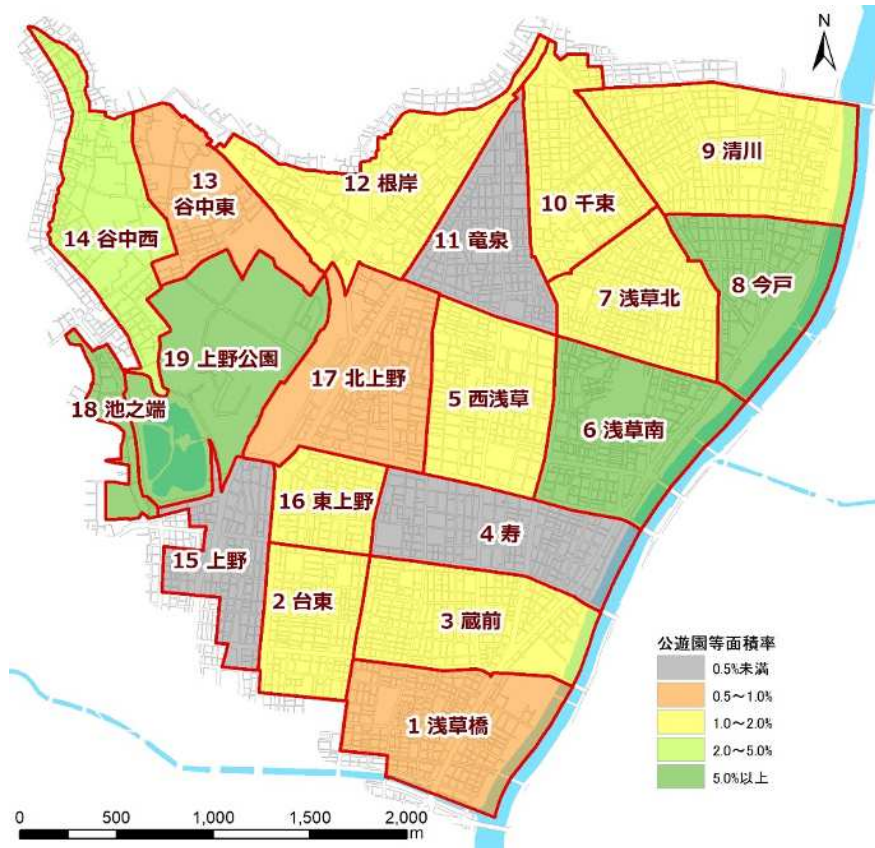


図 7.2 ゾーン別の公遊園等面積率

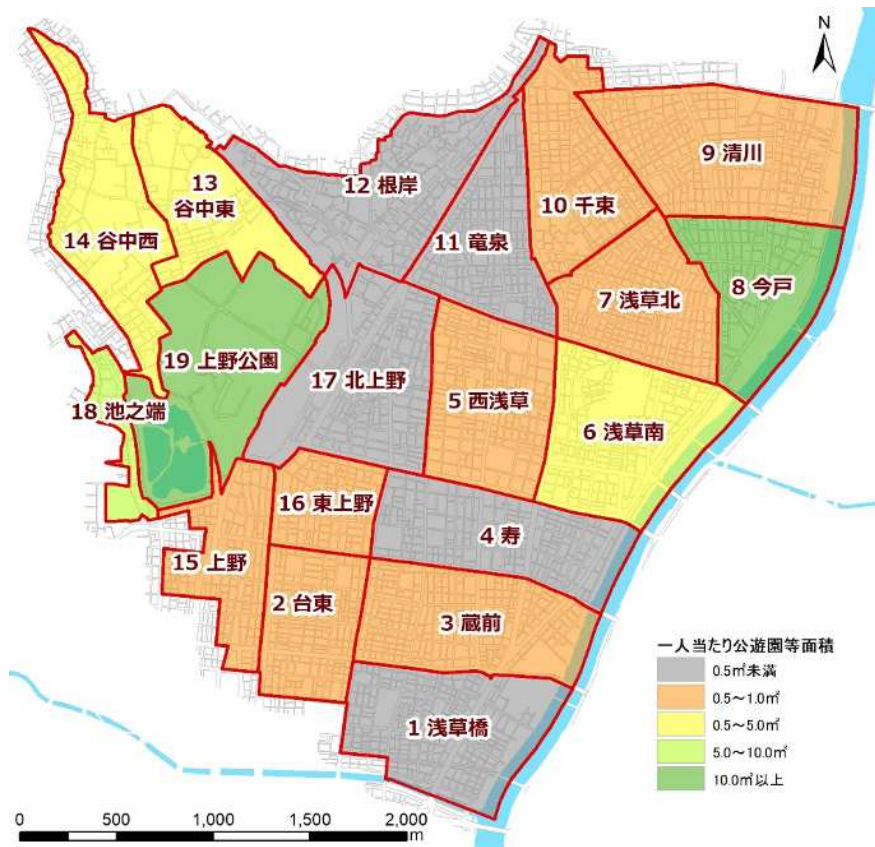


図 7.3 ゾーン別の一人あたり公遊園等面積

第8章 樹木（大径木）調査

大径木とは地上から1.2 mの高さの幹周が90 cm以上の樹木をいう。

8.1 調査方法

8.1.1 調査対象

前回調査において、大径木であった樹木及び新たに該当する樹木を対象とした。

8.1.2 調査のながれ

樹木（大径木）調査の手順を図8.1に示す。

- ① 既存の樹木（大径木）台帳及び資料等から対象樹木を抽出した。
- ② 現地調査を行い、樹木（大径木）の位置を確認し、8.1.3節に示す各項目の測定等を行った。
- ③ 調査後、データの集計及び新たな図面を作成し、データ解析・評価を行い樹木（大径木）台帳としてとりまとめた。

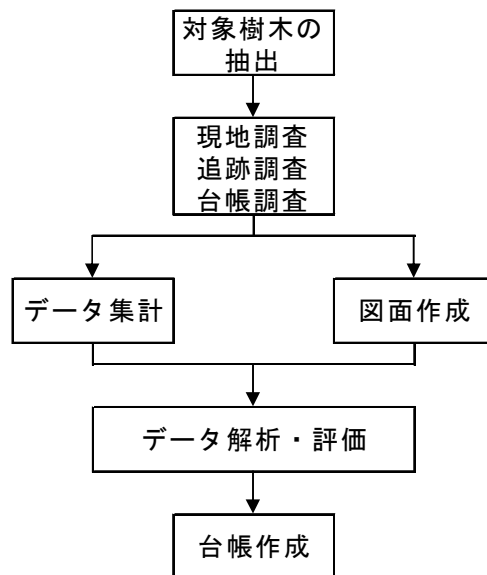


図8.1 樹木（大径木）調査の手順

8.1.3 調査項目

調査項目を以下に示す。

- 1) 調査木の有無
- 2) 樹種
- 3) 幹周
- 4) 樹高
- 5) 生育場所
- 6) 健康度（樹形、葉の付き具合、幹肌）

8.2 調査結果

8.2.1 樹木（大径木）の現況

台東区全体での樹木（大径木）数の現況を表 8.1 及び図 8.2 に示す。また、図 8.3 に樹木（大径木）の分布図を示す。調査を行った樹木（大径木）数は 9,865 本であった。

幹周別にみると、90～120 cm 未満の樹木（大径木）数は 3,022 本（30.6 %）、120～150 cm 未満の樹木（大径木）数は 2,338 本（23.7 %）、150 cm 以上の樹木（大径木）数は 4,076 本（41.3 %）であった。

表 8.1 幹周別樹木数

幹周	本数 (本)	構成比 (%)
90～120cm未満	3,022	30.6
120～150cm未満	2,338	23.7
150cm以上	4,076	41.3
調査不能 ^{※1}	429	4.4
台東区合計	9,865	100.0

※1 工事中等により現地調査不可能

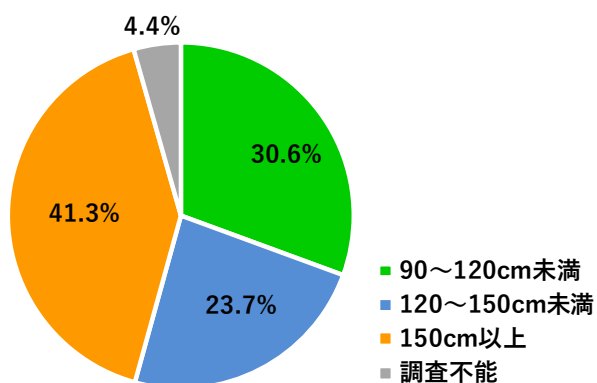


図 8.2 幹周別樹木構成比



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30都市基交著第136号

図 8.3 樹木（大径木）分布図

表 8.2 に樹木（大径木）の樹種の内訳、図 8.4 に樹木（大径木）の樹種の構成比を示す。樹木（大径木）の樹種は全部で 187 種であった。最も多い樹種は、サクラの 1,863 本 (18.9%) であった。次いでイチョウ 1,810 本 (18.4%)、ケヤキ 959 本 (9.7%) の順となった。主要樹種上位 5 種で全体の約 6 割を占めた。

表 8.2 樹種別樹木（大径木）数

樹種名	本数 (本)	構成比 (%)
サクラ	1,863	18.9
イチョウ	1,810	18.4
ケヤキ	959	9.7
クスノキ	937	9.5
スダジイ	781	7.9
ヒノキ	323	3.3
プラタナス	220	2.2
エノキ	197	2.0
ヒマラヤスギ	191	1.9
トウネズミモチ	170	1.7
その他	2,414	24.5
台東区合計	9,865	100.0

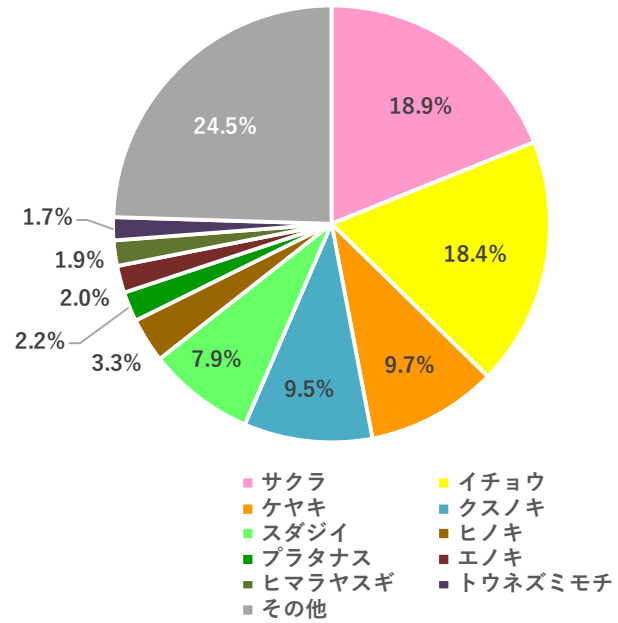


図 8.4 樹種別樹木（大径木）構成比

表 8.3 に樹種別の幹周別樹木（大径木）数を示す。サクラ、イチョウ、ケヤキ、クスノキ、スダジイ、エノキ、ヒマラヤスギは幹周 150 cm 以上の割合が高く、ヒノキ、プラタナス、トウネズミモチは幹周 90～120 cm の割合が高かった。

表 8.3 樹種別幹周別樹木（大径木）数

樹種名	幹周	本数(本)				合計	構成比(%)		
		90～ 120cm 未満	120～ 150cm 未満	150cm 以上	調査不能 ※1		90～ 120cm 未満	120～ 150cm 未満	150cm 以上
サクラ		457	458	882	66	1,863	24.5	24.6	47.3
イチョウ		649	452	674	35	1,810	35.9	25.0	37.2
ケヤキ		224	249	443	43	959	23.4	26.0	46.2
クスノキ		206	210	468	53	937	22.0	22.4	49.9
スダジイ		183	143	395	60	781	23.4	18.3	50.6
ヒノキ		132	114	76	1	323	40.9	35.3	23.5
プラタナス		118	53	43	6	220	53.6	24.1	19.5
エノキ		45	40	104	8	197	22.8	20.3	52.8
ヒマラヤスギ		55	45	89	2	191	28.8	23.6	46.6
トウネズミモチ		65	39	53	13	170	38.2	22.9	31.2
その他		888	535	849	142	2,414	36.8	22.2	35.2
台東区合計		3,022	2,338	4,076	429	9,865	30.6	23.7	41.3

※1 工事中等により現地調査不可能

8.2.2 ゾーン別の樹木数

ゾーン別の樹木（大径木）数を表 8.4 及び図 8.5 に示す。ゾーン別の本数をみると、19.上野公園が 3,948 本（40.0%）で最も多かった。次いで 13.谷中東の 1,250 本（12.7%）、06.浅草南の 799 本（8.1%）の順となった。最も少ないゾーンは 16.東上野の 71 本（0.7%）であった。次いで 15.上野の 89 本（0.9%）、10.千束の 125 本（1.3%）の順となった。

次に、10 ha (=0.1 km²) あたりの本数をみると、最も多いゾーンは、19.上野公園の 479.8 本/10 ha となった。次いで 13.谷中東の 281.0 本/10 ha、18.池之端の 160.0 本/10 ha の順となった。最も少ないゾーンは 15.上野の 23.6 本/10 ha となった。次いで 10.千束の 25.4 本/10 ha、9.清川の 27.8 本/10 ha の順となった。

樹木数が多かったゾーンは上野恩賜公園をはじめとする公園や霊園、東京国立博物館等の文化施設、寛永寺や浅草寺等の寺社等、多くの樹木を管理する施設が各ゾーンの樹木数に寄与していることが特徴となっている。

樹木（大径木）数が少なかったゾーンは商業地域であり、事業所等が密集しているため、樹木（大径木）数が少なくなっている。

表 8.4 ゾーン別樹木（大径木）数

ゾーン名	ゾーン面積 (ha)	本数 (本)	構成比 (%)	10haあたりの本数 (本/10ha)
1 浅草橋	61.90	198	2.0	32.0
2 台東	38.01	128	1.3	33.7
3 蔵前	60.56	229	2.3	37.8
4 寿	56.68	191	1.9	33.7
5 西浅草	55.77	274	2.8	49.1
6 浅草南	65.19	799	8.1	122.6
7 浅草北	49.49	160	1.6	32.3
8 今戸	49.58	622	6.3	125.5
9 清川	79.79	222	2.2	27.8
10 千束	49.29	125	1.3	25.4
11 竜泉	46.19	154	1.6	33.3
12 根岸	66.84	305	3.1	45.6
13 谷中東	44.48	1,250	12.7	281.0
14 谷中西	55.76	569	5.8	102.0
15 上野	37.65	89	0.9	23.6
16 東上野	26.34	71	0.7	27.0
17 北上野	68.50	312	3.2	45.5
18 池之端	13.69	219	2.2	160.0
19 上野公園	82.29	3,948	40.0	479.8
台東区合計	1008.00*1	9,865	100.0	

※1 1 ha（ヘクタール）= 0.01 km²、1km² = 1,000,000 m²

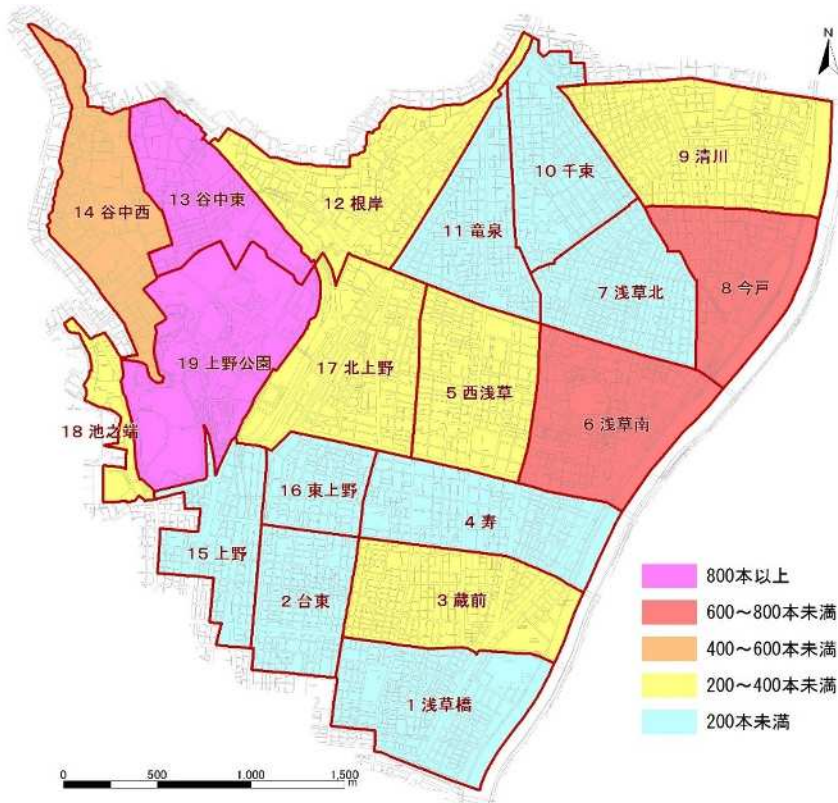


図 8.5 ゾーン別樹木（大径木）数

8.2.3 土地利用区分別の樹木数

土地利用別の幹周別樹木（大径木）数を表 8.5 及び図 8.6 に示す。

土地利用別の幹周別でみると、公園の 150 cm 以上の 1,368 本が最も多かった。次いで公園の 90~120 cm 未満の 897 本、寺社の 150 cm 以上の 864 本の順となった。

土地利用別樹木（大径木）数は、公園及び寺社の本数をあわせると全体の構成比の 5 割を超えている。公園及び寺社では土地や建物の開発が比較的少ないため、良好に生育していることがうかがえる。

下記の「表 8.5 土地利用別幹周別樹木（大径木）数」の土地利用別構成比に示された幹周別区分でみると、公園、寺社、公共施設、動物園、墓地及び学校は 150cm 以上の樹木（大径木）の割合がそれぞれ 4 割を超えている。道路や事業所等では 90~120cm 未満の樹木（大径木）の割合が高い。

表 8.5 土地利用別幹周別樹木（大径木）数

土地利用	本数(本)					構成比(%)	土地利用別構成比(%)		
	90～120cm未満	120～150cm未満	150cm以上	調査不能※1	合計		90～120cm未満	120～150cm未満	150cm以上
公園	897	799	1,368	79	3,143	31.9	28.5	25.4	43.5
寺社	609	512	864	113	2,098	21.3	29.0	24.4	41.2
公共施設	236	217	613	46	1,112	11.3	21.2	19.5	55.1
墓地	289	231	428	45	993	10.1	29.1	23.3	43.1
道路	500	193	64	5	762	7.7	65.6	25.3	8.4
動物園	150	164	381	49	744	7.5	20.2	22.0	51.2
学校	230	160	300	4	694	7.0	33.1	23.1	43.2
個人宅	34	9	13	73	129	1.3	26.4	7.0	10.1
事業所	50	22	25	7	104	1.1	48.1	21.2	24.0
集合住宅	20	16	10	7	53	0.5	37.7	30.2	18.9
その他	7	15	10	1	33	0.3	21.2	45.5	30.3
台東区合計	3,022	2,338	4,076	429	9,865	100.0	30.6	23.7	41.3

※1 工事中等により現地調査不可能

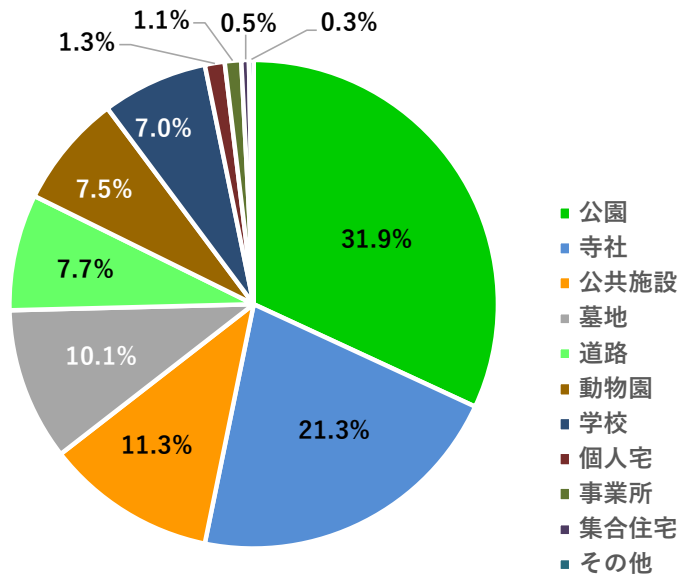


図 8.6 土地利用別幹周別樹木（大径木）構成比

8.2.4 用途地域別の樹木数

用途地域別の幹周別樹木（大径木）数を表 8.6 に示す。これによると、第一種中高層住居専用地域の幹周 150 cm 以上の樹木が最も多く 2,496 本だった。次いで商業地域の幹周 90～120 cm 未満の樹木で 1,387 本、第一種中高層住居専用地域の幹周 90～120 cm 未満の樹木で 1,000 本の順となった。

10 ha あたりの樹木数でみると、第二種住居地域の 545.2 本が最も多かった。次いで第一種中高層住居専用地域で 403.5 本、第二種中高層住居専用地域で 250.0 本の順となった。10 ha あたりの樹木数は、住居系地域の方が商業地域・工業地域よりも多いことが分かる。

第二種住居地域には、旧岩崎邸庭園、第一種中高層住居専用地域には、上野恩賜公園、東京国立博物館、谷中霊園等があるため、樹木数は合計で 4,773 本となっている。第二種住居地域と第一種中高層住居専用地域は、台東区全域の面積の 11.6 %であり、この地域に過半数の樹木（大径木）が生育していることが分かる。

表 8.6 用途地域別幹周別樹木（大径木）数

用途地域	幹周 区分面積 (ha)	本数(本)					用途地域別構成比(%)			10haあたりの樹木数 (本/10ha)
		90～120cm 未満	120～150cm 未満	150cm 以上	調査不能 ※1	合計	90～120cm 未満	120～150cm 未満	150cm 以上	
第一種中高層住居専用地域	114.1	1,000	958	2,496	150	4,604	21.7	20.8	54.2	403.5
第二種中高層住居専用地域	3.8	33	23	36	3	95	34.7	24.2	37.9	250.0
第一種住居地域	79.8	405	380	716	118	1,619	25.0	23.5	44.2	202.9
第二種住居地域	3.1	40	28	82	19	169	23.7	16.6	48.5	545.2
近隣商業地域	95.5	145	126	118	49	438	33.1	28.8	26.9	45.9
商業地域	670.7	1,387	814	620	87	2,908	47.7	28.0	21.3	43.4
準工業地域	8.3	12	9	8	3	32	37.5	28.1	25.0	38.6
指定なし	32.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
台東区合計	1008.00※2	3,022	2,338	4,076	429	9,865	30.1	25.3	39.9	

※1 工事中等により現地調査不可能

※2 平成 28 年度土地利用データによるため、区面積は国土地理院公表面積（10.11 km²）と異なる。

次に、用途地域別の樹種別樹木（大径木）数を表 8.7 に示す。

樹種別の本数でみると、第一種中高層住居専用地域及び第一種住居地域でサクラ、商業地域でイチヨウの本数の割合が高い。全体としては、様々な樹種が生育していることが分かる。

表 8.7 用途地域別樹種別樹木（大径木）数

用途地域	樹種	本数(本)						用途地域別樹種別構成比(%)						
		サクラ	イチヨウ	ケヤキ	クスノキ	スダジイ	その他	合計	サクラ	イチヨウ	ケヤキ	クスノキ	スダジイ	その他
第一種中高層住居専用地域		847	454	378	459	436	2,030	4,604	18.4	9.8	8.2	10.0	9.5	44.1
第二種中高層住居専用地域		26	24	5	8	15	17	95	27.4	25.3	5.2	8.4	15.8	17.9
第一種住居地域		421	131	160	205	130	572	1,619	26.0	8.1	9.9	12.7	8.0	35.3
第二種住居地域		6	4	18	3	22	116	169	3.5	2.4	10.7	1.8	13.0	68.6
近隣商業地域		90	84	53	38	46	127	438	20.5	19.2	12.1	8.7	10.5	29.0
商業地域		452	1,111	345	224	129	647	2,908	15.5	38.2	11.9	7.7	4.4	22.3
準工業地域		21	2	0	0	3	6	32	65.6	6.2	0.0	0.0	9.4	18.8
指定なし		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
台東区合計		1,863	1,810	959	937	781	3,515	9,865	18.9	18.4	9.7	9.5	7.9	35.6

8.2.5 施設別の樹木数

施設別の樹木（大径木）数を表 8.8 に示す。

樹木（大径木）数が最も多いのは、上野恩賜公園で 1,754 本、次いで恩賜上野動物園 746 本、谷中霊園 562 本の順となった。上位 20 施設の合計は 6,288 本で台東区全域の 63.7 %を占めている。

また、寺社、墓地と公園で 20 施設のうち半分以上を占めていることから、寺社や公園が本区の樹木（大径木）の主要な育成地であることが分かる。

前回調査と比較すると、上位 10 施設は順位の変動はあるものの、構成している施設には変化がなかった。上位 20 施設の内訳をみると、公園が 6 施設から 5 施設への減少となり、新たに国立社会教育研究所が 18 位になっている。

表 8.8 施設別樹木（大径木数）数（上位 20 位まで表示）

順位	施設名	ゾーン No.	樹木数 (本)	区全体に 対する比率 (%)	平成22年 調査順位	平成12年 調査順位
1	上野恩賜公園	19	1,754	17.8	①	①
2	恩賜上野動物園	14,19	744	7.6	②	-
3	谷中霊園	13	562	5.7	⑤	③
4	東京国立博物館	19	553	5.6	③	⑦
5	隅田公園	6,8	529	5.4	④	②
6	浅草寺	6	493	5.0	⑦	⑪
7	寛永寺	13	464	4.7	⑥	④
8	東京藝術大学	19	369	3.7	⑧	⑤
9	旧岩崎邸庭園	18	147	1.5	⑨	⑥
10	山谷堀公園	7,8	91	0.9	⑩	⑮
11	両大師	19	82	0.8	⑪	⑨
12	待乳山聖天本龍院	8	66	0.7	⑬	⑭
13	天王寺	13	64	0.6	⑭	⑬
14	臨江寺	14	63	0.6	⑮	-
15	玉林寺	14	58	0.6	⑫	-
16	花川戸公園	6	55	0.6	⑰	⑫
17	忍岡中学校	19	52	0.5	⑯	-
18	国立社会教育研究所	19	50	0.5	-	-
19	国立国会子ども図書館	19	45	0.5	⑲	-
20	御徒町公園	2	45	0.5	⑳	⑰
上位20位の合計		-	6,286	63.7	-	-

8.2.6 樹木（大径木）数の推移

昭和49年（1974年）からの樹木（大径木）数の推移を表8.9及び図8.7に示す。なお、昭和49年（1974年）の調査は幹周ではなく直径の調査を行っているため、直径30cm（幹周約94cm）以上の樹木の数を用いて比較した。

調査の年代別で見ると、樹木（大径木）数は増加の傾向を示していたが、今回の調査で減少している。前回調査と比較すると1,531本減少しており、約13%の減少となった。

表 8.9 樹木（大径木）数の推移

年	項目	樹木数 (本)	10haあたりの本数 (本/10ha)	樹木数の増減 (本)
昭和49(1974)年※1		2,937	29.1	-
昭和61(1986)年		5,473	54.3	2,536
平成12(2000)年		7,550	74.9	2,077
平成22(2010)年		11,396	113.1	3,846
平成30(2018)年		9,865	97.9	▲ 1,531

※1：幹周ではなく直径による調査であった為、直径30cm（幹周約94cm）以上の樹木の数とした。

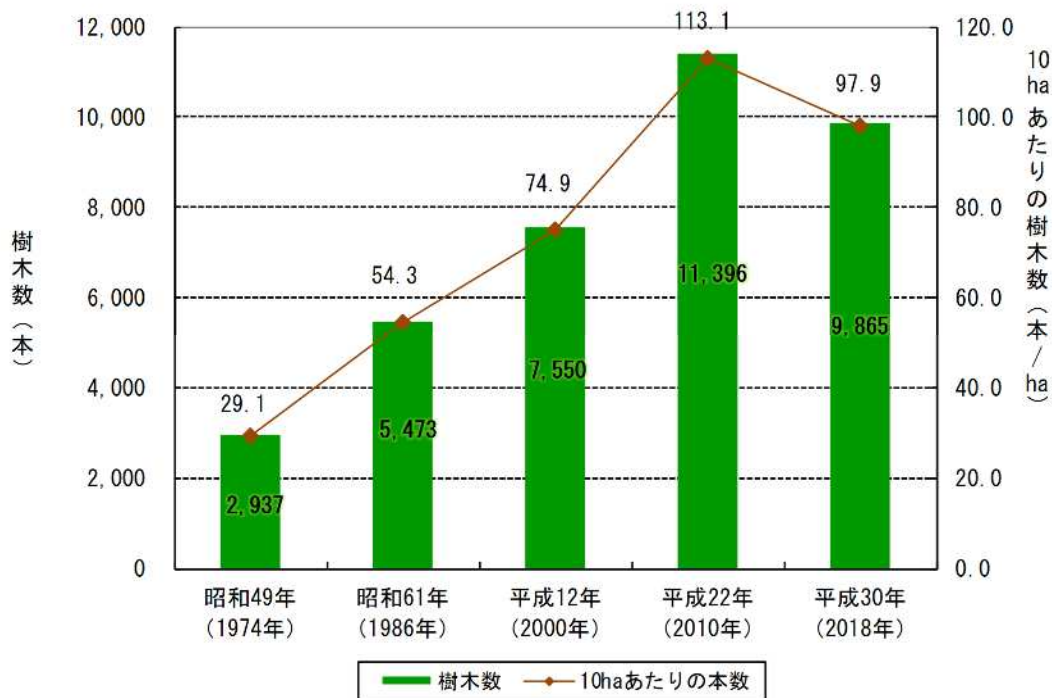


図 8.7 樹木（大径木）数の推移

前回調査からのゾーン別の樹木（大径木）の推移を表8.10及び図8.8に示す。

ゾーン別にみると、増加したゾーンは17.北上野の26本に次いで18.池之端の17本、15.上野の12本と続き、そのほか4つのゾーンで増加した。それ以外の12ゾーンは減少しており、最も減少したゾーンは19.上野公園の1,182本であった。次いで13.谷中東の106本、14.谷中西70本、8.今戸78本の順となった。

表 8.10 ゾーン別樹木（大径木）の推移（平成 22（2010）年～平成 30（2018）年）

ゾーン名	2010年(平成22年)		2018年(平成30年)		増減
	本数 (本)	構成比 (%)	本数 (本)	構成比 (%)	本数 (本)
1 浅草橋	189	1.7	198	2.0	9
2 台東	129	1.1	128	1.3	▲ 1
3 蔵前	224	2.0	229	2.3	5
4 寿	222	1.9	191	1.9	▲ 31
5 西浅草	313	2.7	274	2.8	▲ 39
6 浅草南	868	7.6	799	8.1	▲ 69
7 浅草北	152	1.3	160	1.6	8
8 今戸	700	6.1	622	6.3	▲ 78
9 清川	223	2.0	222	2.2	▲ 1
10 千束	141	1.2	125	1.3	▲ 16
11 竜泉	144	1.3	154	1.6	10
12 根岸	328	3.0	305	3.1	▲ 23
13 谷中東	1,356	11.9	1,250	12.7	▲ 106
14 谷中西	639	5.6	569	5.8	▲ 70
15 上野	77	0.7	89	0.9	12
16 東上野	73	0.6	71	0.7	▲ 2
17 北上野	286	2.5	312	3.2	26
18 池之端	202	1.8	219	2.2	17
19 上野公園	5,130	45.0	3,948	40.0	▲ 1,182
台東区合計	11,396	100.0	9,865	100.0	▲ 1,531

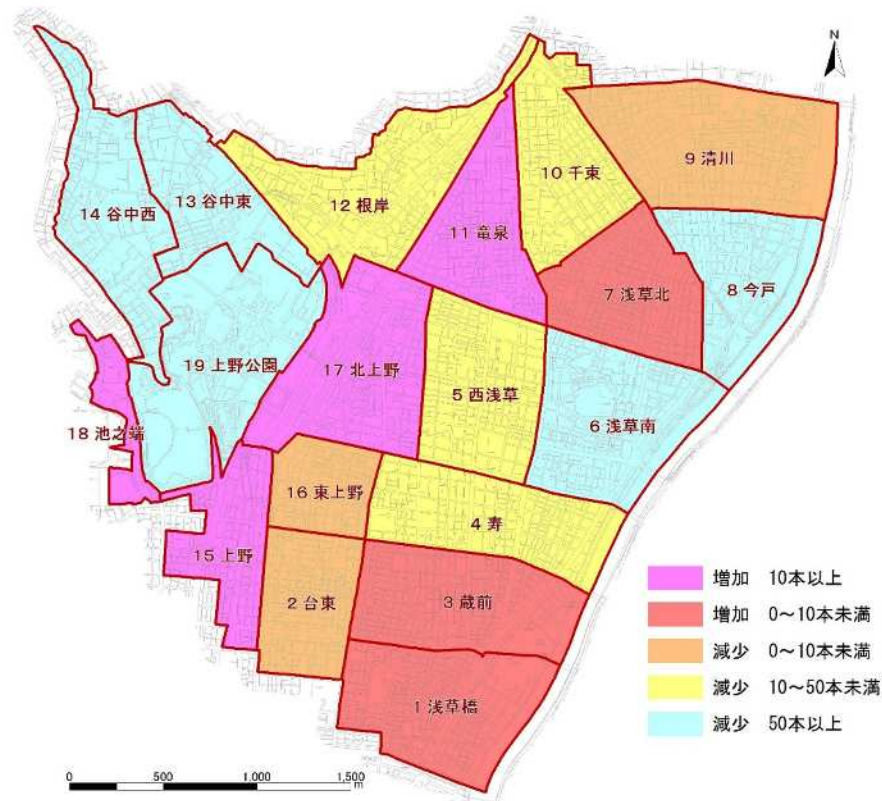


図 8.8 ゾーン別樹木（大径木）の推移

樹種別の樹木（大径木）の推移を表 8.11 及び図 8.9 に示す。

樹木数は、ヒノキ以外の多くの樹種で減少の傾向を示した。最も減少したのがトウネズミモチで 263 本、次いでスダジイ 181 本、サクラの 131 本の順となっている。

表 8.11 樹種別樹木（大径木）の推移（平成 22（2010）年～平成 30（2018）年）

樹種名	平成22年 (2010年) (本)	平成30年 (2018年) (本)	増減 (本)
サクラ	1,994	1,863	▲ 131
イチョウ	1,822	1,810	▲ 12
ケヤキ	1,034	959	▲ 75
クスノキ	1,027	937	▲ 90
スダジイ	962	781	▲ 181
ヒノキ	318	323	▲ 5
プラタナス	300	220	▲ 80
エノキ	221	197	▲ 24
ヒマラヤスギ	227	191	▲ 36
トウネズミモチ	433	170	▲ 263
その他	3,058	2,414	▲ 644
台東区合計	11,396	9,865	▲ 1,531

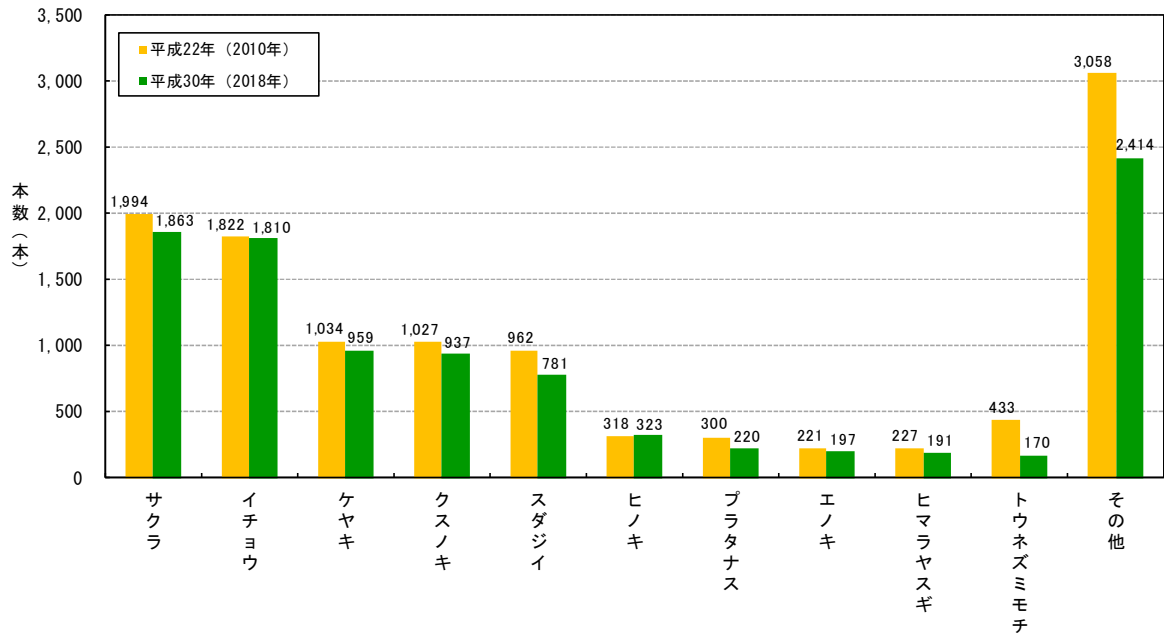


図 8.9 樹種別樹木（大径木）の推移（平成 22（2010）年～平成 30（2018）年）

8.2.7 民有地の樹木（大径木）数の推移

前回調査で確認された民有地（寺社、墓地、個人宅、事業所、集合住宅）の樹木（大径木）について、追跡調査した。

表 8.12 及び図 8.10 の民有地において、前回調査で確認したが今回の調査では消失していた樹木（大径木）の本数を示す。

台東区全体の民有地での消失樹木（大径木）数は 772 本であった。ゾーン別にみると、13.谷中東の 266 本が最も多く、次いで 19.上野公園の 125 本、6.浅草南の 79 本の順となった。

土地利用別にみると、消失樹木数が多いのは、寺社と墓地で、全体の約 9 割程度であった。

表 8.12 ゾーン別民有地における消失樹木（大径木）数

ゾーン名		土地利用別消失本数(本)					合計
		寺社	墓地	個人宅	事業所	集合住宅	
1	浅草橋	4	-	2	5	-	11
2	台東	-	-	-	-	3	3
3	蔵前	5	-	3	1	-	9
4	寿	16	-	-	3	-	19
5	西浅草	15	-	-	6	-	21
6	浅草南	77	-	2	-	-	79
7	浅草北	-	-	1	1	-	2
8	今戸	25	-	4	-	-	29
9	清川	14	1	1	1	3	20
10	千束	6	-	3	2	-	11
11	竜泉	4	-	2	1	-	7
12	根岸	18	-	16	4	3	41
13	谷中東	80	175	7	1	3	266
14	谷中西	84	-	8	2	3	97
15	上野	-	-	1	-	-	1
16	東上野	2	-	-	-	-	2
17	北上野	13	-	-	-	7	20
18	池之端	6	-	-	1	2	9
19	上野公園	117	4	-	4	-	125
台東区合計		486	180	50	32	24	772

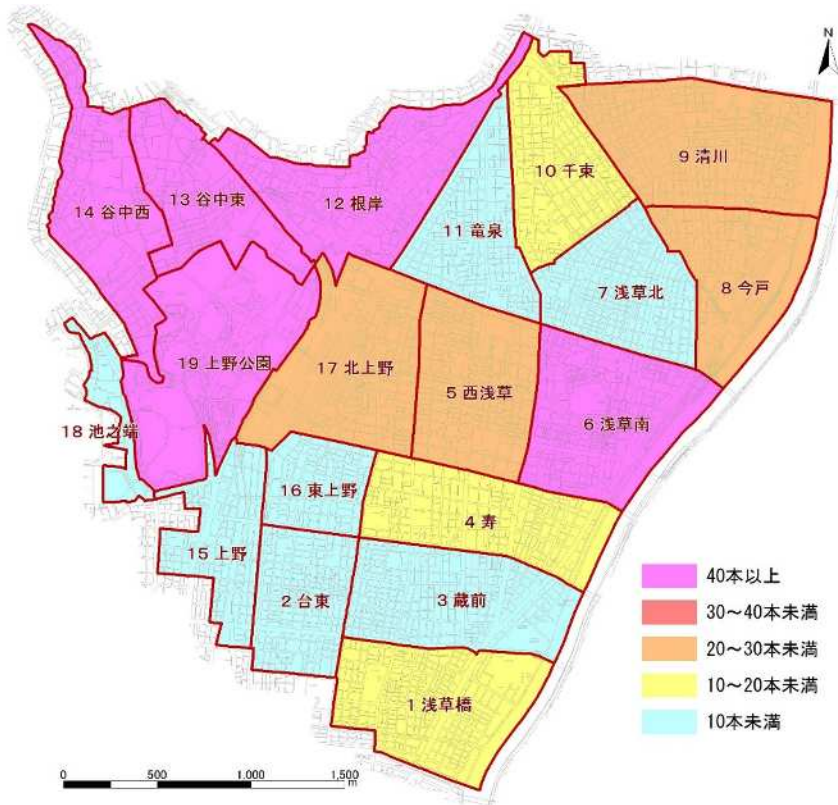


図 8.10 ゾーン別民間地における消失樹木（大径木）数

第9章 保護樹木・保護樹林調査

保護樹木・保護樹林は次の指定基準を満たしているものをいう。

- ・保護樹木の場合
地上 1.5 m の高さにおける幹周りが 1.2 m 以上あり、かつ、健全なもの。
- ・保護樹木（つる性）の場合
つる性植物で枝葉の面積が 20 m² 以上あり、かつ、健全なもの。
- ・保護樹林の場合
樹林（樹冠にすきまがない樹木の集団）の面積が 100 m² 以上あるもので、樹林を構成する樹木の健全なもの。

9.1 調査方法

9.1.1 調査対象

台東区が保護指定している樹木（277 本）、つる性樹木（4 本）及び樹林（5 箇所）を対象とした。

9.1.2 調査のながれ

保護樹木・保護樹林調査の手順を図 9.1 に示す。

- ① 既存の保護樹木等台帳をもとに、9.1.3 節に示す各項目の測定等の現地調査を行った。
- ② 調査後、データの集計及び新たな図面を作成し、データ解析を行い、保護樹木等台帳としてとりまとめた。

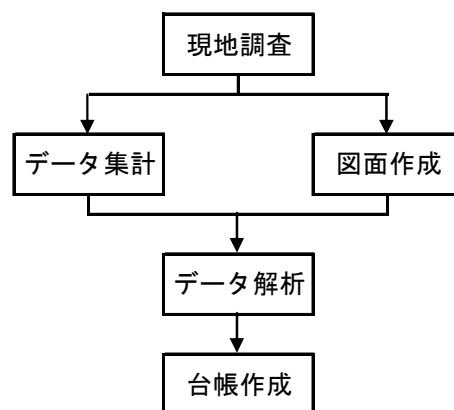


図 9.1 保護樹木・保護樹林調査の流れ

9.1.3 調査項目

調査項目を以下に示す。

- 1) 保護樹木・保護樹林の有無
- 2) 幹周
- 3) 樹高
- 4) 健康度
- 5) 管理状況

9.2 調査結果

9.2.1 保護樹木等の現況

(1) 保護樹木（つる性除く）

保護樹木（277本）の現地調査を行った。

表 9.1 に幹周別の保護樹木数、図 9.2 に幹周別の保護樹木構成比を示す。

幹周別にみると、2 m 未満が 123 本（44.4 %）、2～3 m 未満が 118 本（42.6 %）、3～4 m 未満が 28 本（10.1 %）、4 m 以上が 8 本（2.9 %）であった。幹周は 4 m 未満のものが全体の約 9 割を占めた。

表 9.1 幹周別保護樹木数

幹周	本数 (本)	構成比 (%)
2m未満	123	44.4
2～3m未満	118	42.6
3～4m未満	28	10.1
4～5m未満	2	0.7
5～6m未満	3	1.1
6～7m未満	2	0.7
7m以上	1	0.4
台東区合計	277	100.0

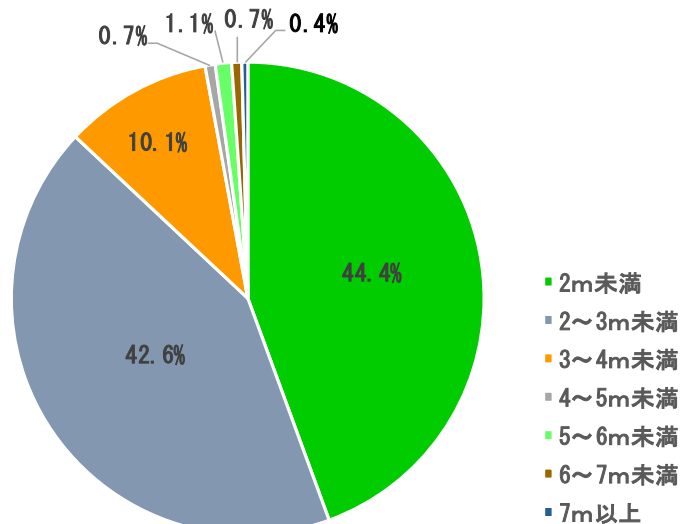


図 9.2 幹周別保護樹木構成比

表 9.2～9.4 に保護樹木の事例を示す。

表 9.2 保護樹木の事例①

	ゾーン	1.浅草橋
	所在地	浅草橋
	樹種	イチヨウ
	幹周	1.62m
	樹高	22m
	枝張り	東3m 西3m 南3m 北3m
	活力度	良好
	管理状況	清掃・剪定

表 9.3 保護樹木の事例②

	ゾーン	14.谷中西
	所在地	谷中
	樹種	ケヤキ
	幹周	2.16m
	樹高	12m
	枝張り	東3m 西3m 南3m 北4m
	活力度	良好
	管理状況	解説板有り

表 9.4 保護樹木の事例③

	ゾーン	9.清川
	所在地	清川
	樹種	タブノキ
	幹周	2.32m
	樹高	10m
	枝張り	東3m 西2m 南3m 北3m
	活力度	良好
	管理状況	解説板有り

表 9.5 に保護樹木の樹種の内訳、図 9.3 に保護樹木の樹種の構成比を示す。

保護樹木の樹種は全部で 28 種であった。イチヨウ 135 本 (48.7%) が最も多く、次いでクスノキ 26 本 (9.4%)、ケヤキ 25 本 (9.0%)、ヒマラヤスギ 20 本 (7.2%) の順となった。主要樹種上位 5 種で全体の 8 割以上を占めた。

表 9.5 樹種別保護樹木数

樹種	本数 (本)	構成比 (%)
イチヨウ	135	48.7
クスノキ	26	9.4
ケヤキ	25	9.0
ヒマラヤスギ	20	7.2
スタジイ	18	6.5
タブノキ	11	4.0
サクラ	6	2.2
ソメイヨシノ	6	2.2
エノキ	5	1.8
ムクノキ	4	1.4
その他 ^{※1}	21	7.6
台東区合計	277	100.0

※1 その他は、
 シラカシ、ハゼノキ、モチノキ：各 2 本
 エンジュ、カイヅカイブキ、カキ、カシワノキ、カツラ、サイカチ、サンゴジュ、シダレザクラ、
 シダレヤナギ、シロダモ、ヌマスギ、プラタナス、メタセコイヤ、ヤマモモ、ユリノキ：各 1 本

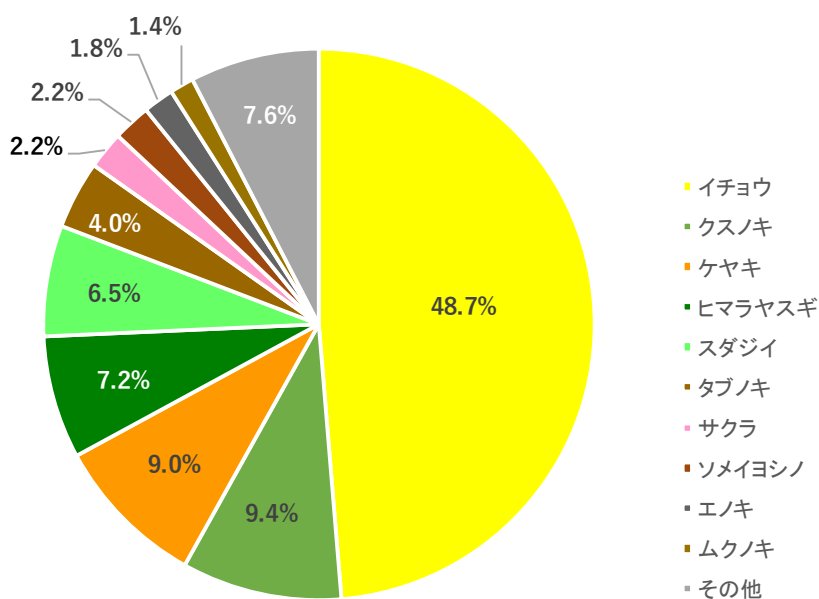


図 9.3 樹種別保護樹木構成比

所有区分別の保護樹木数を表 9.6 に示す。

所有区分別にみると、寺社の所有が 63 箇所 で 255 本 (92.1%) であり、次いで多い個人宅が 7 箇所 7 本 (2.5%) あることから、保護樹木の所有は寺社が多いことが分かる。

表 9.6 所有区分別保護樹木数

所有区分	所有箇所数 (箇所)	本数 (本)	構成比 (%)
寺社	63	255	92.1
個人宅	7	7	2.5
教育文化施設	2	7	2.5
集合住宅	2	3	1.1
病院	1	2	0.7
事業所	2	2	0.7
娯楽施設	1	1	0.4
台東区合計	78	277	100.0

施設別の所有保護樹木数を表 9.7 に示す。

所有保護樹木数が最も多い施設は浅草寺で 53 本 (19.1%)、次いで寛永寺 28 本 (10.1%)、浅草神社 22 本 (7.9%)、両大師 17 本 (6.1%)、玉林寺 10 本 (3.6%) であり、この 5 施設で全体の半数近くを占めることが分かる。

表 9.7 施設別保護樹木数 (上位 14 位まで表示)

順位	施設名	ゾーンNo.	本数 (本)	区全体に 占める割合 (%)
①	浅草寺	6	53	19.1
②	寛永寺	13	28	10.1
③	浅草神社	6	22	7.9
④	両大師	19	17	6.1
⑤	玉林寺	14	10	3.6
⑥	安立寺	14	9	3.2
⑦	銀杏岡八幡神社	1	7	2.5
⑦	萬隆寺	5	7	2.5
⑦	天王寺	13	7	2.5
⑩	東京本願寺	5	6	2.2
⑩	本覚寺	5	6	2.2
⑩	大名時計博物館	14	6	2.2
⑬	石稻荷神社	12	4	1.4
⑬	西蔵院	12	4	1.4
上位14位の合計			186	67.1

(1) 保護樹木（つる性）

保護樹木調査の対象となるつる性樹木（4本）について、枝葉の面積等の現地調査を行った。

表 9.8 に面積別の保護樹木（つる性）数、図 9.4 に面積別の保護樹木（つる性）構成比を示す。保護樹木（つる性）数は合計 4 本であった。

表 9.8 面積別保護樹木（つる性）数

面積	本数 (本)	構成比 (%)
50㎡未満	1	25.0
50～100㎡未満	2	50.0
100～150㎡未満	1	25.0
150～200㎡未満	0	0.0
200～250㎡未満	0	0.0
250～300㎡未満	0	0.0
300㎡以上	0	0.0
台東区合計	4	100.0

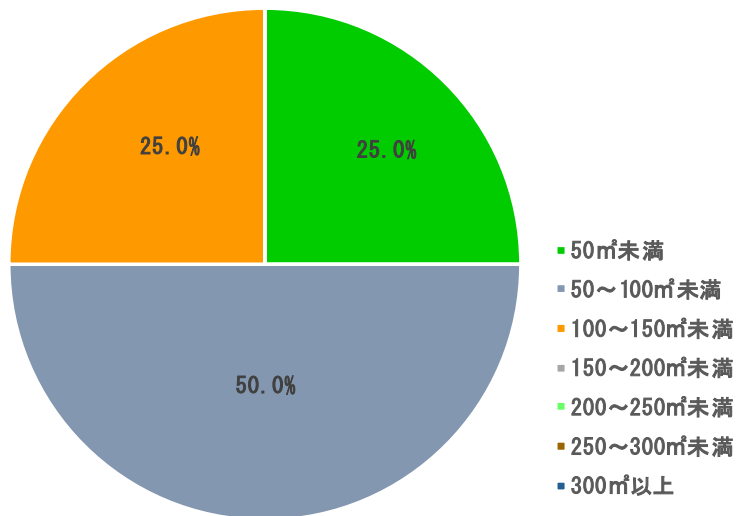


図 9.4 面積別保護樹木（つる性）構成比

表 9.9 に保護樹木（つる性）の樹種の内訳、図 9.5 に保護樹木（つる性）の樹種の構成比を示す。

保護樹木（つる性）の樹種は全部で4種、フジ1本(25.0%)、ヒメイタビ1本(25.0%)、ナツツタ1本(25.0%)、フィカスプミラ1本(25.0%)であった。

所有者区別にみると、個人宅が2本、事業所が1本、寺社が1本であった。また、ゾーン別では「表 9.12 ゾーン別保護樹木数・保護樹林箇所数」のとおりであった。

表 9.9 樹種別保護樹木（つる性）数

樹種	本数 (本)	構成比 (%)
フジ	1	25.0
ヒメイタビ	1	25.0
ナツツタ	1	25.0
フィカスプミラ	1	25.0
台東区合計	4	100.0

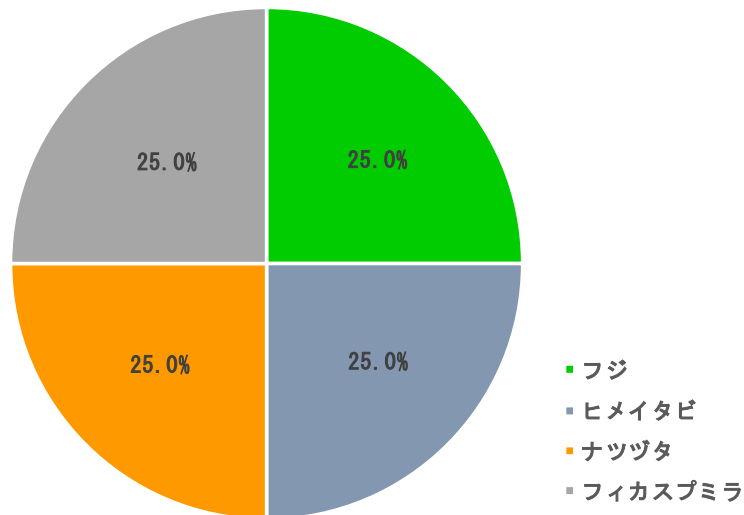


図 9.5 樹種別保護樹木（つる性）構成比

(2) 保護樹林

保護樹林調査の対象となる樹林（5箇所）の現地調査を行った。

表 9.10 に面積別の保護樹林数、図 9.6 に面積別の保護樹林構成比を示す。保護樹林数は合計 5 箇所であった。

面積別にみると、200～400 m² 未満が 1 箇所（20.0 %）、400～600 m² 未満が 1 箇所（20.0 %）、800～1000 m² 未満が 1 箇所（20.0 %）、1000 m² 以上が 2 箇所（40.0 %）であった。

表 9.10 面積別保護樹林数

面積	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
200m ² 未満	0	0.0
200～400m ² 未満	1	20.0
400～600m ² 未満	1	20.0
600～800m ² 未満	0	0.0
800～1000m ² 未満	1	20.0
1000m ² 以上	2	40.0
台東区合計	5	100.0

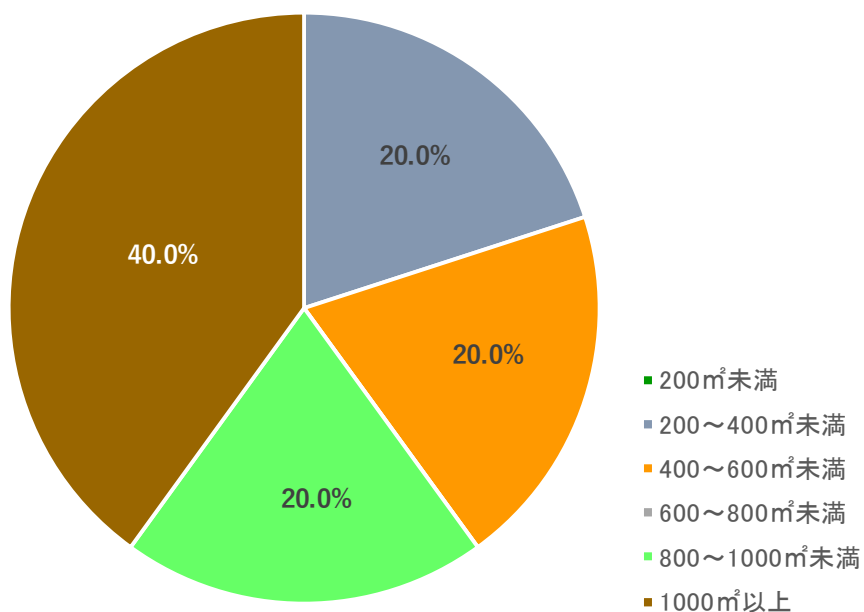


図 9.6 面積別保護樹林構成比

表 9.11 に保護樹林の樹種の内訳、図 9.7 に保護樹林の樹種の構成比を示す。

保護樹林における樹木の樹種は全部で9種であった。最も多い樹種はイチョウ 52本 (59.8%)、次いでスダジイ 14本 (16.1%)、ケヤキ 11本 (12.6%) の順となった。主要樹種上位3種で全体の約9割を占めた。

保護樹林のあるゾーンは1.浅草橋(榊神社)、3.蔵前(鳥越神社)、12.根岸(小野照崎神社)、14.谷中西(メタセコイヤマンション)及び16.東上野(下谷神社)である。

表 9.11 保護樹林における樹種別樹木数

樹種	樹木数 (本)	構成比 (%)
イチョウ	52	59.8
スダジイ	14	16.1
ケヤキ	11	12.6
クスノキ	3	3.4
サクラ	3	3.4
メタセコイヤ	1	1.2
ムクノキ	1	1.2
ヒノキ	1	1.2
ヒマラヤスギ	1	1.2
台東区合計	87	100.0

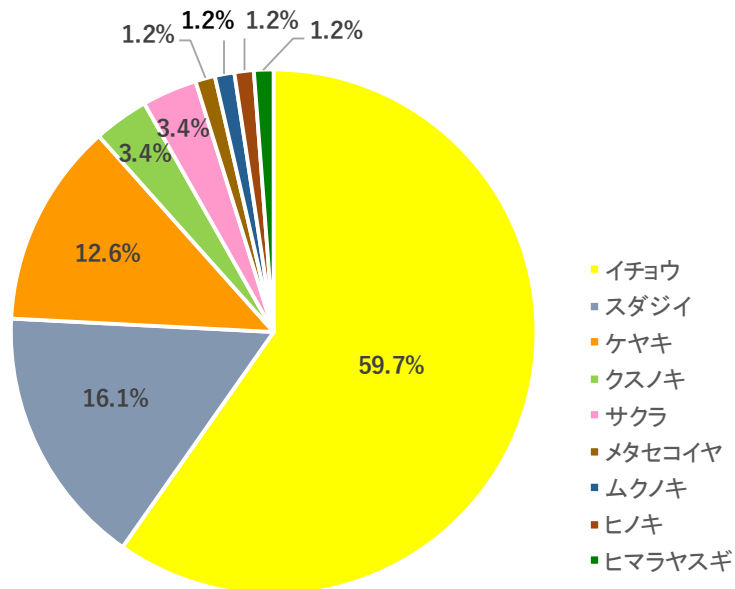


図 9.7 保護樹林における樹種別樹木構成比

9.2.2 ゾーン別の保護樹木数・保護樹林箇所数

ゾーン別の保護樹木数・保護樹林箇所数を表 9.12 及び図 9.8 に示す。

保護樹木数が最も多いゾーンは、6.浅草南の 79 本（28.5%）、次いで 14.谷中西の 55 本（19.8%）、13.谷中東の 36 本（13.0%）の順となった。15.上野及び 16.東上野のゾーンは 0 本であった。

保護樹木数の多いゾーンでは「表 9.7 施設別保護樹木数」で示した施設別保護樹木数の上位の施設が寄与している特徴がある。

また、保護樹木が存在しないゾーンは、事業所が多い商業地域となっている。

保護樹木（つる性）は 5.西浅草及び 7.浅草北、12.根岸、14.谷中西に各 1 本であった。

表 9.12 ゾーン別保護樹木数・保護樹林箇所数

ゾーン名	保護樹木		主な所在地	保護樹木 (つる性)	保護樹林
	本数 (本)	構成比 (%)		本数 (本)	箇所数 (箇所)
1 浅草橋	10	3.6	銀杏岡八幡神社、須賀神社	-	1
2 台東	4	1.4	金刀比羅神社、秋葉神社	-	-
3 蔵前	3	1.1	法林寺、蔵前神社、龍宝寺	-	1
4 寿	3	1.1	妙経寺、本法寺、誓教寺	-	-
5 西浅草	24	8.7	萬隆寺、東京本願寺、本覚寺	1	-
6 浅草南	79	28.5	浅草寺、浅草神社	-	-
7 浅草北	1	0.4	浅草ハイム	1	-
8 今戸	5	1.8	今戸神社、慶養寺	-	-
9 清川	2	0.7	不動院、個人宅	-	-
10 千束	3	1.1	同善会クリニック、永久寺	-	-
11 竜泉	7	2.5	弁天院、龍泉寺	-	-
12 根岸	18	6.5	石稻荷神社、西藏院	1	1
13 谷中東	36	13.0	寛永寺、天王寺	-	-
14 谷中西	55	19.8	玉林寺、安立寺、大名時計博物館	1	1
15 上野	-	-		-	-
16 東上野	-	-		-	1
17 北上野	3	1.1	源空寺、真源寺	-	-
18 池之端	3	1.1	七倉稻荷、忠網寺	-	-
19 上野公園	21	7.6	両大師、護国院、現龍院	-	-
台東区合計	277	100.0		4	5

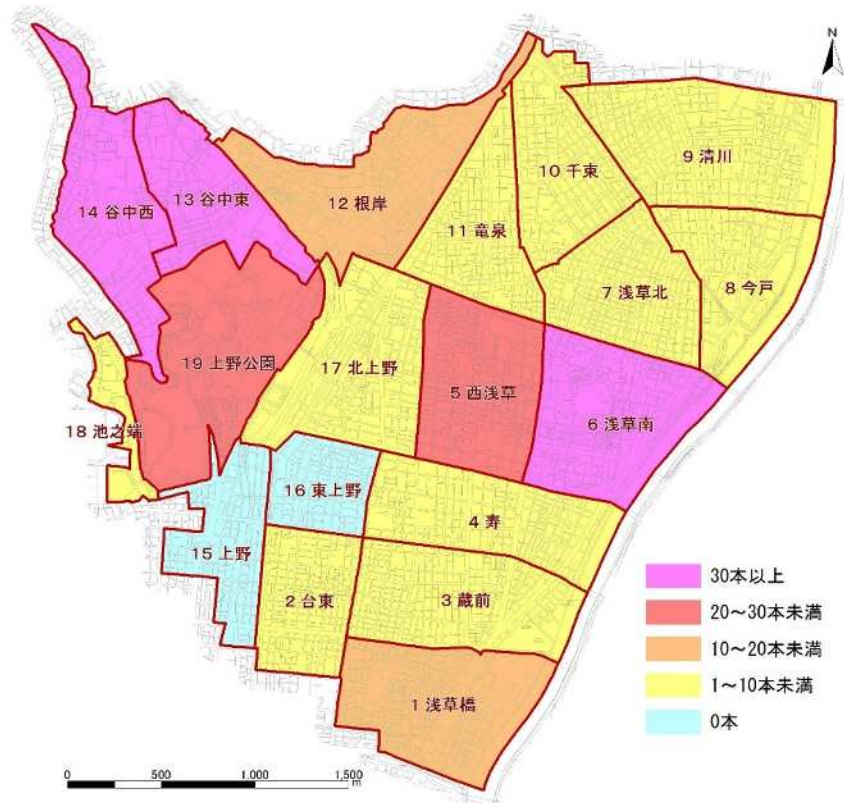


図 9.8 ゾーン別保護樹木数

9.2.3 健康度の状況

樹木の健康度基準（表 9.13）を基に、保護樹木の健康度の状況を表 9.14 に示す。

表 9.13 保護樹木の健康度基準

健康度	1（健康）	2（ほぼ健康）	3（やや不健康）	4（不健康）
樹勢	生育旺盛	異常あり（目立たない）	異常が一目でわかる	生育劣悪回復の見込みなし
樹形	自然樹形	一部に乱れあり	崩壊が進んでいる	崩壊し、奇形化
梢枝の枯損	なし	わずかにあり	かなり多い	著しく多い
枝葉の密度	正常バランス良い	1に比べやや劣る	やや疎	著しく疎
葉色	正常バランス良い	やや異常	かなり多い異常	著しく異常
樹皮の状況	傷なし	傷など少しある	傷がかなりある	空洞、割れがある

※科学技術庁資源調査会（1972）「地上調査に基づく樹木活力度指標」を引用

表 9.14 保護樹木の健康度の状況

健康度	1（健康）	2（ほぼ健康）	3（やや不健康）	4（不健康）	合計
樹勢	126	132	18	1	277
樹形	120	137	19	1	277
梢枝の枯損	115	143	16	3	277
枝葉の密度	131	125	20	1	277
葉色	188	83	5	1	277
樹皮の状況	114	137	19	7	277

[単位：本]

保護樹木の健康度を図 9.9 に示す。表 9.14 保護樹木の健康度の状況を見ると、全ての項目において1（健康）、2（ほぼ健康）が約9割を占め、概ね良好であった。

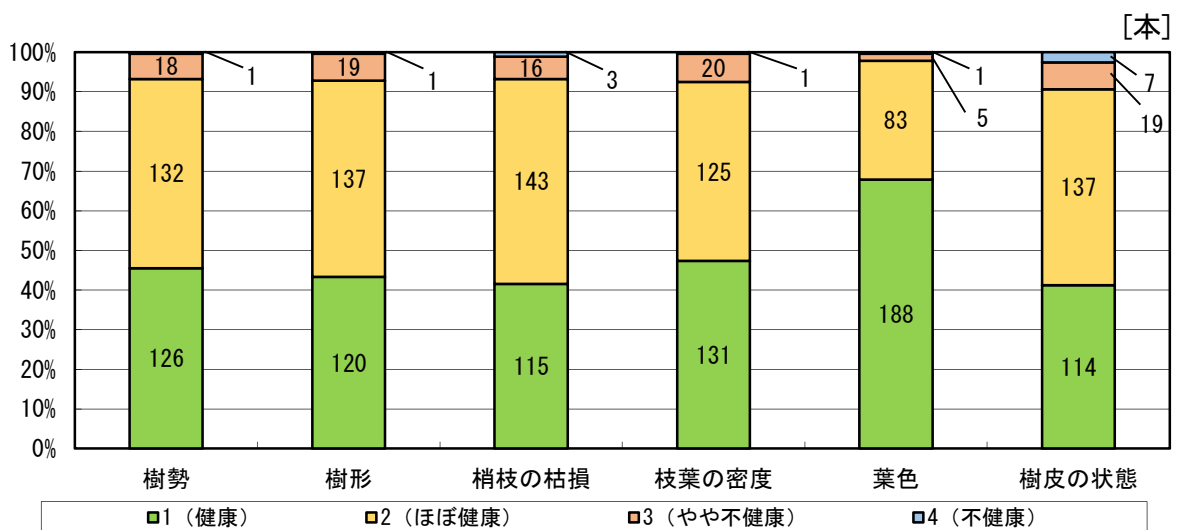


図 9.9 保護樹木の健康度

次に、保護樹木の生育状況を把握するため、幹周について、保護指定時と今回の調査時を比較して生長量を求めた。

<計算式>

$$\text{生長量 (cm/年)} = (\text{今回調査時の幹周 (cm)} - \text{保護指定時の幹周 (cm)}) / \text{保護指定期間 (年)}$$

保護樹木の年間生長量を表 9.15 に示す。

年間生長量が最も多い区分は年間生長量が 0.5～1.0 cm 未満の保護樹木で 60 本 (21.6%) であった。

生長量大きい区分になるにつれ、樹木数は減少する傾向となった。保護指定を受けた樹木の中には、比較的高齢な樹木があるため、生長のピークを過ぎているものが含まれていると推察される。

表 9.15 保護樹木の年間生長量

生長量 (cm/年)	本数 (本)	構成比 (%)
0.5cm未満	38	13.7
0.5～1.0cm未満	60	21.6
1.0～1.5cm未満	55	19.8
1.5～2.0cm未満	42	15.2
2.0～2.5cm未満	28	10.1
2.5～3.0cm未満	16	5.8
3.0～3.5cm未満	11	4.0
3.5～4.0cm未満	8	2.9
4.0～4.5cm未満	2	0.7
4.5～5.0cm未満	6	2.2
5.0cm以上	11	4.0
台東区合計	277	100.0

9.2.4 保護樹木数の推移

平成22年（2010年）以降の保護樹木数の推移を表9.16及び図9.10に示す。

平成22年（2010年）から平成29年（2017年）まで、保護樹木数の推移は、やや減少傾向となっている。

指定解除の本数は8年間で42本であった。寺社での指定解除が多く、保護樹林への変更、建物の新改築及び塀の破損を伴う危険性があるための伐採によるものが多くあり、新規での保護指定は34本であった。

※保護樹木数につる性含む。

表 9.16 保護樹木数の推移（平成22（2010）年～平成30（2018）年）

年度	指定 (+)	解除 (-)	台東区 合計※1
平成22年 (2010年)	5	9	285
平成23年 (2011年)	-	3	282
平成24年 (2012年)	20	15	287
平成25年 (2013年)	-	7	280
平成26年 (2014年)	2	1	281
平成27年 (2015年)	4	2	283
平成28年 (2016年)	3	2	284
平成29年 (2017年)	-	3	281
平成30年 (2018年)	-	-	281

※1 各年年度末現在での本数（平成30年は調査時点）

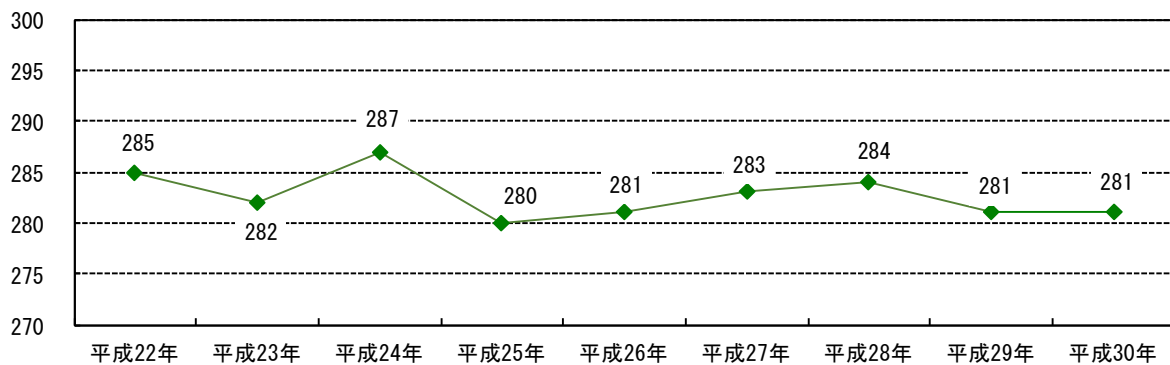


図 9.10 年度間における保護樹木数の推移

第10章 壁面緑化調査

壁面緑化とは、公道（区道・都道・国道）から見る事ができる建築物の外壁や擁壁、フェンス等の壁面を意図的に緑化したものをいう。緑化の形態は、①壁面登はん型、②格子登はん型（緑のカーテンを含む）、③壁面下垂型、④プランター設置型、⑤壁面植栽型、⑥壁前植栽型の6種である。

10.1 調査方法

10.1.1 調査対象

緑化されている壁面の面積が3 m²以上のものを対象とした。

前回調査において、壁面緑化として確認した箇所及び新たに該当する箇所を調査した。

10.1.2 調査のながれ

壁面緑化調査の手順を10.1に示す。

- ① 既存の壁面緑化台帳等をもとに、現地調査資料を作成した。
- ② 現地調査を行い、壁面緑化の位置を確認し、10.1.3節に示す各項目の測定等を行った。
- ③ 調査後、データの集計及び新たな図面を作成し、データ解析・評価を行い、壁面緑化台帳としてとりまとめた。

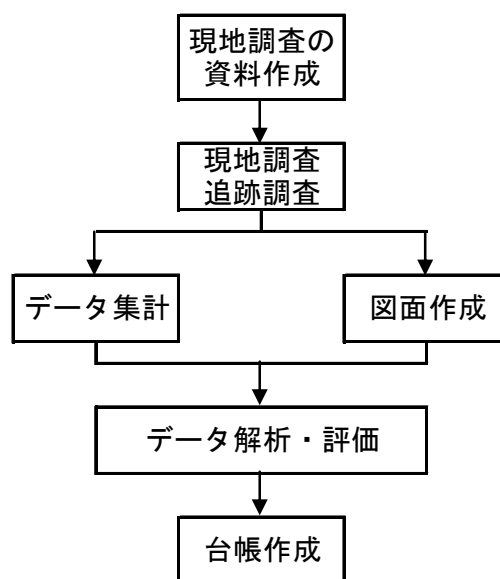


図 10.1 壁面緑化調査の手順

10.1.3 調査項目

調査項目を以下に示す。

- 1) 所在地
- 2) 土地利用形態
- 3) 樹種
- 4) 壁面緑化面積（高さ、幅）
- 5) 形態（登はん型、下垂型、壁前植栽等）
- 6) 健康度
- 7) 管理状況
- 8) 密度
- 9) 所有者・管理者

10.2 調査結果

10.2.1 壁面緑化の現況

台東区全体の面積別壁面緑化箇所数を表 10.1 及び図 10.2 に示す。また、図 12.3 に壁面緑化の分布図を示す。

台東区全体の壁面緑化は、設置箇所数の合計 2,419 箇所、緑化面積は 69,838.9 m²であった。面積別では 5～10m²未満で最も多く、541 箇所（22.4%）であった。次いで 10～15m²未満で 424 箇所（17.5%）、15～20m²未満で 307 箇所（12.7%）の順となった。25m²未満の壁面緑化で全体の約 7 割を占めている。

表 10.1 面積別壁面緑化箇所数

面積	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
3～5m ² 未満	198	8.2
5～10m ² 未満	541	22.4
10～15m ² 未満	424	17.5
15～20m ² 未満	307	12.7
20～25m ² 未満	247	10.2
25～30m ² 未満	143	5.9
30～35m ² 未満	124	5.1
35～40m ² 未満	64	2.7
40～45m ² 未満	80	3.3
45～50m ² 未満	39	1.6
50m ² 以上	252	10.4
台東区合計	2,419	100.0

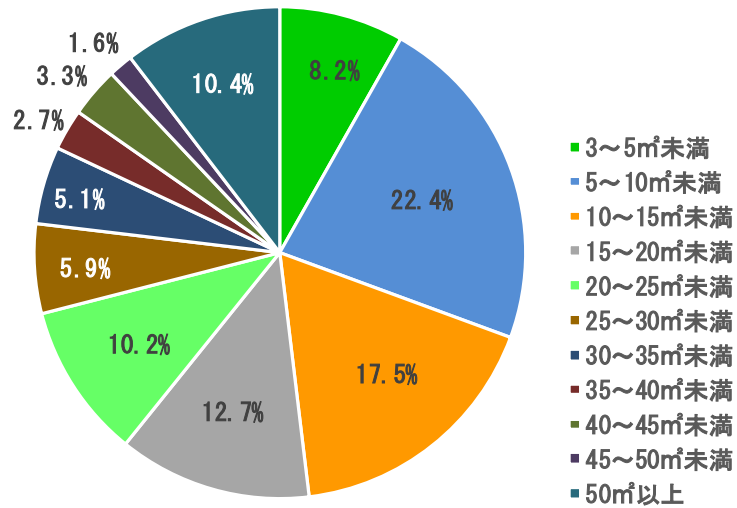


図 10.2 面積別壁面緑化構成



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

図 10.3 壁面緑化分布図

表 10.2～10.4 に壁面緑化の事例を示す。

表 10.2 壁面緑化の事例①

	ゾーン	1.浅草橋
	所在地	浅草橋
	土地利用	事業所
	樹種	ヘデラ
	緑化面積	272㎡ (高さ8m×距離34m)
	形態	格子登はん
	健康度	良
	管理状況	良
密度	密	

表 10.3 壁面緑化の事例②

	ゾーン	18.池之端
	所在地	池之端
	土地利用	公共施設
	樹種	ヘデラ
	緑化面積	40㎡ (高さ10m×距離4m)
	形態	壁面植栽
	健康度	中
	管理状況	中
密度	密	

表 10.4 壁面緑化の事例③

	ゾーン	3.蔵前
	所在地	蔵前
	土地利用	集合住宅
	樹種	ヘデラ
	緑化面積	6㎡ (高さ0.3m×距離10m) (高さ3m×距離1m)
	形態	壁面登はん
	健康度	良
	管理状況	良
密度	密	


壁面緑化の樹種の内訳を表 10.5 に示す。

壁面緑化には、複数の樹種で構成されているものがあるため、樹種別の箇所数を合計すると、6,973 箇所となった。最も多い樹種はツツジで 469 箇所（6.7%）に植栽されていた。次いでサザンカ 329 箇所（4.7%）、ツバキ 303 箇所（4.3%）の順となった。全体的として、木本性植物（樹木）の箇所数が 9 割近くを占めており、つる性植物の箇所数よりも多く植栽されていた。

つる性植物が植栽されていた箇所数で、最も多い樹種はヘデラの 157 箇所（2.3%）で、次いでアサガオ 124 箇所（1.8%）となった。

表 10.5 壁面緑化における樹種の内訳

樹種	箇所数 (箇所)	構成比 (%)	樹種	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
ツツジ	469	6.7	ヘデラ	157	2.3
サザンカ	329	4.7	ヤツデ	150	2.2
ツバキ	303	4.3	アロエ	128	1.8
カイヅカイブキ	300	4.3	ハナミズキ	126	1.8
ナンテン	279	4.0	アサガオ	124	1.8
キンモクセイ	264	3.8	タケ	115	1.6
イロハモミジ	250	3.6	バラ	105	1.5
ヤドリフカノキ	179	2.6	アオキ	96	1.4
オオムラサキツツジ	170	2.4	サクラ	91	1.3
ツゲ	165	2.4	その他	3,014	43.2
アジサイ	159	2.3	台東区合計	6,973	100.0

※  はつる性植物

土地利用別の壁面緑化の箇所数を表 10.6 及び図 10.4 に示す。

土地利用別にみると、最も多い土地利用区分は個人宅で 992 箇所（41.0%）であった。次いで事業所で 642 箇所（26.5%）、集合住宅で 590 箇所（24.4%）の順となった。また、1 箇所あたりの面積で見ると、最も広いのは公園で 327.5 m²、次いで学校 156.1 m²であった。

壁面緑化箇所数が多かった個人宅や事業所等では、比較的敷地面積が狭いことや建物等の規模が小さい等のことがあり 1 箇所あたりの緑化面積が狭くなる傾向がある。一方、学校や公園では、個人宅等と比べると敷地面積が広いことや建物等の規模が大きいため、1 箇所あたりの緑化面積が広がっている。

表 10.6 土地利用別壁面緑化箇所数

土地利用	箇所数 (箇所)	構成比 (%)	緑化面積 (㎡)	1箇所あたりの面積 (㎡)
個人宅	992	41.0	19,822.1	20.0
事業所	642	26.5	16,622.7	25.9
集合住宅	590	24.4	17,317.0	29.4
寺社	76	3.1	3,011.7	39.6
公共施設	56	2.3	3,939.4	70.3
学校	31	1.3	4,839.8	156.1
公園	9	0.4	2,947.9	327.5
その他	23	1.0	1,338.3	58.2
台東区合計	2,419	100.0	69,838.9	28.9

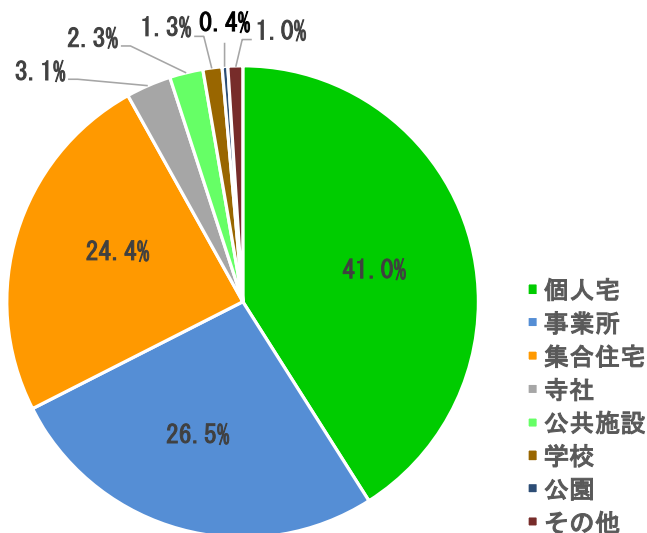


図 10.4 土地利用別壁面緑化構成比

形態別の壁面緑化箇所数を表 10.7 及び図 10.5 に示す。

形態別にみると、壁前植栽が 2,109 箇所 (71.7%) と最も多く、次いでプランター設置で 261 箇所 (8.9%)、格子登はんで 236 箇所 (8.0%) の順となった。

つる性植物は木本性植物 (樹木) と違い、自立できる幹を持たず、付着や巻きつき等によってほかの物に絡みついて生長していくため、壁面登はん、格子登はん、壁面下垂、プランター設置及び壁面植栽に用いられることが多い。

木本性植物 (樹木) は自立できる幹を持ち、他の物に依存せずに生長できるため、壁前植栽に用いられることが多い。

本調査において、つる性植物が多い壁面登はん、格子登はん、壁面下垂、プランター設置及び壁面植栽の箇所数を合計すると 831 箇所 (28.3%) であるのに対し、壁前植栽は 2,109 箇所 (71.7%) であった。また、壁面緑化に利用される樹種の内訳「表 10.5 壁面緑化における樹種の内訳」をみると、上位 11 位までを木本性植物 (樹木) が占めている。

これらのことから、本区においては、つる性植物による壁面緑化よりも、木本性植物（樹木）による壁面緑化が多いことが分かる。

表 10.7 形態別壁面緑化箇所数

形態	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
壁面登はん	164	5.6
格子登はん	236	8.0
壁面下垂	117	4.0
プランター設置	261	8.9
壁面植栽	53	1.8
壁前植栽	2,109	71.7
台東区合計	2,940	100.0

※1 箇所に複数の形態が設置されている場所もあるため、合計数が全体を超えている。

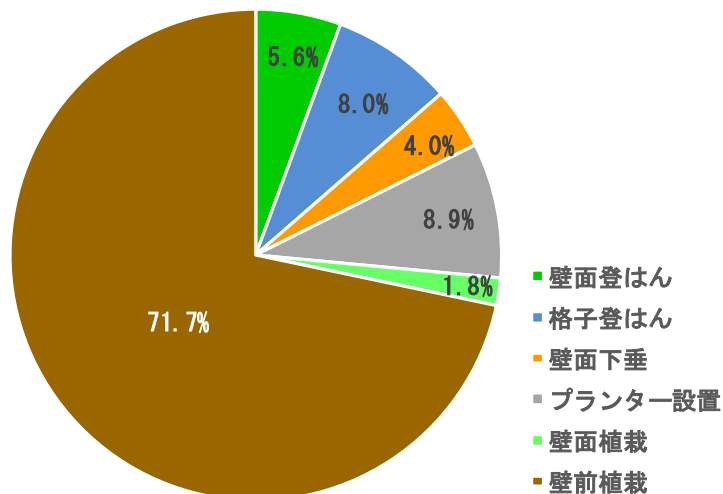


図 10.5 形態別壁面緑化構成比

10.2.2 ゾーン別の壁面緑化の状況

各ゾーン別の壁面緑化箇所数を表 10.8 及び図 10.6 に示す。

壁面緑化箇所数が最も多いゾーンは 9.清川で 253 箇所 (10.5%) であった。次いで 12.根岸で 219 箇所 (9.0%)、14.谷中西で 215 箇所 (8.9%) の順となった。最も少ないゾーンは 19.上野公園で 4 箇所 (0.2%)、次いで 18.池之端で 22 箇所 (0.9%)、15.上野で 44 箇所 (1.8%) の順となった。

全体的にみると、住宅が集まっているゾーンでは壁面緑化箇所数が多く、事業所が多く集まっている 15.上野や 16.東上野等は、壁面緑化箇所数が少ないことがわかる。

表 10.8 ゾーン別壁面緑化箇所数

ゾーン名	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
1 浅草橋	100	4.1
2 台東	73	3.0
3 蔵前	159	6.6
4 寿	198	8.2
5 西浅草	133	5.5
6 浅草南	83	3.4
7 浅草北	135	5.6
8 今戸	114	4.7
9 清川	253	10.5
10 千束	161	6.6
11 竜泉	178	7.4
12 根岸	219	9.0
13 谷中東	131	5.4
14 谷中西	215	8.9
15 上野	44	1.8
16 東上野	57	2.4
17 北上野	140	5.8
18 池之端	22	0.9
19 上野公園	4	0.2
台東区合計	2,419	100.0

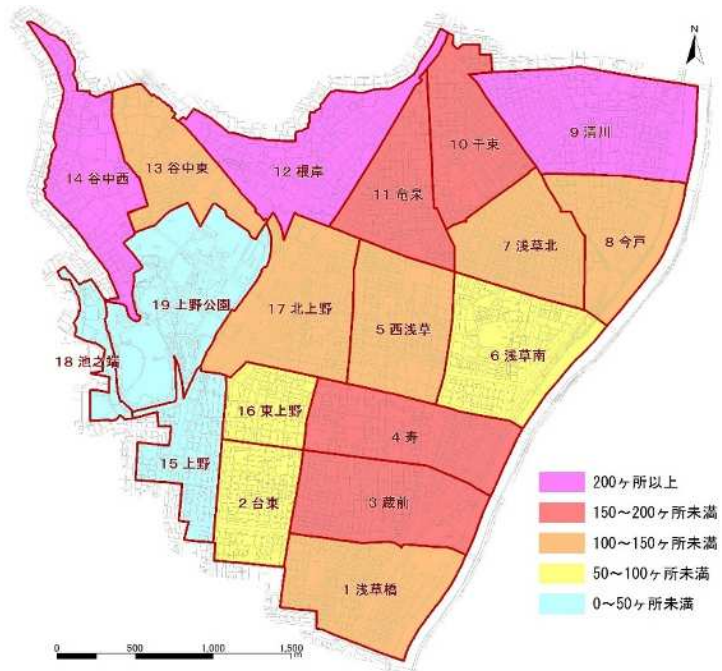


図 10.6 ゾーン別壁面緑化箇所数

各ゾーンの建物数に対する壁面緑化設置箇所割合（壁面緑化率）を算出した結果を表10.9に示す。なお、建物数は「東京都都市計画地理情報システムデータ」の建物データを用いた。

台東区全体の壁面緑化率は6.1%で、前回調査（7.1%）と比較すると1.0ポイント減少した。

ゾーン別にみると、最も高いのは13.谷中東で12.9%であった。次いで4.寿で8.6%、14.谷中西で8.3%の順となった。

表 10.9 ゾーン別壁面緑化率

ゾーン名	建物数 ^{※1} (棟)	壁面緑化 箇所数 (箇所)	壁面緑化率 ^{※2} (%)	
1	浅草橋	2,500	100	4.0
2	台東	1,884	73	3.9
3	蔵前	2,830	159	5.6
4	寿	2,306	198	8.6
5	西浅草	2,665	133	5.0
6	浅草南	2,215	83	3.7
7	浅草北	2,945	135	4.6
8	今戸	1,455	114	7.8
9	清川	4,242	253	6.0
10	千束	2,688	161	6.0
11	竜泉	2,347	178	7.6
12	根岸	3,054	219	7.2
13	谷中東	1,017	131	12.9
14	谷中西	2,600	215	8.3
15	上野	1,349	44	3.3
16	東上野	1,110	57	5.1
17	北上野	1,897	140	7.4
18	池之端	342	22	6.4
19	上野公園	335	4	1.2
台東区合計	39,781	2,419	6.1	

※1 「東京都都市計画地理情報システムデータ」に納められている建物データを集計

※2 「壁面緑化率(%) = 壁面緑化箇所数/建物数×100」

10.2.3 壁面緑化の推移

前回調査の平成22年（2010年）と今回調査の平成30年（2018年）の壁面緑化の箇所数の比較を表10.10に示す。

壁面緑化の箇所数は、前回調査（2,926箇所）と比較すると507箇所減少した。

ゾーン別にみると、全てのゾーンで壁面緑化の減少となった。最も減少したのは9.清川で60箇所であった。次いで12.根岸で56箇所、10.千束で42箇所の順となった。

壁面緑化の推移を把握するため、前回調査と比較して、今回調査においても同じ箇所に残る壁面緑化の割合である「残存率」を算出した。その結果、台東区全体の壁面緑化箇所の残存率は76.2%となり、前回調査の残存率（63.2%）に対し、13.0ポイント増加となり、507箇所の減少はあったものの既存の壁面緑化の残存率は上昇している。

表 10.10 ゾーン別壁面緑化の推移（平成22（2010）年～平成30（2018）年）

ゾーン名	箇所数(箇所)		増減	残存数 (箇所)	残存率 ^{※1} (%)
	平成22年 (2010年)	平成30年 (2018年)			
1 浅草橋	121	100	▲ 21	87	71.9
2 台東	74	73	▲ 1	60	81.1
3 蔵前	187	159	▲ 28	143	76.5
4 寿	221	198	▲ 23	187	84.6
5 西浅草	174	133	▲ 41	126	72.4
6 浅草南	99	83	▲ 16	68	68.7
7 浅草北	173	135	▲ 38	117	67.6
8 今戸	135	114	▲ 21	110	81.5
9 清川	313	253	▲ 60	246	78.6
10 千束	203	161	▲ 42	148	72.9
11 竜泉	212	178	▲ 34	166	78.3
12 根岸	275	219	▲ 56	201	73.1
13 谷中東	159	131	▲ 28	130	81.8
14 谷中西	249	215	▲ 34	207	83.1
15 上野	53	44	▲ 9	37	69.8
16 東上野	72	57	▲ 15	51	70.8
17 北上野	170	140	▲ 30	124	72.9
18 池之端	28	22	▲ 6	19	67.9
19 上野公園	8	4	▲ 4	4	50.0
台東区合計	2,926	2,419	▲ 507	2,231	76.2

※1 「残存率(%)=(平成22年調査で存在が確認された壁面緑化のうち、平成30年調査でも確認された壁面緑化の箇所数)/(平成22年調査で存在が確認された壁面緑化の箇所数)×100」

第 1 1 章 生垣等調査

生垣とは、公道との敷地境界において、高さがほぼ均一な樹木、丸太、竹等の補助材料を用いて、間隔が交互に葉が触れ合う程度に並べて植栽したものをいう。

地先緑化は、公道との敷地境界に樹木、草木等を用いて植栽したものをいう。

1 1.1 調査方法

1 1.1.1 調査対象

生垣は、公道（区道・都道・国道）に接する面に接道部延長が 3 m 以上、高さが 1 m 以上 3 m 未満の植栽がされているものを対象とした。

前回調査において生垣として確認した箇所及び新たに該当する生垣を調査した。

地先緑化は、公道（区道・都道・国道）に接する面に接道部延長が 3 m 以上、幅が 20 cm 以上の植栽がされている箇所で、生垣以外のものを対象とした。

1 1.1.2 調査のながれ

生垣等調査の手順を図 11.1 に示す。

- ① 既存の生垣等台帳等をもとに、現地調査資料を作成した。
- ② 現地調査を行い、生垣の位置を確認し、13.1.3 節に示す各項目の測定等を行った。
- ③ 調査後、データの集計及び新たな図面を作成し、データ解析・評価を行い、生垣等台帳としてとりまとめた。

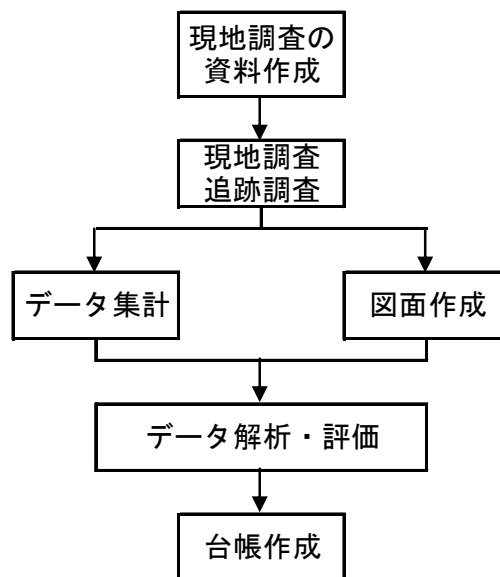


図 11.1 生垣等調査の手順

1 1.1.3 調査項目

調査項目を以下に示す。

- 1) 所在地
- 2) 土地利用形態
- 3) 樹種
- 4) 面積（高さ、幅）
- 5) 形態（生垣、地先緑化）
- 6) 健康度
- 7) 管理状況
- 8) 密度
- 9) 所有者・管理者

1 1.2 調査結果

1 1.2.1 生垣等の現況

台東区全体での延長区別生垣等箇所数を表 11.1 及び図 11.2 に示す。また、図 11.3 に生垣等の分布図を示す。

台東区全域の生垣等の現況は、設置箇所数の合計 2,780 箇所、総延長は 32,741.4 m であった。延長区別でみると、最も多いのは 3～10 m 未満で 1,849 箇所（66.5%）であった。次いで 10～20 m 未満で 585 箇所（21.0%）、20～30 m 未満で 152 箇所（5.5%）の順となった。20 m 未満の規模のものが全体数の約 9 割を占めている。

表 11.1 延長区別生垣等箇所数

延長	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
3～10m未満	1,849	66.5
10～20m未満	585	21.0
20～30m未満	152	5.5
30～40m未満	52	1.9
40～50m未満	55	2.0
50m以上	87	3.1
台東区合計	2,780	100.0

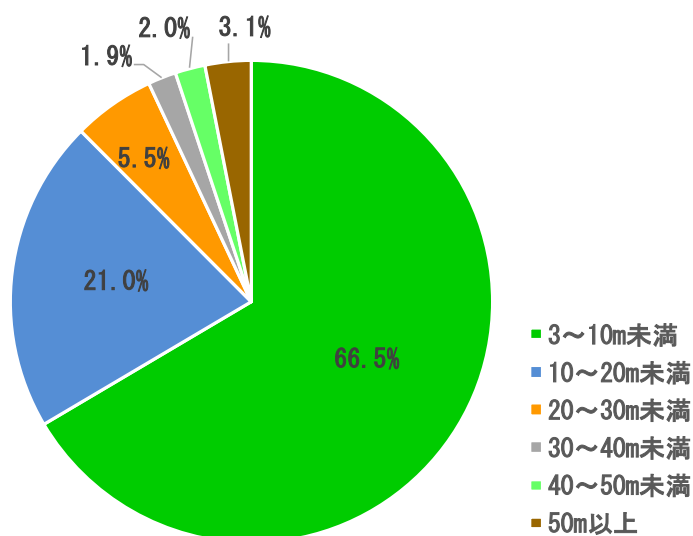


图 11.2 延長区分別生垣等箇所構成比



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

图 11.3 生垣等分布図

表 11.2～11.4 に生垣等の事例を示す。

表 11.2 生垣等の事例①

	ゾーン	13.谷中東
	所在地	上野桜木
	土地利用	寺社
	樹種	カンノンチク
	緑化延長	42.5m
	形態	生垣
	健康度	良
	管理状況	良
密度	密	

表 11.3 生垣等の事例②

	ゾーン	4.寿
	所在地	寿
	土地利用	集合住宅
	樹種	ヤマモミジ ヒメツバキ イヌツゲ ジュニペルス
	緑化延長	73.5m
	形態	地先緑化
	健康度	良
	管理状況	良
密度	密	

表 11.4 生垣等の事例③

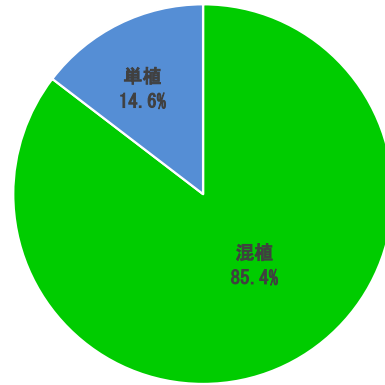
	ゾーン	16.東上野
	所在地	東上野
	土地利用	事業所
	樹種	ホソバヒラギナンテン カンノンチク マサキ
	緑化延長	17m
	形態	地先緑化
	健康度	良
	管理状況	良
密度	密	

生垣等の構成の内訳を表 11.5 及び図 11.4 に示す。

1 種類の樹種で構成される生垣等を「単植」、2 種類以上の樹種で構成させる生垣等を「混植」とすると、台東区全体では、単植が 406 箇所（14.6 %）、混植が 2,374 箇所（85.4 %）となり、混植の方が多い結果となった。

表 11.5 生垣等の構成

構成	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
単植	406	14.6
混植	2,374	85.4
台東区合計	2,780	100.0



生垣等の混植（表左）及び単植（表右）の樹種の内訳を表 11.6 に示す。

混植で最も多い樹種は、ツツジで 581 箇所（7.2 %）、次いでナンテンで 423 箇所（5.3 %）であった。単植で最も多い樹種は、ツツジで 111 箇所（27.3 %）、次いでツゲで 53 箇所（13.0 %）であった。混植、単植ともツツジが最も多く用いられていることが分かった。

表 11.6 生垣等における樹種の内訳（左：混植、右：単植）

樹種	箇所数 (箇所)	構成比 (%)	樹種	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
ツツジ	581	7.2	ツツジ	111	27.3
ナンテン	423	5.3	ツゲ	53	13.0
サザンカ	340	4.2	オオムラサキツツジ	31	7.6
ツバキ	325	4.0	カイツカイブキ	19	4.7
アジサイ	297	3.7	サザンカ	17	4.2
カイツカイブキ	287	3.6	イヌツゲ	12	3.0
アロエ	283	3.5	キツタ	8	2.0
ヤドリフカノキ	250	3.1	タケ	8	2.0
オオムラサキツツジ	238	3.0	ヘデラ	8	2.0
アサガオ	202	2.5	ササ	7	1.7
その他	4,817	59.9	その他	132	32.5
台東区合計(混植のみ)	8,043	100.0	台東区合計(単植のみ)	406	100.0

土地利用別の生垣等の箇所数を表 11.7 及び図 11.5 に示す。

土地利用別にみると、最も多い生垣等の箇所数は個人宅で 1,193 箇所（42.9%）であった。次いで事業所で 776 箇所（27.9%）、集合住宅で 571 箇所（20.5%）の順となった。

土地利用別の平均延長を比較すると、学校が最も長く 43.6 m であった。次いで公園で 41.9 m、公共施設で 41.6 m の順となった。

生垣等の箇所数が多い個人宅や事業所等では、比較的敷地面積が狭いところが多いため、平均延長が短い。学校や公園、公共施設の生垣等は敷地面積が広いいため、平均延長も長くなっている。

表 11.7 土地利用別生垣等箇所数

土地利用	箇所数 (箇所)	構成比 (%)	総延長 (m)	平均延長 (m)
個人宅	1,193	42.9	8,199.2	6.9
事業所	776	27.9	8,672.8	11.1
集合住宅	571	20.5	7,684.8	13.5
公園	64	2.3	2,679.0	41.9
寺社	57	2.1	1,135.0	19.9
公共施設	52	1.9	2,168.6	41.6
学校	46	1.7	2,004.5	43.6
その他	21	0.8	197.5	9.4
台東区合計	2,780	100.0	32,741.4	

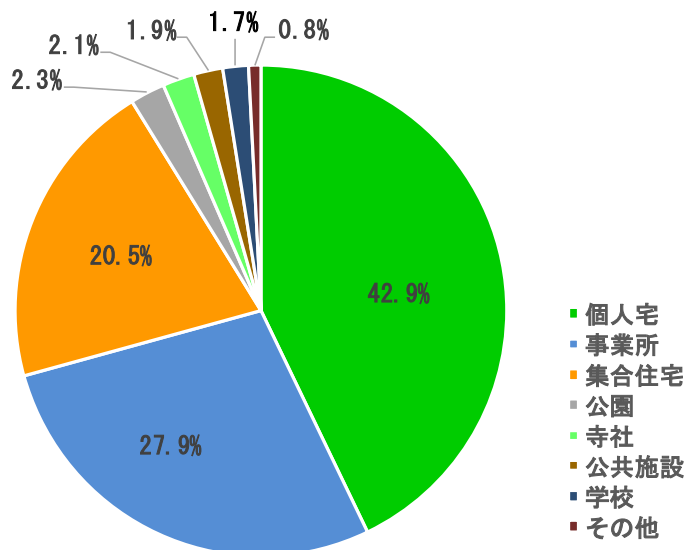


図 11.5 土地利用別生垣等箇所構成比

形態別の生垣等箇所数を表 11.8 及び図 11.6 に示す。
形態別にみると、生垣が 237 箇所（8.5％）に対し、地先緑化は 2,543 箇所（91.5％）となり、生垣よりも地先緑化が多くなっている。

表 11.8 形態別生垣等箇所数

形態	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
生垣	237	8.5
地先緑化	2,543	91.5
台東区合計	2,780	100.0

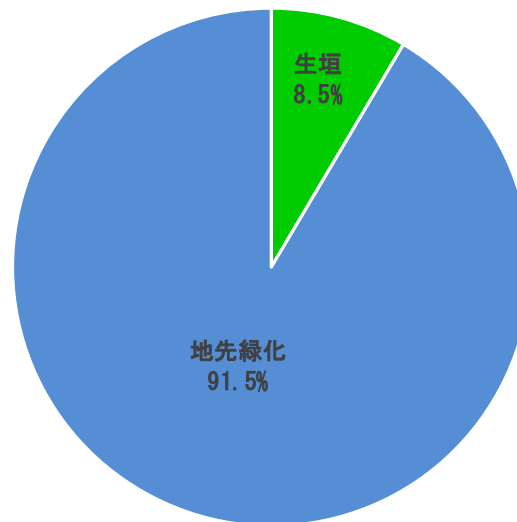


図 11.6 形態別生垣等箇所構成比

1 1.2.2 ゾーン別の生垣等の状況

ゾーン別の生垣等箇所数を表 11.9 及び図 11.7 に示す。

生垣等箇所数は 12.根岸が 246 箇所 (8.9%) で最も多かった。次いで 17.北上野で 217 箇所 (7.8%)、7.浅草北で 216 箇所 (7.8%) の順となった。

全体的にみると、18.池之端及び 19.上野公園のように樹木、樹林など緑被が多い地域は、生垣等は少なくなっている。

表 11.9 ゾーン別生垣等箇所数

ゾーン名	箇所数 (箇所)	構成比 (%)
1 浅草橋	205	7.4
2 台東	104	3.7
3 蔵前	194	7.0
4 寿	140	5.0
5 西浅草	173	6.2
6 浅草南	103	3.7
7 浅草北	216	7.8
8 今戸	65	2.3
9 清川	177	6.4
10 千束	170	6.1
11 竜泉	203	7.3
12 根岸	246	8.9
13 谷中東	108	3.9
14 谷中西	191	6.9
15 上野	76	2.7
16 東上野	150	5.4
17 北上野	217	7.8
18 池之端	37	1.3
19 上野公園	5	0.2
台東区合計	2,780	100.0

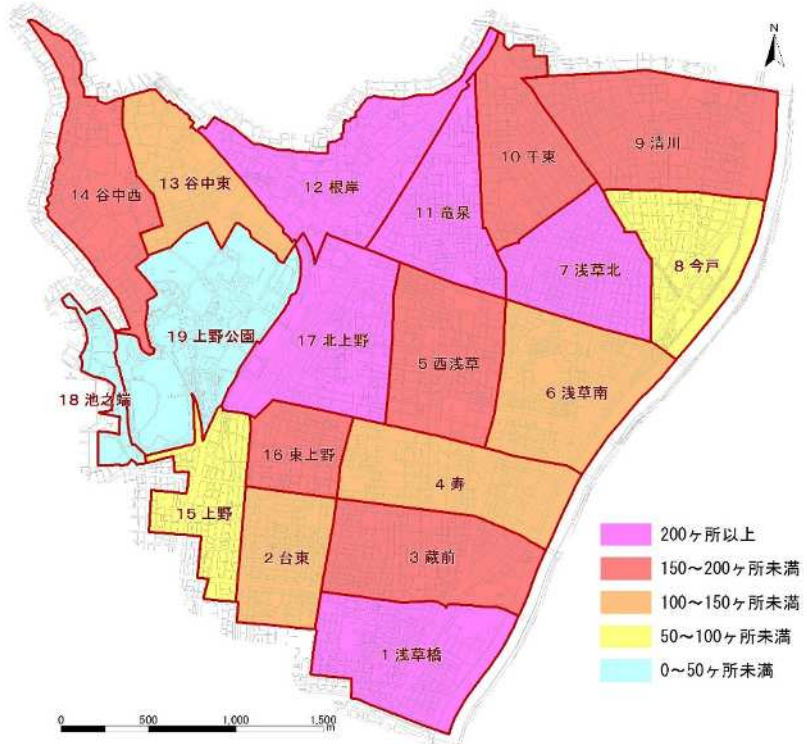


図 11.7 ゾーン別生垣等箇所数

各ゾーンの建物数に占める生垣箇所数 (表左) 及び地先緑化箇所数 (表右) の割合 (生垣率、地先緑化率) を算出した結果を表 11.10 に示す。なお、建物数は「東京都都市計画地理情報システムデータ」の建物データを用いた。

台東区全体の生垣率は 0.6% で、前回調査 (0.6%) と比べると変化は無かった。ゾーン別にみると、最も高いゾーンは 4.寿及び 13.谷中東、14.谷中西がそれぞれ 1.2% であった。次いで 12.根岸及び 18.池之端で 0.9% の順となった。

台東区全体の地先緑化率は 6.4% であった。ゾーン別にみると、16.東上野が 13.1% で最も高かった。次いで 17.北上野で 11.3%、18.池之端で 9.9% の順となった。

表 11.10 ゾーン別生垣率及び地先緑化率（左：生垣箇所数、右：地先緑化箇所数）

ゾーン名	建物数 ^{※1} (棟)	生垣 箇所数 (箇所)	生垣率 ^{※2} (%)	ゾーン名	建物数 ^{※1} (棟)	地先緑化 箇所数 (箇所)	地先 緑 化率 ^{※3} (%)		
1	浅草橋	2,500	11	0.4	1	浅草橋	2,500	194	7.8
2	台東	1,884	4	0.2	2	台東	1,884	100	5.3
3	蔵前	2,830	23	0.8	3	蔵前	2,830	171	6.0
4	寿	2,306	28	1.2	4	寿	2,306	112	4.9
5	西浅草	2,665	6	0.2	5	西浅草	2,665	167	6.3
6	浅草南	2,215	13	0.6	6	浅草南	2,215	90	4.1
7	浅草北	2,945	16	0.5	7	浅草北	2,945	200	6.8
8	今戸	1,455	5	0.3	8	今戸	1,455	60	4.1
9	清川	4,242	26	0.6	9	清川	4,242	151	3.6
10	千束	2,688	12	0.4	10	千束	2,688	158	5.9
11	竜泉	2,347	8	0.3	11	竜泉	2,347	195	8.3
12	根岸	3,054	27	0.9	12	根岸	3,054	219	7.2
13	谷中東	1,017	12	1.2	13	谷中東	1,017	96	9.4
14	谷中西	2,600	32	1.2	14	谷中西	2,600	159	6.1
15	上野	1,349	3	0.2	15	上野	1,349	73	5.4
16	東上野	1,110	5	0.5	16	東上野	1,110	145	13.1
17	北上野	1,897	2	0.1	17	北上野	1,897	215	11.3
18	池之端	342	3	0.9	18	池之端	342	34	9.9
19	上野公園	335	1	0.3	19	上野公園	335	4	1.2
台東区合計		39,781	237	0.6	台東区合計		39,781	2,543	6.4

※1 「東京都都市計画地理情報システムデータ」に納められている建物データを集計

※2 「生垣率(%) = 生垣箇所数/建物数×100」

※3 「地先緑化率(%) = 地先緑化箇所数/建物数×100」

1.1.2.3 生垣の推移

前回調査の平成 22 年（2010 年）と今回調査の平成 30 年（2018 年）の生垣の箇所数の比較を表 11.11 に示す。

生垣の箇所数は区全体でみると、前回調査より、1 箇所増えている。

ゾーン別にみると、最も生垣の箇所数が増えたゾーンは、9.清川及び 12.根岸で 5 箇所であった。また、最も生垣の箇所数が減ったゾーンは、7.浅草北で 7 箇所であった。

生垣の推移を把握するため、同じ箇所に残る生垣の割合である「残存率」を算出した。その結果、台東区全体の生垣箇所の残存率は 87.7 %となっている。

表 11.11 ゾーン別生垣の推移（平成 22（2010）年～平成 30（2018）年）

ゾーン名	箇所数(箇所)		増減	残存数 (箇所)	残存率 ^{※1} (%)
	平成22年 (2010年)	平成30年 (2018年)			
1 浅草橋	8	11	3	7	87.5
2 台東	3	4	1	3	100.0
3 蔵前	25	23	▲ 2	22	88.0
4 寿	28	28	0	28	100.0
5 西浅草	6	6	0	5	83.3
6 浅草南	17	13	▲ 4	13	76.5
7 浅草北	23	16	▲ 7	16	69.6
8 今戸	6	5	▲ 1	5	83.3
9 清川	21	26	5	18	85.7
10 千束	12	12	0	12	100.0
11 竜泉	9	8	▲ 1	7	77.8
12 根岸	22	27	5	22	100.0
13 谷中東	10	12	2	9	90.0
14 谷中西	34	32	▲ 2	30	88.2
15 上野	1	3	2	1	100.0
16 東上野	4	5	1	4	100.0
17 北上野	3	2	▲ 1	2	66.7
18 池之端	3	3	0	2	66.7
19 上野公園	1	1	0	1	100.0
台東区合計	236	237	1	207	87.7

※1 「残存率(%)=(平成 22 年調査で存在が確認された生垣のうち、平成 30 年調査でも確認された生垣の箇所数) / (平成 22 年調査で存在が確認された生垣の箇所数) ×100」

第12章 街路樹等調査

街路樹等とは、台東区内の区道、都道及び国道にある街路樹、植樹帯、植込地(中・低木)をいう。

12.1 調査方法

街路樹等の調査に関しては、公道（区道、都道、国道）に植栽されている街路樹及び植樹帯（中・低木）を対象に、以下の項目について調査を行った。

(1) 航空写真調査

以下の項目について調査を行った。

- ① 緑被地面積
- ② 緑被率

(2) 台帳及びヒアリング調査

以下の項目について調査を行った。

- ① 樹種
- ② 幹周
- ③ 本数
- ④ 歩道植樹帯

12.2 調査結果

12.2.1 道路の緑被率

表 12.1 に土地利用区分が「道路」の緑被率の推移を示す。これによると、平成 30 年度の「道路」の面積は 267.64 ha、緑被地面積は 13.75 ha、緑被率は 5.14 %であった。前回調査時と比較すると、道路面積はほとんど変化がなく、緑被地面積は 5.07 ha の減少、緑被率は 1.90 ポイントの減少となった。図 12.1 に道路と道路上の緑被地の分布図を示す。

表 12.1 道路の緑被率推移

調査年度	道路面積 (ha)	うち緑被地 面積(ha)	面積増減 (ha)	緑被率 (%)	緑被率増減 (ポイント)
平成12年度	281.12	10.47	-	3.72	-
平成22年度	267.42	18.82	8.35	7.04	3.31
平成30年度	267.64	13.75	▲ 5.07	5.14	▲ 1.90

※平成 30 年度の値は平成 28 年度土地利用データより、平成 12 年度及び平成 22 年度の値は前回調査データによる。



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

図 12.1 道路上の緑被地分布図

1 2.2.2 街路樹

管理区分別の街路樹本数を表 12.2 に示す。これによると、本区全体の路線数は 54 路線で街路樹の総数は 5,030 本であった。管理区分別の街路樹数は、区道が 2,626 本(52.2%)でも最も多く、次いで都道が 1,786 本(35.5%)、国道が 618 本(12.3%)となっている。

表 12.2 管理区分別の街路樹本数

管理区分	路線数	本数	構成比
区道	40	2,626	52.2
都道	12	1,786	35.5
国道	2	618	12.3
合計	54	5,030	100.0

※区道は平成 29 年度調査、都道は平成 28 年 4 月 1 日時点の本数

次に、樹種別の街路樹本数を表 12.3 に示す。台東区全体ではプラタナス(スズカケノキ)が最も多く 1,815 本(36.1%)、次いでイチョウが 693 本(13.8%)、ハナミズキが 425 本(8.4%)の順となっている。本区内の街路樹の概略分布図を図 12.2 に示す。

表 12.3 樹種別の街路樹本数

管理区分	樹種別本数												合計
	プラタナス	ハナミズキ	(一葉)サクラ	シダレヤナギ	マロニエ	トウカエデ	トチノキ	アオギリ	サクラ	イチョウ	ヤマモモ	その他	
区道	782	264	281	164	147	135	123	73	72	11	245	329	2,626
都道	952	105	70	0	0	18	0	0	0	240	0	401	1,786
国道	78	56	2	1	0	0	0	0	2	442	0	37	618
合計	1,812	425	353	165	147	153	123	73	74	693	245	767	5,030
構成比(%)	36.0	8.4	7.0	3.3	2.9	3.0	2.4	1.5	1.5	13.8	4.9	15.2	100.0

※区道は平成 29 年度調査、都道は平成 28 年 4 月 1 日時点の本数

※都道ではプラタナス、ハナミズキ、トウカエデ、サクラ、イチョウ以外の樹種は「その他」に含む

前回調査においては、区内の街路樹の総数は 5,344 本であった。今回の調査結果において大幅に減少していることが分かる。



図 12.2 街路樹の概略分布図

※街路樹の位置を概略的に表した。

※管理者によって資料の樹種区分が異なるため、都道沿いではプラタナス、ハナミズキ、トウカエデ、サクラ、イチョウ以外の樹種は、全て「その他」に含まれる。

区道及び国道の街路樹の幹周区分別の本数を表 12.4 に示す。これを見ると、区道の街路樹において、60～90 cm 未満の幹周区分で最も構成比が高く、30 cm 未満と 30～60 cm 未満の構成比も比較的高くなっている。また、国道においては幹周 60 cm 以上の構成比が高いことが分かる。

表 12.4 幹周区分別街路樹本数

幹周区分	区道		都道		国道	
	本数	構成比(%)	本数	構成比(%)	本数	構成比(%)
30cm未満	692	26.4	-	-	164	26.5
30～60cm未満	761	29.0	-	-		
60～90cm未満	1,041	39.6	-	-	454	73.5
90cm以上	132	5.0	-	-		
合計	2,626	100.0	1,786	-	618	100

・都道では幹周り調査が近年行われていないため、空欄とした。

・国道は 60 cm 未満と 60 cm 以上の 2 区分

管理区分別の街路樹植栽率を表 12.5 に示す。街路樹植栽率は、管理区分ごとの道路総延長に占める街路樹が植栽されている道路延長の割合とした。これによると、都道は路線長の 75.9 %において街路樹が植栽されており、次いで国道が 74.3 %、区道が 9.2 %の順となっている。

表 12.5 管理区分別の街路樹植栽率

項目	区道		都道		国道		台東区合計	
	本数	構成比(%)	本数	構成比(%)	本数	構成比(%)	本数	構成比(%)
植栽本数(本)	2,626	52.2	1,786	35.5	618	12.3	5,030	100.0
街路樹が植栽されている道路延長 (km)	21.0	50.0	16.2	38.5	4.9	11.6	42.0	100.0
道路延長 (km)	228.5	89.1	21.3	8.3	6.5	2.6	256.4	100.0
街路樹植栽率(%)	9.2		75.9		74.3		16.4	

表 12.6 及び図 12.3 に、昭和 49 年（1974 年）から平成 30 年（2018 年）までの各調査年度の街路樹数の推移を示す。これによると、区道においては平成 12 年の 3,114 本をピークに街路樹本数が減少しているほか、都道・国道においても減少傾向が続いている。道路全体では、前回調査からの 8 年間で 314 本減少している。

表 12.6 街路樹本数の推移

調査年度	管理区分別本数			合計	増減
	区道	都道	国道		
昭和49年度	2,958	2,562	1,006	6,526	
昭和61年度	2,996	2,352	913	6,261	▲ 265
平成12年度	3,114	2,127	956	6,197	▲ 64
平成22年度	2,755	1,897	692	5,344	▲ 853
平成30年度	2,626	1,786	618	5,030	▲ 314

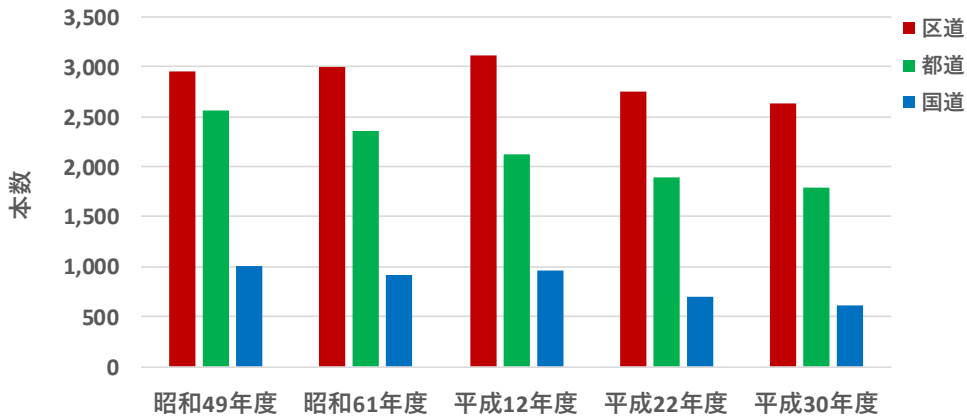


図 12.3 街路樹本数の推移

1 2.2.3 歩道植樹帯の状況

管理区分別の歩道植樹帯の面積を表 12.7 に示す。これによると、都道の歩道植樹帯が 9,276 m² で最も大きく、次いで区道が 7,944 m²、国道が 6,383 m² の順となった。都道は、前回調査時の歩道植樹帯面積が 8,207 m² であったことから、1,069 m² の増加となった。一方、区道の歩道植樹帯面積は前回調査時から 52 m²、国道は同 3,673 m² の減少となり、とくに国道で大幅な減少となった。台東区全域の歩道植樹帯の面積としては、前回調査と比べ 2,656 m² の減少となっている。

表 12.7 管理区分別の歩道植樹帯面積

管理区分	歩道植樹帯面積 (m ²)			平成30年度 構成比 (%)
	平成22年度	平成30年度	増減	
区道	7,996	7,944	▲ 52	33.7
都道	8,207	9,276	1,069	39.3
国道	10,056	6,383	▲ 3,673	27.0
合計	26,259	23,603	▲ 2,656	100.0

- ・歩道植樹帯の面積は、緑地、緑化された中央分離帯の面積
- ・単独柵の面積は集計から除外

12.2.4 ポケットパークの状況

ポケットパークは、火災による延焼拡大を防止し、震災時の防災活動を行う場所として、道路整備や交差点の改良等によって生まれたスペースに植込み地や広場を整備している。今回、ポケットパークは、小規模であることや設置されている場所から、街路樹等調査において調査を行った。

区内には、10箇所のポケットパークがあり、表12.8に各ポケットパークの面積を示す。面積が最も広いポケットパークは、国立博物館横の396.85㎡となっている。なお、図12.2の概略分布図にポケットパークの位置を示している。

表12.8 ポケットパークの一覧と面積

	名称	面積(㎡)
1	谷中霊園入口	30.00
2	社会教育研修所前	74.31
3	合羽橋道具街脇	32.69
4	三ノ輪	37.33
5	雷門中部	161.88
6	国立博物館横	396.85
7	池之端	33.10
8	入谷南	52.00
9	根岸三丁目	70.09
10	根岸四丁目	74.63
	合計	962.88

第13章 緑視率調査

緑視率とは、人が立って見たときの景色の中に映る「緑の量」の割合のことであり、人が視覚的に実感できる緑の量として、みどりに対する満足度、意識を把握するための指標として用いられている。

今後、特定の地点について、継続的にみどりの状況をモニタリングすることで、緑の変化を視覚的に伝える手法として、今回から新たに実施した。

国土交通省の調査（「都市の緑量と心理的効果～調査」平成17年8月12日）によると、『緑は緑地保全、ヒートアイランドの改善などの環境改善機能といった物理的効果に加え、心理的効果（潤い感、安らぎ感、さわやかさなど）が期待される』とされた。一般に、緑視率が25%以上になると、緑が多いと感じる人の割合が高くなる傾向がみられる。

図13.1に本調査における緑視率およそ25%の例を示す。



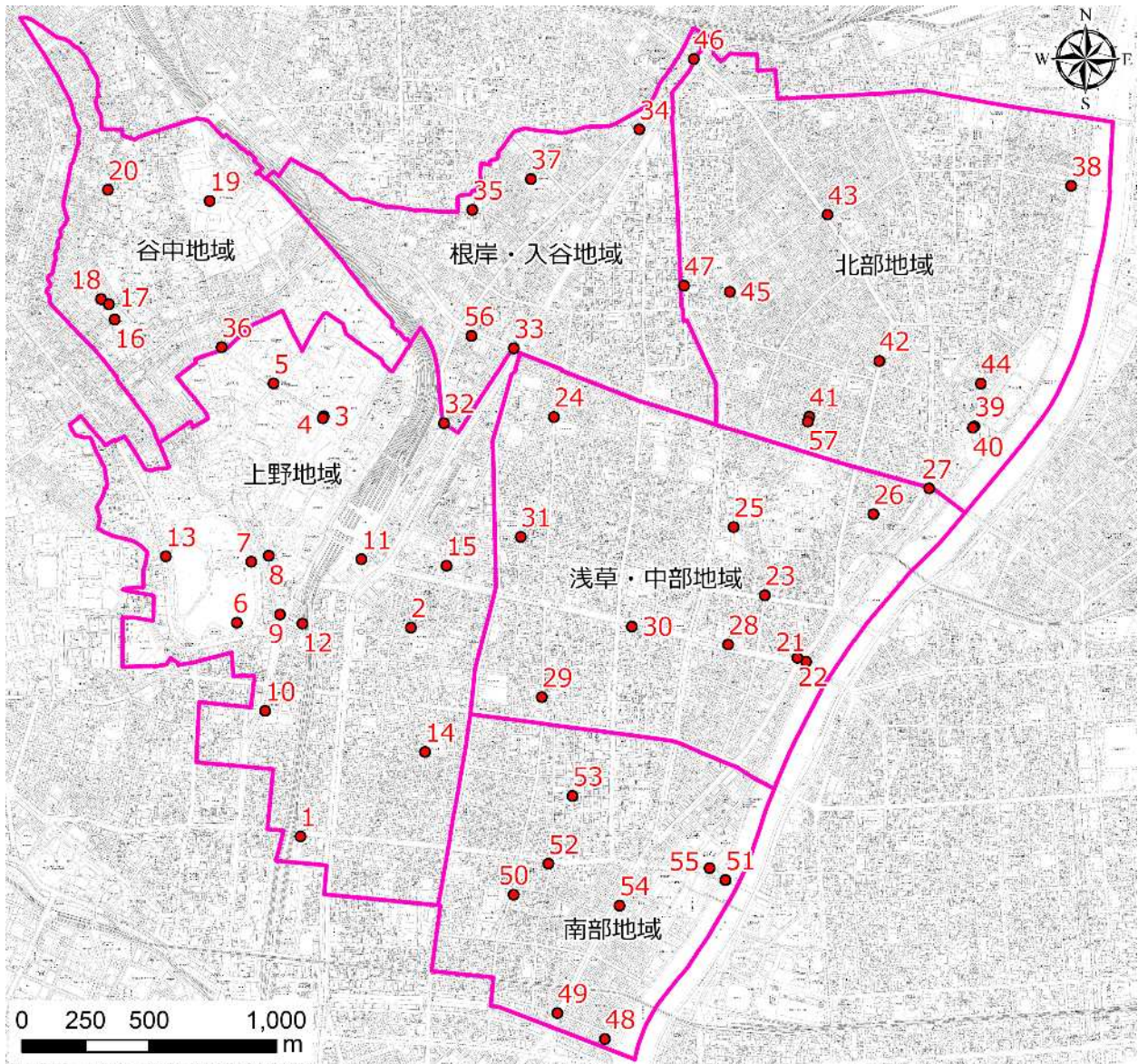
図13.1 緑視率25%程度の事例
(No.1 秋葉原練塀公園 緑視率24.9%)

13.1 調査方法

(1) 調査地点の選定

緑視率を調査する地点は、他の自治体の調査実施状況や緑視率が高まることでの効果や調査目的をふまえ、地域ごとのバランスも考慮しながら、図13.2に示す57箇所を選定した（箇所名は表13.2参照）。

- ・ 多くの人が集う場所
- ・ 緑化を進めたいところ
- ・ 継続的に観測できるところ
- ・ 台東区らしさを感じられるところ



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

※ 地域区分は、「台東区都市計画マスタープラン」の地域区分に従い、6つの地域に区分した。

図 13.2 緑視率調査地点図

(2) 調査方法・算出

調査地点において高さ 1.5m の視点で道路等で水平方向にデジタルカメラ（カメラ視野角：35mm フィルム換算で焦点距離 24mm）を構えて一方向を水平に撮影した。

緑視率は、撮影した写真画像の中に占める緑（葉・枝・幹・草花等）の面積割合を計測し算出した。

$$\therefore \text{緑視率 (\%)} = \text{緑の面積} \div \text{撮影範囲}$$



図 13.3 緑視率のイメージ

13.2 調査結果

13.2.1 各地点の緑視率

表 13.2 に各調査地点の緑視率の一覧表を示す。定点の緑視率では、No.19 谷中霊園の 62.4% が最も高く、次いで、No.55 蔵前橋通り（蔵前郵便局前）が 61.9%、No.8 月の松前が 61.3% の順となった。反対に最も緑視率が低かったのは、No.12 アメヤ横丁の 0.4% であった。一方、イベントの緑視率では、入谷朝顔市で 18.9%、お富士さんの植木市で 31.4% となった。

図 13.4 に、定点における緑視率が最も高かった No.19 谷中霊園と最も低かった No.12 アメヤ横丁の塗りつぶし後の画像を示す。



図 13.4 緑視率の最も高かった地点（左）と低かった地点（右）の画像

1 3.2.2 各地域の緑視率

定点における平均緑視率を表 13.1 及び図 13.5 に示す。これによると、最も平均緑視率が高い地域は「谷中」で 36.5 %、次いで「上野」が 27.5 %となり、反対に、平均緑視率が最も低い地域は「浅草・中部」で 13.2 %であった。

緑が多いと感じる人の割合が高くなるとされる目安の緑視率 25 %を上回る地域は、「上野」と「谷中」の 2 地域となった。「谷中」には谷中霊園、「上野」には上野恩賜公園といったまとまった緑があることが地域の平均緑視率を押し上げていると考えられる。

表 13.1 地域ごとの平均緑視率

地域名	平均緑視率
上野	27.5%
谷中	36.5%
浅草・中部	13.2%
根岸・入谷	18.6%
北部	14.8%
南部	24.1%

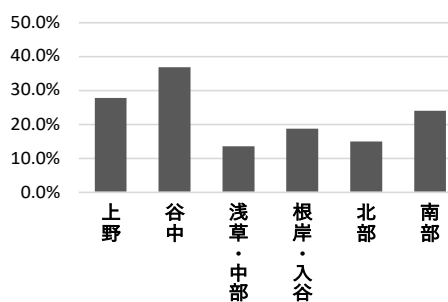


図 13.5 地域ごとの平均緑視率

表 13.2 緑視率調査地点及び緑視率

No	地域区分	場所	緑視率	No	地域区分	場所	緑視率
1	上野	秋葉原練堀公園前	24.9%	32	根岸・入谷	入谷口通り(上野郵便局付近)	21.5%
2		永寿総合病院前	19.5%	33		入谷交差点前	5.5%
3		東京国立博物館前	39.5%	34		金杉通り(下谷三丁目付近)	13.6%
4		上野公園 竹の台広場前	20.4%	35		御行の松通り(根岸三・四丁目付近)	2.3%
5		東京藝術大学前(アークロス前)	36.8%	36		東京藝術大学前(上野桜木会館付近)	39.1%
6		不忍池南側	59.5%	37		金曾木公園前	29.6%
7		上野公園弁天堂東側	36.1%	平均値		18.6%	
8		月の松前	61.3%	38	北部	石浜図書館前	16.6%
9		中央通り(上野公園山下)	12.5%	39		山谷堀公園前(旧今戸橋前)	27.9%
10		中央通り(上野広小路)	12.1%	40		待乳山聖天前	25.0%
11		入谷口通り(上野駅入谷口周辺)	23.9%	41		みちびき花の辻商店街	5.8%
12		アメイ横丁	0.4%	42		馬道通り(浅草五丁目付近)	22.7%
13		横山大観記念館前	15.6%	43		見返り柳前(千束四丁目付近)	2.2%
14		竹町公園前	26.1%	44		今戸神社前	9.7%
15		台東区役所前	23.8%	45		台東病院前	23.7%
平均値			27.5%	46		三ノ輪交差点前	3.3%
16	谷中	三浦坂	15.9%	47		国際通り(鷲神社前)	10.7%
17		大名時計博物館前	53.3%	平均値		14.8%	
18		あかじ坂	31.1%	48	南部	柳橋付近	11.8%
19		谷中霊園	62.4%	49		浅草橋前	13.3%
20		防災広場初音の森前	19.6%	50		左衛門橋通り(都立忍岡高校前)	14.5%
平均値			36.5%	51		蔵前橋通り(首尾の松前)	14.5%
21	浅草・中部	駒形公園前	10.7%	52		鳥越神社前	31.3%
22		並木通り(雷門二丁目付近)	7.3%	53		清川稲荷社・梅森稲荷神社前(三筋一丁目付近)	34.8%
23		オレンジ通り	11.5%	54		須賀橋交番前交差点	10.6%
24		入谷南公園前	23.0%	55		蔵前橋通り(蔵前郵便局前)	61.9%
25		浅草六区(浅草二丁目付近)	5.1%	平均値		24.1%	
26		花川戸公園前(北側)	25.0%	56	入谷朝顔市	18.9%	
27		言問橋前	14.1%	57	お富士さんの植木市	31.4%	
28		浅草通り(田原幼稚園付近)	13.3%	平均値		25.2%	
29		左衛門橋通り(元浅草一丁目付近)	10.1%				
30		浅草通り(菊屋橋付近)	6.9%				
31		上野小学校前	18.2%				
平均値			13.2%				

・ 代表的な緑視率計測地点を以下に示す。



図 13.6 No. 5_東京藝術大学前(アークロス前)【緑視率：36.8%】



図 13.7 No. 10_中央通り（上野広小路）【緑視率：12.1%】



図 13.8 No. 22_並木通り（雷門二丁目付近）【緑視率：7.3%】



図 13.9 No. 25_浅草六区（浅草二丁目付近）【緑視率：5.1%】

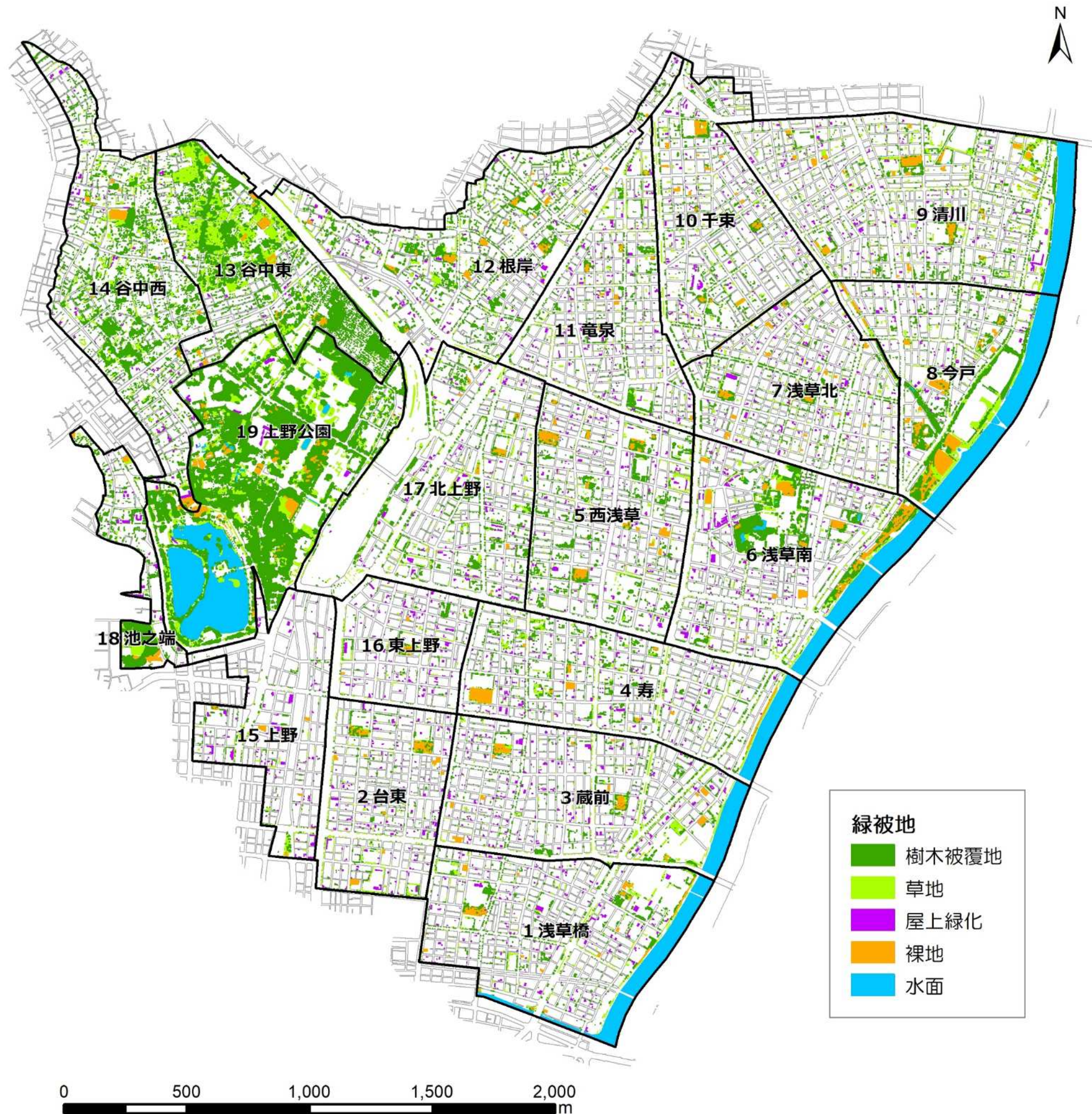


図 13.10 No. 57_お富士さんの植木市【緑視率：31.4%】

各種分布図

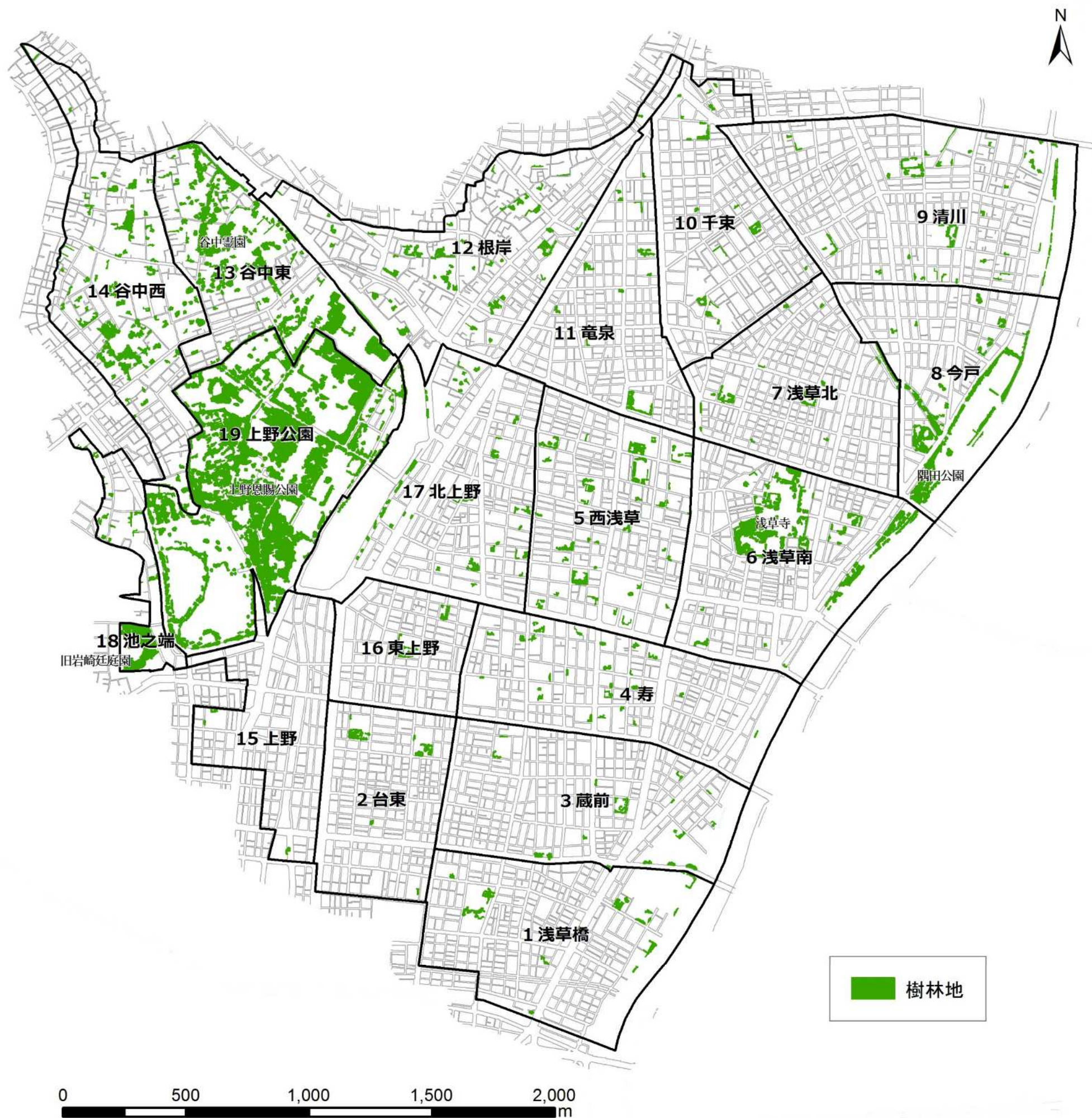
- ・ 緑被地分布図
- ・ 樹林地分布図
- ・ 屋上緑化分布図
- ・ 樹林（大径木）分布図
- ・ 壁面緑化分布図
- ・ 生垣等分布図
- ・ 道路上の緑被地分布図

緑被地分布図



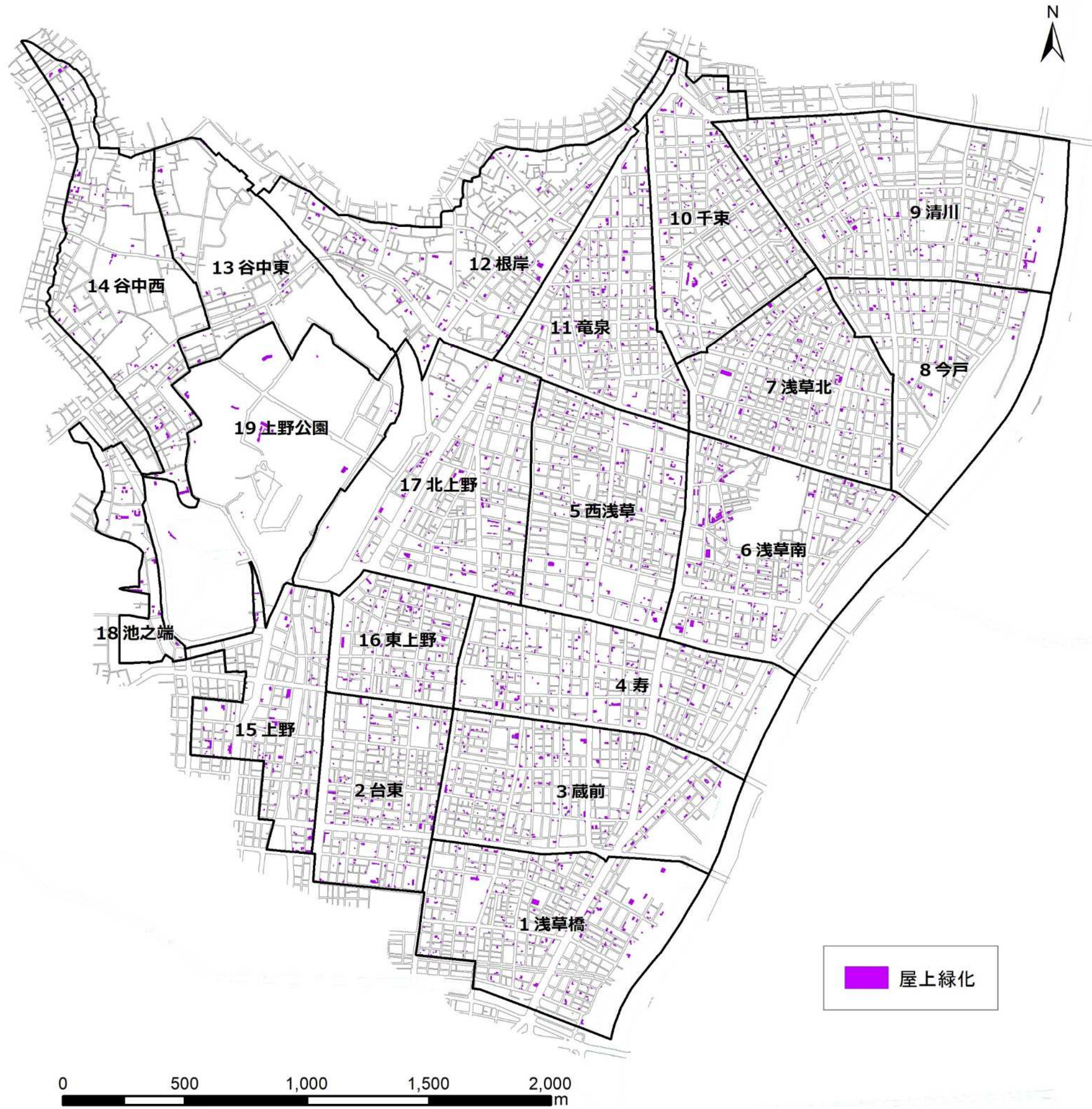
0 500 1,000 1,500 2,000 m

樹林地分布図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

屋上緑化分布図



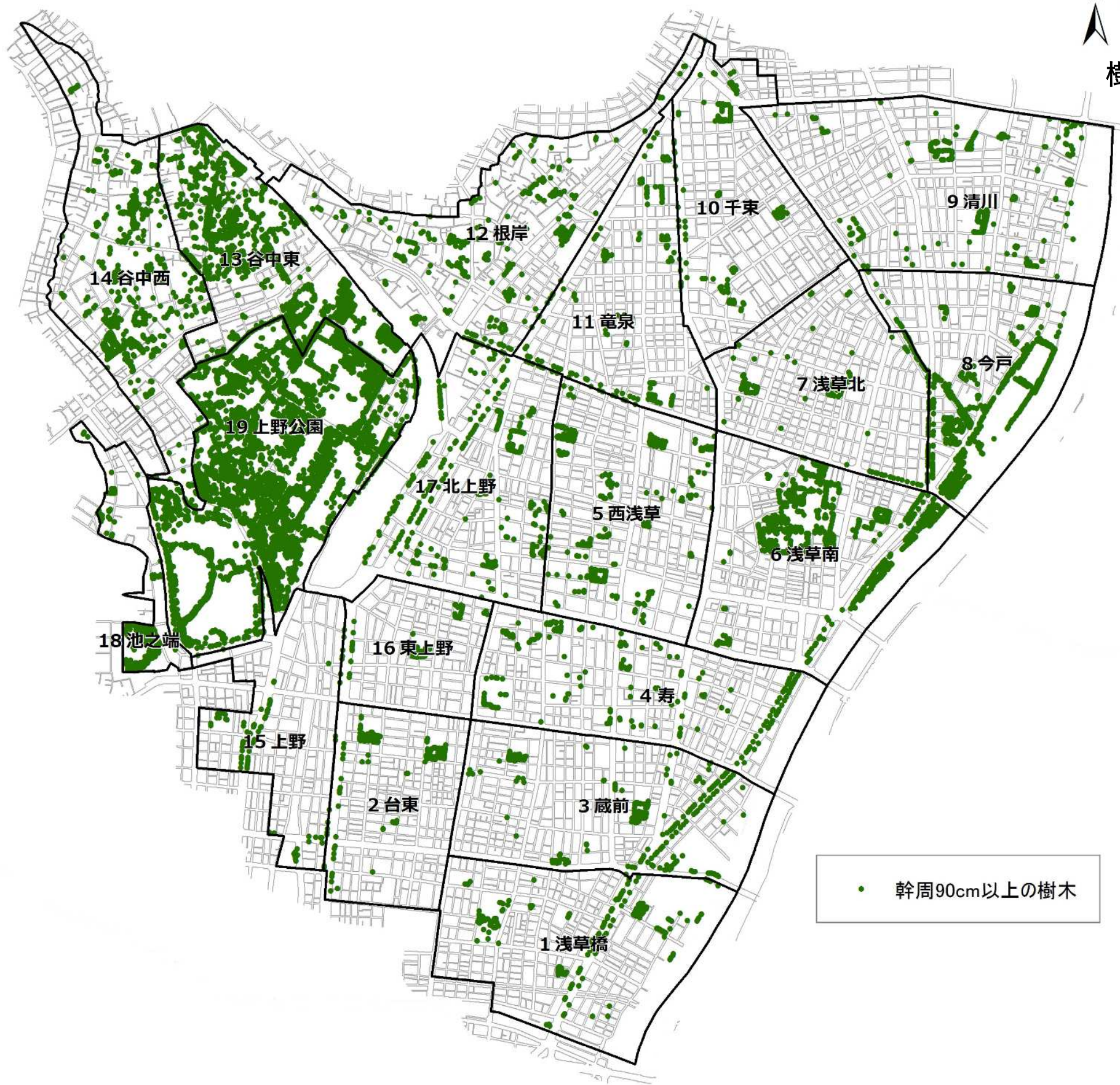
屋上緑化

0 500 1,000 1,500 2,000 m

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号



樹木（大径木）分布図

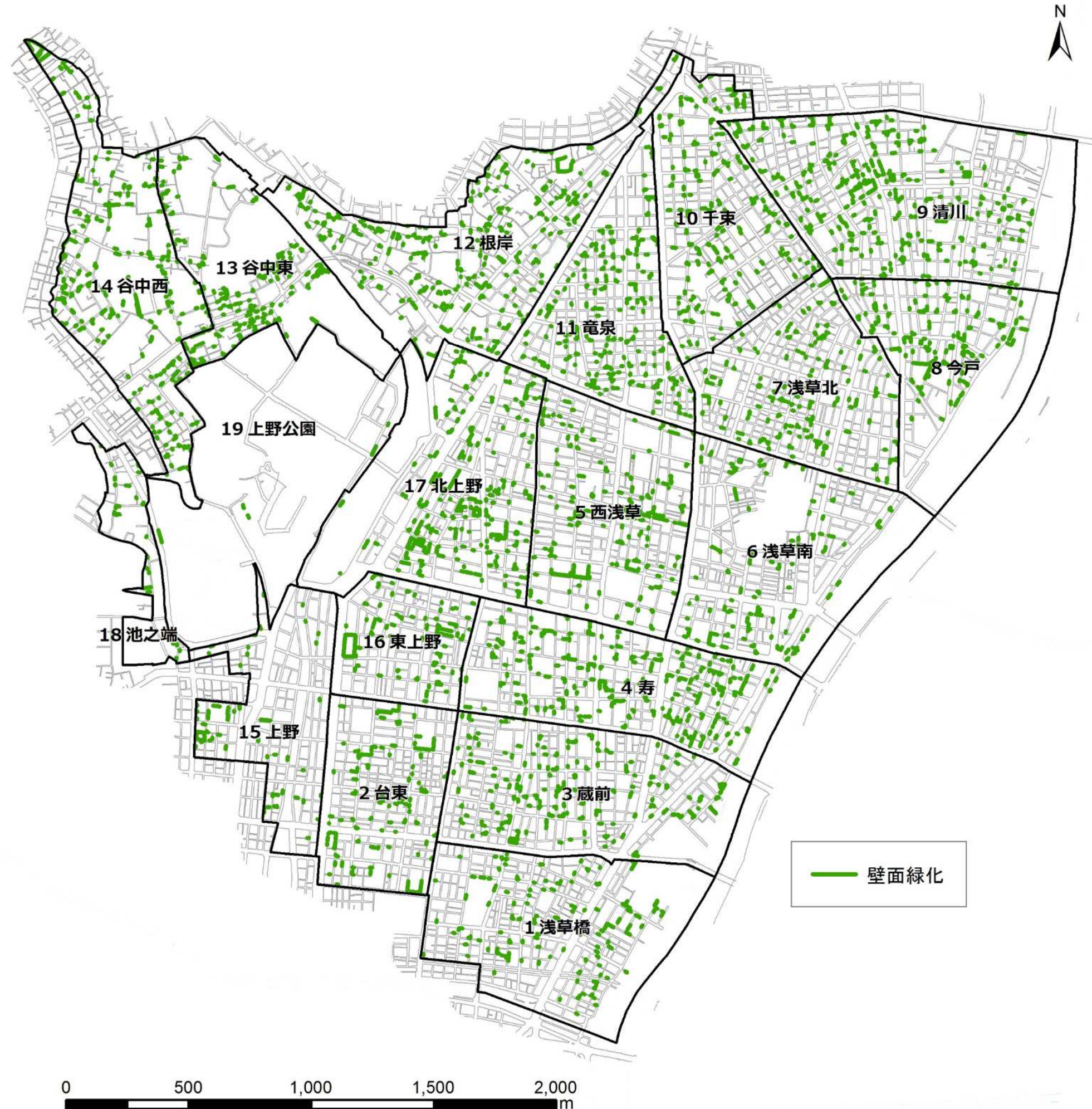


● 幹周90cm以上の樹木



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

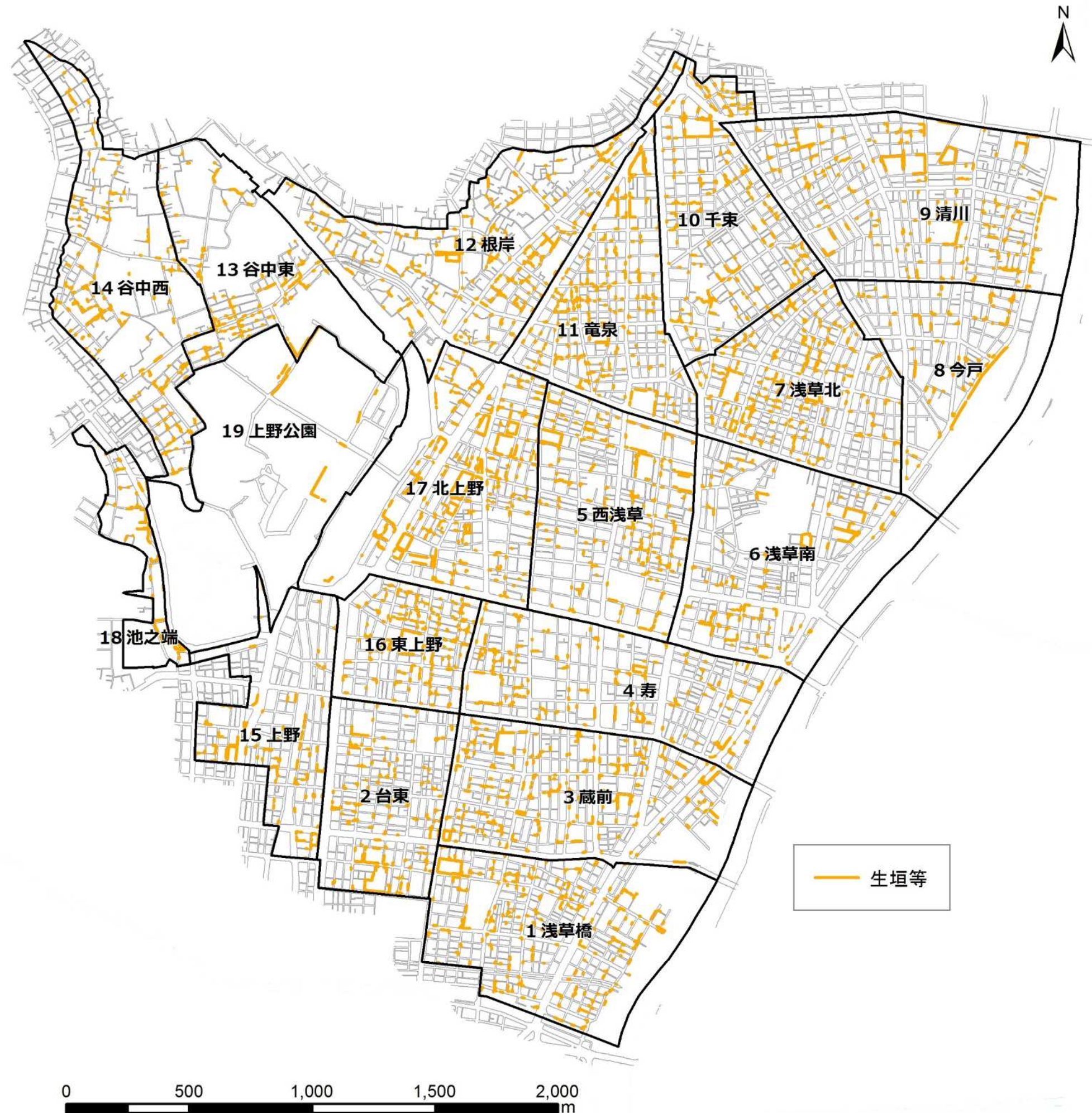
壁面緑化分布図



0 500 1,000 1,500 2,000 m

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

生垣等分布図

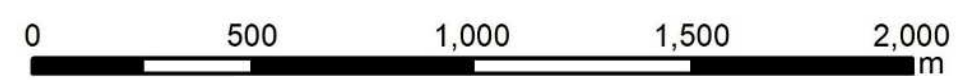
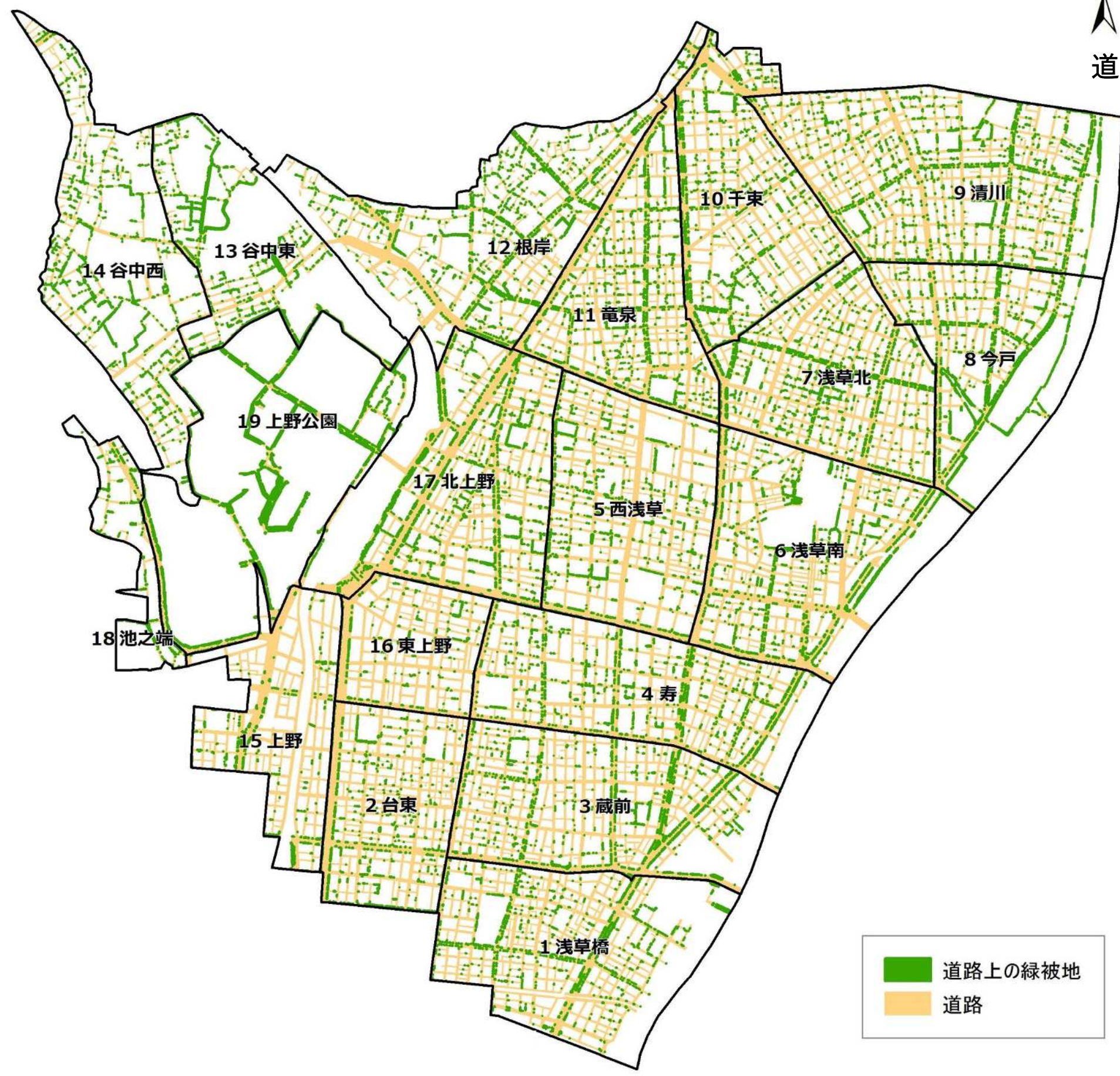


0 500 1,000 1,500 2,000 m

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号



道路上の緑被地分布図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号)30 都市基交著第 136 号

